

## はじめに

愛知県陶磁美術館は、陶磁に関する美術的、歴史的、産業的に貴重な資料を収集・保存、展示及び調査・研究を進めることにより、陶磁文化の普及・向上と陶磁器産業の振興に資することを目的に設置されました。

資料の収集は昭和 48 年度から開始し、3 件の重要文化財を含む陶磁を中心としたコレクションを収蔵しております。令和 3 年度には新たに 197 件を収集し、当館コレクションの総数は 8,297 件となりました。

昭和 53 年 6 月の開館以来、国内屈指の陶磁専門ミュージアムとして、日本やアジアを始めとする世界各地の様々なやきものの魅力を紹介してまいりました。令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をとりつつ、各種の展覧会や教育・普及事業を開催し、多様な情報発信を展開しました。また、これら各事業の基盤となる調査・研究活動にも取り組みました。

ここに、令和 3 年度の事業結果をとりまとめました。今後とも、当館の運営に御支援と御協力を賜りますようお願いいたします。

令和 4 年 7 月

愛知県陶磁美術館

# 目 次

I	事業及び施設の概要	3
II	令和3年度事業	
	[基幹事業]	5
1	展示	5
	(1) 特別展・企画展・特集展示・テーマ展 6 / (2) 常設展 12	
	(3) 館外展示 14 / (4) 展示什器の改修 14	
	(5) 特別展・企画展の事業評価 15	
2	資料	17
	(1) 資料収集 17 / (2) 資料の活用 28	
	(3) 文化財指定 30	
3	調査・研究	31
	(1) 調査事業等 31 / (2) 研究論文・研究発表 31	
	(3) 研究紀要 33	
4	教育・普及	34
	(1) 教育講座(館内) 34 / (2) 教育講座(館外) 37	
	(3) 子ども向け事業 37 / (4) 学校教育との連携事業 37	
	(5) ボランティア活動 40 / (6) 他団体との連携活動 40	
	(7) ギャラリーの貸出 45	
5	陶芸館	46
	(1) 通年事業 46 / (2) 定例事業 47	
	(3) 展示連携事業 50 / (4) その他連携事業 51	
	[展開事業]	52
6	陶磁文化連携情報発信事業	52
7	現代陶芸魅力発信事業	53
8	魅力向上推進事業	55
	[統括事業]	56
9	広報・宣伝活動のあらまし	56
10	事業活性化の取組	58
11	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のあらまし	60
III	参考資料	61
1	沿革	61
	[経営]	
2	組織及び事務分掌	63
3	収支予算	64
4	愛知県陶磁美術館運営会議	65
5	愛知県陶磁美術館資料委員会	66
	[利用]	
6	利用者の状況	69
7	展覧会別観覧者状況一覧	72
8	展覧会別収支決算状況	74
9	陶芸館利用	75
	[施設平面図]	
10	施設の規模と配置	76

# I 事業及び施設の概要

## 1 事業の概要

愛知県陶磁美術館は、美術的、歴史的、産業的に貴重な陶磁資料の保存を図り、陶磁文化の普及・向上と陶磁器産業の振興に寄与するため、陶磁器及び陶磁器に関する資料の収集、保存、展示及び調査研究並びに県民のやきものづくり体験の事業を行っている。

愛知県陶磁美術館条例（抜粋）

（設置）

第一条 陶磁文化の振興及び陶磁器に関する文化財の保存並びに住民の陶芸に対する教養の向上を図り、併せて陶磁器産業の発展に寄与するため、愛知県陶磁美術館（以下「美術館」という。）を瀬戸市に設置する。

愛知県陶磁美術館基本理念

「土」という自然素材を焼くことにより生み出されたやきものは、原始時代から現代まで、世界中の人々の生活に不可欠なものとして、暮らしと産業を支えてきました。同時にやきものの特徴である文様や造形、土や釉薬の輝きや色などは、我々の美的感性や創造性を刺激し、現在も多くの芸術作品が生み出されています。

当館は、こうしたかけがえのない歴史的文化財や芸術作品など、様々な魅力を湛えたやきものを中心とした美術館として、多くの人々に鑑賞、制作、学習等の機会を提供することにより、人々の知性と感性を高め、創造的で多様性のある心豊かな地域社会の実現を目指します。

### （1）展示

陶磁文化の普及・向上のため、各種の展示活動を実施している。

本館では美術的、歴史的陶磁資料を中心に、古代から現代までの日本及び世界の陶磁の常設展示を開催している。さらに特別展や企画展では、さまざまなテーマによって、時間的、空間的、分野的に幅広い種類の陶磁作品を紹介している。

南館では愛知のやきものをテーマに、現在の瀬戸・常滑・名古屋周辺・高浜周辺をとりあげ、愛知の陶磁史も併せて紹介している。

西館では、郷土の民俗文化財である陶磁のこま犬を常設展示してきた。本展示はプロジェクト「リ・デザイン・狛犬」の一環として本館ロビーに移設し新たな展示をスタートさせた。

古窯館では、発掘調査された窖窯を現地保存、公開している。近接地では、発掘調査された古代瓦窯を豊橋市より移設、保存公開するほか、近世の大窯及び連房式登窯を復元、公開している。

### （2）資料

日本陶磁史の全体像を系統的に理解できるよう、全国の主要な窯業地の陶磁器、海外の代表的な窯業地の陶磁器、国内外の現代陶芸作品、陶磁器産業資料及び窯業関連資料の収集を図ることを基本方針としている。

### （3）調査・研究

陶磁や博物館等に関する調査・研究に取り組み、その成果を館内外で情報発信している。

### （4）教育・普及

陶磁文化の普及・向上を目指し、展覧会の理解をより深めるための講演会、ギャラリートーク、ワークショップなどを開催している。また、小中学校、高校、特別支援学校や大学など学校教育との連携事業や、地域の施設、団体との連携事業に取り組んでいる。

さらに館の活動を紹介するため、広報宣伝用印刷物の作成と配布、公式 WEB ページや SNS での情報提供など広報活動を行っている。

### （5）陶芸館

教育・普及事業の一環として、陶芸実習の希望者に対し通年で陶芸指導を行うとともに、例年の陶芸教室や復元古窯焼成実験、展示と連携したワークショップなどを開催している。

## 2 施設の概要

### (1) 所在地

愛知県瀬戸市南山口町 234 番地

### (2) 規模

・ 敷 地	280,480.47 m <sup>2</sup>			
・ 建築面積／延床面積／基本構造				
総 計	10,228.88 m <sup>2</sup>	／	20,968.60 m <sup>2</sup>	
本 館	6,387.00 m <sup>2</sup>	／	14,792.45 m <sup>2</sup>	／ 地上 3 階地下 1 階建 鉄骨鉄筋コンクリート造り
南 館	1,475.42 m <sup>2</sup>	／	1,519.39 m <sup>2</sup>	／ 平屋一部 2 階建 鉄骨鉄筋コンクリート造り
西 館	275.50 m <sup>2</sup>	／	232.75 m <sup>2</sup>	／ 平屋建 鉄筋コンクリート造り
陶芸館	1,442.25 m <sup>2</sup>	／	3,541.41 m <sup>2</sup>	／ 地上 1 階地下 2 階建 鉄筋コンクリート造り
古窯館	360.79 m <sup>2</sup>	／	344.00 m <sup>2</sup>	／ 平屋建 鉄骨造り
茶 室	160.36 m <sup>2</sup>	／	148.23 m <sup>2</sup>	／ 平屋建 鉄筋コンクリート造り
その他	127.56 m <sup>2</sup>	／	390.37 m <sup>2</sup>	

### (3) 開館時期

本 館	昭和 54 年 10 月 13 日	(工期 昭和 52 年 12 月 23 日 ~ 昭和 54 年 3 月 20 日)
	平成 6 年 7 月 6 日 [増築開館]	(工期 平成 3 年 10 月 16 日 ~ 平成 5 年 11 月 30 日)
南 館	昭和 53 年 6 月 1 日	(工期 昭和 51 年 12 月 25 日 ~ 昭和 53 年 3 月 20 日)
西 館	昭和 57 年 12 月 4 日	(工期 昭和 57 年 6 月 30 日 ~ 昭和 57 年 12 月 4 日)
陶芸館	昭和 61 年 4 月 12 日	(工期 昭和 60 年 10 月 3 日 ~ 昭和 61 年 3 月 20 日)
	平成 6 年 4 月 1 日 [増築開館]	(工期 平成 3 年 10 月 16 日 ~ 平成 5 年 11 月 30 日)
古窯館	平成 6 年 4 月 1 日	(工期 平成 4 年 9 月 29 日 ~ 平成 5 年 3 月 18 日)
茶 室	昭和 56 年 11 月 26 日	(工期 昭和 56 年 5 月 1 日 ~ 昭和 56 年 11 月 26 日)

### (4) 博物館法、文化財保護法上の位置付け

博物館相当施設 (博物館法第 29 条)

重要文化財公開承認施設 (文化財保護法第 53 条)



本 館



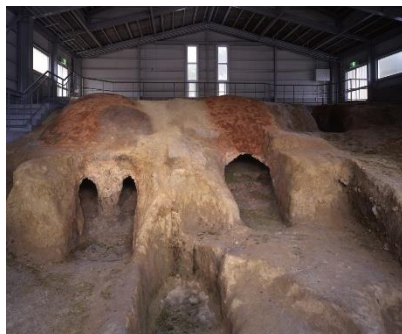
南 館



西 館



陶芸館



古窯館



茶 室

## II 令和3年度事業

### 1 展示

古代から現代までの日本及び世界の陶磁、あるいは国内外の優れた陶芸家の作品などを、様々なテーマによって幅広く紹介した。

<令和3年度展示一覧>

展示種別	展示名称 / 会期	掲載頁	
特別展	「海を渡った古伊万里 ～ウィーン、ロースドルフ城の悲劇～」 会期：令和3年4月10日(土)～6月13日(日)	6頁	
	「華＊花 ー四季の花と中国陶磁史ー」 会期：令和3年10月9日(土)～12月12日(日)	7頁	
企画展	「水滴 小さき陶芸 ー大島国康コレクションを中心にー」 会期：令和3年6月26日(土)～9月26日(日)	8頁	
	「昭和レトロモダン ー洋食器とデザイン画ー」 会期：令和4年1月8日(土)～3月21日(月・祝)	9頁	
特集展示	「喫茶の碗の物語 ー中国陶磁への憧れ、そして・・・」 会期：令和3年10月9日(土)～12月12日(日)	10頁	
テーマ展	本館 「愛知の新たな宝 ー近年収蔵の重要古陶磁ー」 会期：令和3年6月26日(土)～9月26日(日)	10頁	
	本館 若手作家紹介事業01「やきもの現代考「内々外」」 会期：令和4年1月22日(土)～3月27日(日)	10頁 /54頁	
	南館	「愛知のやきもの・伝統の継承 ー伝えるべき大切な技から、新しいかたち生まれる」 会期：令和3年4月1日(木)～6月27日(日)	11頁
		「瀬戸ノベルティ de フィギュア動物園」 会期：令和3年6月30日(水)～9月26日(日)	
		「愛知のやきもので彩るクリスマスと冬のテーブル」 会期：令和3年9月29日(水)～12月26日(日)	
南館 「愛知やきものプロダクト・デザイン」 会期：令和4年1月5日(水)～3月27日(日)			
常設展	本館 「日本と世界のやきもの」 会期：令和3年4月1日(木)～令和4年3月31日(木)	12頁	
	本館 「現代陶芸 ー越境への誘いー」 会期：令和3年4月1日(木)～令和4年3月31日(木)	12頁	
	本館 「瀬戸・常滑作家コーナー」 会期：令和3年4月1日(木)～令和4年3月31日(木)	13頁	
	本館 「リ・デザイン・狛犬」 会期：令和4年1月8日(土)～3月31日(木)	13頁 /53頁	
	南館 「もっと伝えたい、愛知のやきもの」 会期：令和3年4月1日(木)～令和4年3月31日(木)	13頁	
西館 「陶磁のこま犬百面相」 会期：令和3年4月1日(木)～12月12日(日)	13頁		
館外展示	移動美術館2021 愛知県美術館・愛知県陶磁美術館コレクションから 会場：田原市博物館 会期：令和3年6月26日(土)～8月15日(日)	14頁	
	サテライト展示「民藝運動とやきもの」 会場：愛知芸術文化センター地下1階フォーラム 会期：令和3年4月1日(木)～令和4年3月31日(木)		
	愛知用水関連資料等特別展示 会場：愛知用水総合管理所 会期：令和3年4月1日(木)～令和4年3月31日(木)		

\*「本館」における展示は、令和3年12月13日(月)から令和4年1月4日(火)にかけて、工事等のため休館した。

## (1) 特別展・企画展・特集展示・テーマ展

### ① 特別展「海を渡った古伊万里 ～ウィーン、ロースドルフ城の悲劇～」

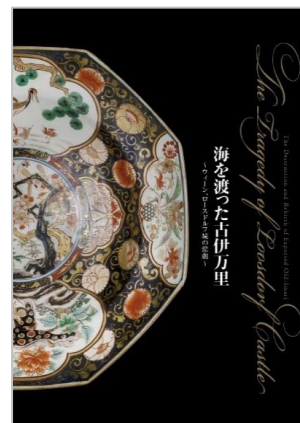
オーストリア、ウィーン郊外の古城ロースドルフ城が所蔵し、かつて旧ソ連軍の侵攻により大規模な破壊を受けた東洋の磁器コレクションにスポットを当てた展覧会である。

本展では、日本国内の古伊万里の名品とともに、ロースドルフ城の陶磁コレクションを展覧し、さらには、最新の修復技術により「破壊」された陶片から、かつての作品を復元し「再生」した作品までを展示紹介した。

会 期	4月10日(土)～6月13日(日)
開館日数	56日
会 場	本館1階 第1・第2・第8展示室
主 催	愛知県陶磁美術館、中日新聞社
特別協力	ロースドルフ城ピアッティ家、 一般社団法人古伊万里再生プロジェクト、 佐賀県立九州陶磁文化館
企画協力	株式会社キュレーターズ
後 援	愛知県教育委員会、愛知高速交通株式会社 オーストリア大使館 ／オーストリア文化フォーラム、日澳協会
出品件数	193件
観覧者数	6,689人
普及出版	図録 (B5 変形判 200頁) ポスター (B2、B3) チラシ (A4 (2種))



A4 チラシ



図録表紙

#### 主要教育・普及事業

- ◇記念講演会Ⅰ「破壊された陶磁の語る宮廷文化」  
4月10日(土) 午後1時30分～3時 講堂  
講師：荒川正明氏 (本展監修者、学習院大学教授)
- ◇記念講演会Ⅱ「ウィーン万国博覧会とロースドルフ城の陶磁コレクション」  
5月1日(土) 午後1時30分～3時 講堂  
講師：森谷美保氏 (本展企画協力者、美術史家)
- ◇特別対談「陶磁器修復の世界」  
4月11日(日) 午後1時30分～3時 講堂  
講師：繭山浩司氏 (修復家)・荒川正明氏 (本展監修者、学習院大学教授)

※下記の教育・普及事業については、34頁・50頁を参照

- 学芸員による連続講座「入門編! 海を渡った陶磁器」
- 学芸員・佐久間真子によるギャラリートーク
- ワークショップ「重ねて描く」

#### 主要関連記事

- ◇新聞
  - 「『海を渡った古伊万里』展 国内外の伊万里焼など約200点展示」 (中日スポーツ 令和3年2月21日)
  - 「海を渡った古伊万里～ウィーン、ロースドルフ城の悲劇～」 (中日新聞 令和3年3月31日)
  - 連載「特別展 海を渡った古伊万里」 (中日新聞 4月18日、4月20日)
  - 「輸出古伊万里 陶片の美」 (中日新聞 4月29日)
  - 「海を渡った古伊万里」 (陶業時報 5月1日)
  - 「海を渡った古伊万里 『破壊と再生』テーマに」 (朝日新聞 5月4日)
  - 「陶片が語る戦争の影 瀬戸で『海を渡った古伊万里』展」 (中日新聞 5月8日)

#### ◇テレビ

- 「前略、大とくさん」 (中京テレビ 4月11日)
- 「イッポウ」 (CBCテレビ 4月13日)
- 「まるっと!」 (NHK名古屋 5月27日)

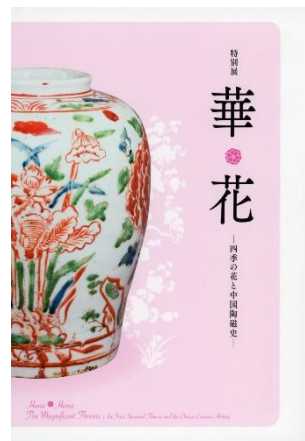
## ② 特別展「華＊花 ー四季の花と中国陶磁史ー」

中華の美しい花という意味を込めた本展では、四季を彩る牡丹・蓮・菊・梅に焦点を当て、多種多様な中国陶磁の花文様を紹介した。花の色彩や技法に加え、中国古典や漢詩、花の鑑賞史等の視点から花の魅力に迫った。

会 期	10月9日(土)ー12月12日(日)
開館日数	56日
会 場	本館1階 第1・第2展示室
主 催	愛知県陶磁美術館、朝日新聞社
後 援	愛知県教育委員会、愛知高速交通株式会社
備 考	文化庁令和3年度地域ゆかりの文化遺産を活用した 展覧会支援事業
出品件数	91点
観覧者数	6,438人
普及出版	図録 (B5 変形判 112頁) ポスター (B2、B3) チラシ (A4 (2種))



A4 チラシ



図録表紙

### 教育・普及事業

#### ◇担当学芸員による連続講座

10月24日(日)「華＊花 牡丹」

11月14日(日)「華＊花 蓮」

11月28日(日)「華＊花 菊」

12月12日(日)「華＊花 梅」

各日ともに午後1時30分ー3時 講堂

講師：田畑 潤 (学芸員)

#### ◇担当学芸員による中国茶会と講座

\*飲食を伴う講座として企画したが、会期開始直前期における新型コロナウイルス感染症の流行動向を踏まえ、同拡大防止対策のため中止とした。

#### ◇担当学芸員によるギャラリートーク

10月16日(土)、10月30日(土)、11月6日(土)、11月20日(土)、

12月4日(土)、12月11日(土)、各回ともに午後1時30分ー2時30分

#### ◇ワークショップ「掻き＊花器 掻落し技法による花器作りといけばな体験」

10月10日(日)「花器作り」

午前10時30分ー3時30分 陶芸館

10月17日(日)「特別鑑賞・掻落し」

午前10時30分ー3時30分 本館第1展示室・会議室、陶芸館

12月5日(日)「いけばな」

午後1時30分ー3時30分 本館ロビー

講師：加藤清之氏 (陶芸作家)

### 主要関連記事

#### ◇新聞

「華＊花展」(朝日新聞 令和3年2月22日)

「特別展「華＊花」きょうから」(朝日新聞 10月9日)

「中国陶磁特別展「華＊花」が開幕」(朝日新聞 10月10日)

「技法と色彩に込められた花物語」(陶業時報 11月1日)

「愛知県陶磁美術館で特別展」(聖教新聞 11月9日)

「中国陶磁史に花の表現たどる」(朝日新聞 11月18日)

「花に関わる名品紹介「華＊花 四季の花と中国陶磁史」」(花卉園芸新聞 令和4年2月15日)

#### ◇雑誌

「華＊花 ー四季の花と中国陶磁史ー」(『陶説』821号)

「特別展『華＊花-四季の花と中国陶磁史-』第1回」(『JAPPI NEWSLETTER』No. 268)

「特別展『華＊花-四季の花と中国陶磁史-』第2回」(『JAPPI NEWSLETTER』No. 269)

### ③ 企画展「水滴 小さき陶芸 ー大島国康コレクションを中心にー」

令和2年度に大島国康氏より当館へ「陶磁水滴コレクション」計1,062点が寄贈されたことを受け、同コレクションにより陶磁製水滴の世界を概観するとともに、茶入、香合など当館の小型古陶磁を合わせて展示紹介した。

会 期	6月26日(土)ー9月26日(日)
開館日数	80日
会 場	本館1階 第1展示室
主 催	愛知県陶磁美術館、中日新聞社
後 援	愛知県教育委員会、愛知高速交通株式会社
出品件数	430点
観覧者数	5,203人
普及出版	図録 (A4 変形判 80頁) ポスター (B2) チラシ (A4 (2種))

#### 教育・普及事業

##### ◇記念講座・ワークショップ「水と硯」

8月22日(日) 午後1時30分ー3時30分 陶芸館

講師：五代名倉鳳山氏

##### ◇講座「陶磁水滴コレクションー大島コレクションの世界」

7月4日(日) 午後1時30分ー3時 講堂

講師：小川裕紀 (主任学芸員)

##### ◇講座「やきものマイクロズムー愛知県陶磁美術館の小さなやきもの宇宙」

9月5日(日) 午後1時30分ー3時 講堂

講師：宮川菜々子 (学芸員)

##### ◇ワークショップ「古瀬戸水滴の鑑賞と制作」

7月11日(日) 午後1時30分ー3時30分 陶芸館

講師：岩渕 寛 (陶芸指導員)、小川裕紀 (主任学芸員)

##### ◇ワークショップ「平面から DOGUー立ち上がれ小さき人々」

8月1日(日) 午後1時30分ー3時30分 陶芸館

講師：清水美香子 (陶芸指導員)、宮川菜々子 (学芸員)

##### ◇お迎え花：聖生流、石田流

#### 主要関連記事

##### ◇新聞

「企画展『水滴 小さき陶芸』開幕」(中部経済新聞 6月28日)

小川裕紀 「ハスの花「用の美」極致」(中日新聞 7月1日)

宮川菜々子「キラキラ独自の世界観」(中日新聞 7月2日)

「陶製の水滴 変遷たどる」(中日新聞 7月2日)

美・博ノート「鉄釉印花蓮弁文水滴」(朝日新聞夕刊 8月10日)

美・博ノート「灰釉印文梅鶯図角形水滴」(朝日新聞夕刊 8月24日)

美・博ノート「色絵招き猫担ぎ童子形水滴」(朝日新聞夕刊 8月31日)

##### ◇雑誌

「水滴 小さき陶芸ー大島国康コレクションを中心にー」(『陶説』818号 7月1日刊行)

「企画展『水滴 小さき陶芸ー大島国康コレクションを中心にー』」(『JAPPI NEWSLETTER』No.267 8月1日刊行)

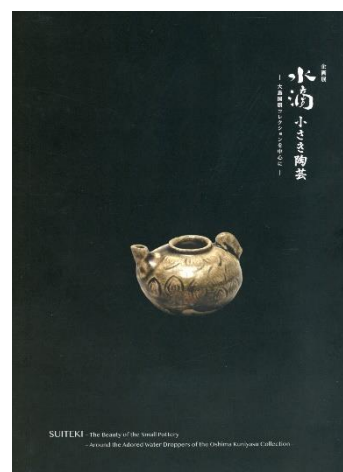
##### ◇テレビ

CBCテレビ「Nスタ」(6月27日午後5時30分ー)

東海テレビ「FNN Live News」(9月8日午後10時30分ー)



A4 チラシ



図録表紙

#### ④ 企画展「昭和レトロモダンー洋食器とデザイン画ー」

本展は、近年懐かしくも新しいとしてふたたび脚光を浴びる「昭和レトロ」に着目し、三郷陶器を中心として、鳴海製陶・ヤマカ製陶所の製品展示を通して戦後の洋食器の歴史と魅力を紹介した。

会期	令和4年1月8日(土)ー3月21日(月・祝)
開館日数	63日
会場	本館1階 第1・第2展示室
主催	愛知県陶磁美術館
後援	愛知県教育委員会、愛知高速交通株式会社
出品件数	84件
観覧者数	6,402人
普及出版	リーフレット(A4 16頁) ポスター(B2、B3) チラシ(A4(2種))



A4 チラシ



リーフレット表紙

#### 教育・普及事業

##### ◇記念講演会「洋食器の加飾技法」

1月8日(土) 午後1時30分ー3時 講堂

講師：高木典利氏(近代陶磁研究者)

##### ◇担当学芸員による連続講座

2月20日(日)「昭和初期の陶磁器試験所にみる洋食器デザイン」

講師：佐藤一信(副館長)

3月6日(日)「昭和中期の洋食器とデザイン画ー三郷陶器を中心にー」

講師：入澤聖明(学芸員)

各日ともに午後1時30分ー3時 展示説明室

##### ◇担当学芸員によるギャラリートーク

1月16日(日)、1月30日(日)、2月6日(土)、3月12日(土)

3月21日(月・祝)、各回ともに午後1時30分ー2時30分

##### ◇ワークショップ「レトロかわいい転写シールでボンボンエールをつくろう！」

1月15日(土)、2月5日(土)

全2回ともに午後1時30分ー3時30分 陶芸館

講師：岩淵 寛(陶芸指導員)、近藤ひとみ(陶芸指導員)

吉田庄吾(陶芸指導員)、入澤聖明(学芸員)

#### 主要関連記事

##### ◇新聞

「昭和レトロ食器やデザイン画を紹介」(中日新聞 令和4年3月16日朝刊)

##### ◇雑誌

入澤聖明「企画展『昭和レトロモダンー洋食器とデザイン画ー』」

(『JAPPI NEWSLETTER』No. 273 令和4年2月1日発行)

入澤聖明「昭和レトロモダンー洋食器とデザイン画ー」(『陶説』No. 824 令和4年2月1日刊行)

Exhibition(月刊『MOE』3月号 令和4年2月3日発行)

##### ◇ウェブサイト

岡部匡志「【なんてキュートな】懐かしくも新しい食器たち「昭和レトロモダンー洋食器とデザイン画ー」展 愛知県陶磁美術館で1月8日開幕」(美術展ナビ 令和3年12月25日から掲載)

岡部匡志「【レビュー】“真のレトロ”の先進性、創造性に触れる歓び「昭和レトロモダンー洋食器とデザイン画ー」展 愛知県陶磁美術館」(美術展ナビ 令和4年2月10日から掲載)

「昭和モダンのレトロ食器やデザイン画 瀬戸・県陶磁美術館で企画展」(中日新聞 令和4年3月16日から掲載)

「昭和レトロモダンのうつわ 愛知県陶磁美術館」(J-ware STYLE 令和4年2月12日から掲載)

伊藤保徳「No. 800 昭和レトロモダン展」(瀬戸市 令和4年1月11日から掲載)

## ⑤ 特集展示「喫茶の碗の物語ー中国陶磁への憧れ、そして…」

瀬戸・美濃における天目と茶碗を中心に、賞玩した中国陶磁、韓国陶磁、同時代の楽茶碗などを展示し、喫茶の碗の誕生から発展の歴史と魅力を紹介した。

ハンズオン・レプリカ体験コーナー「8K で文化財 ふれる・まわせる名茶碗」を併設し、観覧者の利用に供した。

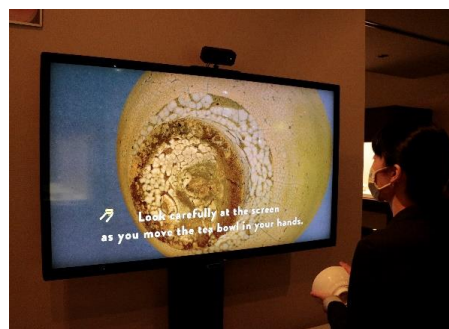
会 期	10月9日(土)ー12月12日(日)
開館日数	56日
会 場	本館2階 第3展示室・東室
主 催	愛知県陶磁美術館
特別協力	東京国立博物館
協 力	独立行政法人国立文化財機構 文化財活用センター
出品件数	19件
観覧者数	5,614人
8K利用者	2,483人
普及出版	リーフレット (A4 4頁)

教育・普及事業

◇特別講座「喫茶の碗の物語 その展開と魅力」

11月13日(土) 午後1時30分ー3時 講堂

講師：伊藤嘉章（総長）



## ⑥ 本館テーマ展

### ⑥-1 「愛知の新たな宝ー近年収蔵の重要古陶磁ー」

令和元年度に収蔵した古代猿投窯須恵器1点とその参考品1点、平成20年度に収蔵した古代猿投窯白瓷1点、令和2年度に収蔵した古瀬戸灰釉蔵手唐草文手付水注1点及びその参考品2点を展示紹介した。

古代猿投窯須恵器1点と白瓷1点は、会期中の8月6日に愛知県指定文化財に指定された（詳細は30頁参照）。

会 期	6月26日(土)ー9月26日(日)
開館日数	80日
会 場	本館1階 第2展示室
主 催	愛知県陶磁美術館
出品件数	6点
観覧者数	3,976人

教育・普及事業

◇講座「名陶で学ぶ古代猿投窯の歴史」

9月19日(日) 午後1時30分ー3時 講堂

講師：小川裕紀（主任学芸員）



### ⑥-2 若手作家紹介事業 01 「やきもの現代考「内々外」」

現代陶芸魅力発信事業の一つとして実施した。※詳細は54頁参照。

会 期	令和4年1月22日(土)ー3月27日(日)
開館日数	56日
会 場	本館1階ホール（回廊）、屋外（芝生広場）
主 催	愛知県陶磁美術館
出品件数	46点
観覧者数	7,272人



## ⑦ 南館テーマ展

### ⑦-1 「愛知のやきもの・伝統の継承

—伝えるべき大切な技から、“新たなかたち”が生まれる—

愛知県に伝わる多彩な作風や技の中から、黄瀬戸、織部、練り込み、鍔込みに注目し、その伝統を継承しながらも独自の視点で新たなかたちを生み出す現代の作家たちを紹介。出品作家は加藤作助(四代)、加藤圭史、長江重和、水野双鶴、水野教雄、水野智路。

会 期	4月1日(木)－6月27日(日)
開館日数	76日
会 場	南館1階展示室 展示室中央
主 催	愛知県陶磁美術館
出品件数	15件
観覧者数	1,496人



### ⑦-2 「瀬戸ノベルティ de フィギュア動物園」

日本を代表するやきもの産地・瀬戸を中心に製作された「ノベルティ」にスポットをあて、光和陶器、大東三進が製作した瀬戸ノベルティの最盛期1970－90年代の動物フィギュアで展示室に「小さな動物園」を演出。動物ノベルティの躍動感あふれる姿、美しい色彩を紹介した。

会 期	6月30日(水)－9月26日(日)
開館日数	95日
会 場	南館1階展示室 展示室中央
主 催	愛知県陶磁美術館
出品件数	21件
観覧者数	2,009人



### ⑦-3 「愛知のやきもので彩るクリスマスと冬のテーブル」

冬の楽しみをテーマに愛知のやきものを使い、<名古屋の洋食器でクリスマスのテーブル><瀬戸焼と犬山焼の食器で彩るお正月の膳><常滑焼と瀬戸染付で寒い日のほっこりするお茶の時間>という3つのシーンで紹介。出品作家等は、杉山ひとみ、名古屋製陶、光和陶器、瀬戸・亀井半二、犬山焼、名古屋絵付、瀬戸・真玉園、常滑・初代山田常山。

会 期	9月29日(水)－12月26日(日)
開館日数	58日
会 場	南館1階展示室 展示室中央
主 催	愛知県陶磁美術館
出品件数	17件
観覧者数	3,304人



### ⑦-4 「愛知やきものプロダクト・デザイン」

愛知を拠点に活躍するデザイナーによるプロダクト・デザイン、また伝統技術を活かし現代生活のための新たな製品を生み出すメーカーの取り組みを紹介。出品デザイナーは井戸真伸、加藤達美、栄木正敏、田上知之介、崔宰熏、長井千春の各氏。同企業は、株式会社エム・エム・ヨシハシ、株式会社セラミック・ジャパン、株式会社LIXILの各社。

会 期	令和4年1月5日(水)－3月27日(日)
開館日数	71日
会 場	南館1階展示室 展示室中央
主 催	愛知県陶磁美術館
出品件数	22件
観覧者数	2,679人



栄木正敏「天目ディナーウェア」

## (2) 常設展

### ① 日本と世界のやきもの

基幹展示とトピック展示で大別して構成している。

基幹展示は、名品部門と通史部門を設置。世界各地の古陶磁について、前者は単体展示、後者は集合展示の資料配置で展示紹介している。

名品部門は、所蔵品から選りすぐった優品を紹介する提示型展示（鑑賞型展示）としている。10月9日に構成及びパネル、キャプションをリニューアルして、展示効果を向上させた（第3展示室・西室）。

通史部門は、完器による概説展示と、古窯陶磁資料による収蔵的展示からなる二元展示としている。前者は所蔵資料を中心とした、日本、韓国、中国等の地域別、時代順の展示である。後者は全国の調査研究機関等から借用した、窯跡から出土した陶片資料の展示である。

10月9日から12月12日まで、本展示の会場内で、特集展示「喫茶の碗の物語」を開催した。併せてハンズオン・レプリカ体験コーナー「8Kで文化財 ふれる・まわせる名茶碗」を設置した（第3展示室・東室、10頁参照）。

トピック展示は、特集展示コーナー及び特集陳列コーナー等で構成している。

特集展示コーナーでは、「茶器済済」を開催した。令和4年3月からハンズオン・レプリカ体験コーナー「8Kで文化財 ふれる・まわせる名茶碗」を再設置した（コンテンツ制作：独立行政法人国立文化財機構文化財活用センター、制作協力：九州国立博物館・当館）。

特集陳列コーナーでは、「呂宋」を開催した（第5展示室・南東隅）。

会期	4月1日(木)－令和4年3月31日(木)
開館日数	306日
会場	本館2階 第3－第6展示室
出品件数	名品部門 38点 通史部門及びトピック展示 日本ゾーン 176点(古窯陶磁資料以外)、 古窯陶磁資料 1,267点 外国ゾーン 中国陶磁 116点 韓国陶磁 32点 その他外国陶磁 120点
観覧者数	14,661人



名品部門(第3展示室・西室)



通史部門(第3展示室・東室/北東部)



左奥:「8Kで文化財」、右:「茶器済済」  
(第3展示室・東室/南東部)

### ② 現代の陶芸 越境への誘い

当館が所蔵する現代陶芸のコレクションを「越境」というキーワードでとらえ、美術や工芸という枠組みだけでなく、国・歴史・文化・伝統などさまざまな境目を越えて生み出されてきた表現を紹介した。

会期	4月1日(木)－令和4年3月31日(木)
開館日数	306日
会場	本館地下1階 第7展示室
出品件数	23点
観覧者数	14,661人



現代の陶芸(第7展示室)

### ③ 瀬戸・常滑作家コーナー

瀬戸陶芸協会並びに常滑陶芸作家協会の協力のもと、瀬戸・常滑で活躍する地元作家を紹介した。展示作品は、半年毎に全て入れ替えた。

会 期	4月1日(木)ー令和4年3月31日(木)
開館日数	306日
会 場	本館地下1階 講堂前ホール
出品件数	延べ16点
観覧者数	14,661人



### ④ もっと伝えたい、愛知のやきもの

当館が所在する愛知県における、陶磁器生産の現在と歴史について展示紹介している。

「愛知のやきもの「今」」（南館1階展示室）

瀬戸、常滑、高浜周辺、名古屋周辺における各陶産地で作られるやきものの「今」について、「街、人、やきもの」をテーマに紹介。また、展示室中央部分で4回のテーマ展を開催した（11頁参照）。

「愛知のやきもの1万年」（南館2階展示室）

通史展示部門とトピック展示部門を設置。前者では原始から近世にかけての愛知県の陶磁史を遺跡出土資料や伝世資料によって紹介。後者では、愛知用水関連資料及び古陶磁鑑賞のコーナーを設けて紹介した。

\*協力：愛知県埋蔵文化財調査センター、あいち朝日遺跡ミュージアム  
(公財)愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

会 期	4月1日(木)ー令和4年3月31日(木)
開館日数	300日
会 場	南館1階展示室及び2階展示室
出品件数	1階展示室132点、2階展示室228点
観覧者数	9,488人



### ⑤ 陶磁のこま犬百面相

中世から近代にかけて、瀬戸・美濃地方の神社への奉納物として作られたやきもののこま犬について、愛知県指定有形民俗文化財「陶製狛犬コレクション」を中心に展示紹介した。

西館における狛犬展示は12月12日をもって終了し、現代陶芸魅力発信事業「リ・デザイン・狛犬」の一環として、令和4年1月から本館へ移設リニューアルした（下掲⑥）。

会 期	4月1日(木)ー12月12日(日)
開館日数	220日
会 場	西館展示室
出品件数	100点
観覧者数	3,259人



### ⑥ リ・デザイン・狛犬

現代陶芸魅力発信事業の一つとして実施した。  
※詳細は53頁参照。

会 期	令和4年1月8日(土)ー3月31日(木)
開館日数	71日
会 場	本館玄関ロビー
出品件数	80点
観覧者数	1,374人



### (3) 館外展示

- ① 移動美術館 2021 愛知県美術館・愛知県陶磁美術館コレクションから  
例年、愛知県美術館と当館は県内市町村と連携して館外作品展を開催している。令和3年度は、美術館が「生きもの」を題材とした油彩画や日本画、版画、立体等計29件、陶磁美術館が中世渥美窯及び同時代の愛知県内の陶磁器計23件を紹介した。

会 期	6月26日(土)ー8月15日(日)
開館日数	44日
会 場	田原市博物館
主 催	愛知県美術館、愛知県陶磁美術館 田原市博物館、田原市教育委員会
出品件数	52点
観覧者数	2,299人



- ② サテライト展示「民藝運動とやきもの」

愛知芸術文化センター地下1階フォーラムにおいて、所蔵品によるサテライト展示を行っている。令和3年度は「民藝運動とやきもの」をテーマに作品を紹介した。

会 期	4月1日(木)ー令和4年3月31日(木)
開館日数	306日
会 場	愛知芸術文化センター 地下1階フォーラム
協 力	愛知県美術館
出品件数	5点



- ③ 愛知用水関連資料等特別展示

愛知用水の管理機関である愛知用水総合管理所庁舎において、4月から10月までは昨年度に引き続き折戸37号窯跡出土資料を、11月から令和4年3月までは同38号窯跡出土資料を展示紹介した。

会 期	4月1日(木)ー令和4年3月31日(木)
開館日数	365日間
会 場	愛知用水総合管理所1階 中庭西側ホール
協 力	独立行政法人水資源機構 愛知用水総合管理所
出品件数	4点



### (4) 展示什器の改修

当館では、平成8年度以降現在まで使用する本館の展示ケース91台のうち、令和元年度に12台の900mm角展示ケースの内部照明を修繕した。これに続き、未修繕79台のうち、故障している3台(1000×1800mm玉器ケース)、及び経年劣化している6台(1000×1800mm独立展示ケース)の計9台分の展示ケースについて、LED照明に更新した。

照明器具の更新：令和4年3月14日(月)ー3月29日(火)

更新した照明器具

1000×1800mm玉器ケース：YAMAGIWA製LEDスポットライト、LEDランプSORAA製

1000×1800mm独立展示ケース：YAMAGIWA製紫色励起LED照明

## (5) 特別展・企画展の事業評価

### ① 定量評価－観覧者数及び収支決算－

展覧会名称 会期・開館日数	観覧者数 目標／実績	収 支 額		
		収 入 額	支 出 額	収支比率
海を渡った古伊万里 4月10日－6月13日、56日	目標 9,712人(一日平均173人、 有料4,993人・無料4,719人) 実績 6,689人(一日平均120人、 有料4,472人・無料2,213人)	3,571,760円 観覧料 3,571,760円	8,830,040円	40.5%
水滴 小き陶芸 6月26日－9月26日、80日	目標 11,038人(一日平均138人、 有料5,675人・無料5,363人) 実績 5,203人(一日平均65人、 有料2,729人・無料2,474人)	1,757,210円 観覧料 1,405,210円 図録収入 352,000円	3,856,410円	45.6%
華＊花 10月9日－12月12日、56日	目標 10,600人(一日平均189人、 有料5,450人・無料5,150人) 実績 6,438人(一日平均115人、 有料2,776人・無料3,672人)	2,806,910円 観覧料 2,175,110円 図録収入 631,800円	9,143,930円	30.7%
昭和レトロモダン 令和4年 1月8日－3月21日、63日	目標 8,650人(一日平均137人、 有料4,447人・無料4,203人) 実績 6,402人(一日平均102人、 有料4,021人・無料2,381人)	2,064,860円 観覧料 2,064,860円	2,694,970円	76.6%

(支出額は、チケットもぎり、展示室看視員の経費は含まない。)

### ② 定性評価－自己評価－

#### ②-1 特別展「海を渡った古伊万里 ～ウィーン、ロースドルフ城の悲劇～」

本展は、当館では2017年以降、数年ぶりとなる古伊万里を主体とした特別展であり、また、ウィーン郊外の古城・ロースドルフ城における第2次世界大戦後の「破壊」と、現在の日本の最新修復技術による「再生」といった、当館の固定ファン層以外の関心を呼ぶトピックに富んだものであった。

したがって、近世陶磁の基礎となる古伊万里をわかりやすく学べる内容とすることを狙い、国内美術館所蔵の名品で古伊万里の基礎を学ぶ第1部と、ロースドルフ城の陶片の間の再現や分析結果および修復技術を組み合わせた第2部の、2部構成にて193件の資料を展示紹介した。

巡回展の本来の章立てをやや組み直し、当館館蔵品も数十点参考出陳して「わかりやすさ、親しみやすさ」を強調した会場作りに力を入れた。館蔵品の追加により、当館のコレクションの厚さをアピールするとともに、豊富なパネルで来館者の理解度や満足度を引き上げることが出来た。講座・ワークショップなどでも、参加者が若年層～シニア層までおよび、幅広い客層に古伊万里の魅力を伝える成果を上げられたと考える。

広報に関しては、特別協力先の働きかけもあり、テレビ、新聞、ネットニュースなどの取材があった。また、本展ではSNSの広報効果も重要なものであった。巡回館による展覧会公式Twitterや当館アカウントにおけるInstagram広告を本展から導入したことで、SNS上で注目されるケースも飛躍的に増え、来館のきっかけを創出した。



#### ②-2 特別展「華＊花－四季の花と中国陶磁史－」

中華の美しい花文様をテーマに、南北朝時代から清時代にみられる多種多様な作品を紹介するので、人々に愛された花の文化史と陶磁史を新たな視点で魅せることを狙った独自企画である。

展示会場各所に垂れ幕を設置し、展示構成における空間切り替えを効果的に表現し、色彩によるテーマ分けを行ったことから順路も明確になった。作品とともに漢詩や花譜の一節を引用し、作品

の文学的背景を解説したことにより、文学愛好家からも好評を得ることが出来た。また、通常と逆の順路に動線を作ったことで、常設展（第3展示室）への誘導が効果的であり、同時開催の「喫茶の碗の物語」への集客にもつながった。

ギャラリートークや講座は通常通り開催出来たが、茶会については飲食を伴うイベントのため、早期に中止を決定した。ワークショップは展示した掻き落とし作品に関連したもので、自作の花器にいけばなを行ったことで、参加者の満足度も高かった。また、外部からの講演依頼も多く、新聞や陶磁専門誌にも大きく取り上げられ、注目度も高かった。

観覧者アンケートの結果からも、重要文化財を含む名品を集めたこと、展示空間を華やかにしたことなど好評を得ることが出来た展覧会である。



### ②-3 企画展「水滴 小さき陶芸 -大島国康コレクションを中心に-」

本展は、令和2年度に大島国康氏より当館へ「陶磁水滴コレクション」計1,062点が寄贈されたことを受け、その記念展示として構想したものである。メイン展示：第一部「書の友、水滴」を大島コレクションのみで構成する一方、陶磁水滴の小型陶芸作品としての魅力をあらわすため、サブ展示：第二部「MICROCOSMS(マイクロコズム)」を設置して当館所蔵及び寄託の各種小型作品を紹介した。

構成デザインは、展示構成/会場構成を単純化し、展示什器(展示ケース・展示台など)と作品を美しく配置することによって、「分かりやすく魅せて伝える」ことを基本方針とした。配置・配列は集合展示、分類展示、展示意図は提示型展示を基本とした。美術展として展示物の鑑賞への集中を促すため、壁面掲示のパネルは最小限にとどめ、文字情報による概説パネル・解説キャプションで説示型展示の要素を含めた。

水滴をはじめとする各種の小型陶芸品について、幅広い人々が陶磁史や歴史文化との関係などの多角的な視点から多義的な価値を概観し、学習経験と審美的経験、愉みを得て、複眼的な視点による思考力を養うことができたと思われる。コロナ禍(第五波)ではあったが、新規来館者も多く、陶磁美術館の利用者層を拡大することができた。今後も引き続き、大島コレクションの保存と活用に取り組んでいく必要がある。



### ②-4 企画展「昭和レトロモダン -洋食器とデザイン画-」

従来の洋食器展では、先駆的な製品開発と生産で業界を牽引してきたノリタケや大倉陶園を主として研究が行われ、紹介されてきた。それに対し、本展はその先駆者に追いつこうとした他企業に光を当てることで、東海地域の洋食器産業の別側面を描き出す目的で開催した。

タイトルは、懐かしくも新しいとして近年注目を浴びる「昭和レトロ」に設定し、来館者にとって親しみやすい内容であることを提示するとともに、その時代の生活文化を反映していた洋食器の実態に迫るという意味も込めた。

展示は2部構成となっており、前半ではヤマカ製陶所と鳴海製陶の製品・資料を通して戦後～70年代までの洋食器の歴史を概観した。それをふまえた後半部分では、尾張旭に拠点を置いた三郷陶器の戦後の動向を紹介した。

本展では、日本陶磁器意匠センターにおけるデザイン登録のために作成された意匠認証登録台帳を調査し、年代とデザインパターン名を特定したほか、これまで体系的に紹介されることのなかった三郷陶器のデザイン画やカタログ・頒布会資料などを整理し、あわせて当時のデザイナーや技術者・代理店関係者に聞き取り調査を行うことで三郷陶器の活動の明文化をおこなった。この点において、本展は戦後の陶磁史・洋食器史だけでなく、産業史的な側面においても意義が大きかった。

展示においては、洋食器のみの紹介にとどまらず、販促資料も掲出することで当時の気運を感じられるようにした。さらに展示ケースの敷板にテーブルクロスを連想させる布を張り、より実感を持って鑑賞できるなどの工夫をした。

広報においては若年層への波及効果を狙い、WEBメディアのPR TIMESを中心にSNSなどでの周知を積極的に展開した。結果として、普段の来館者と比較して10～20代の若年層が多く見受けられ、幅広い集客につながった。



## 2 資料

資料の収集については、資料委員会開催要領及び収集方針に基づき、資料委員による協議を経て実施している。なお、資料調査員制度は、令和3年度末をもって終了した。

資料情報については、クラウド型収蔵品管理システム「I. B. MUSEUM SaaS」を用いて管理を行っている。資料の活用については、資料取扱要領に基づき、貸出及び画像の撮影・掲載等を承認した。

本年度は、既存の収蔵資料2点が、愛知県指定文化財に新規指定された。

### (1) 資料収集

#### ① 購入資料

美術品等購入基金により下記16点を購入した。うち、No.14及びNo.15は、個人より愛知県への寄附を原資とした、同基金による購入である。

No.	資料名称	産地、作者等	時代、年代	点数	備考	管理区分	館蔵品No.
1	須恵器 灰釉双耳壺	猿投窯	奈良時代 (8世紀)	1点		陶磁器	A-7381
2	鉄釉四耳壺	瀬戸・美濃窯	室町時代(戦国期) 永正16年(1519)	1点	永正拾六年 他銘	陶磁器	A-7382
3	錆絵若松文桔梗形向付	御菩薩池	江戸時代中期 (18世紀)	5点		陶磁器	A-7383
4	モダンセット (プレート及びカップ &ソーサー)	三郷陶器(株) /尾張旭市	1955年頃	1点 及び 6組		陶磁器	A-7384
5	紅陶尖底双耳瓶	中国 黄河中流域	仰韶文化半波類型 (紀元前5000年-紀元前4000年)	1点		陶磁器	A-7385
6	黒皮陶有蓋双鼻壺	中国 長江下流域	良渚文化(紀元前3300年-紀元前2250年)	1点		陶磁器	A-7386
7	黒釉銀彩直弧文角大皿	栗木達介	1980年	1点		陶磁器	A-7387
8	黒釉銀彩直弧文弓型大皿	栗木達介	1981年	1点		陶磁器	A-7388
9	黒釉銀彩文角扁壺	栗木達介	1981年頃	1点		陶磁器	A-7389
10	銀緑彩文皿	栗木達介	1983年	1点		陶磁器	A-7390
11	三ツの面からなる角皿	栗木達介	1984年	1点		陶磁器	A-7391
12	銀紅彩地文陶 まがり	栗木達介	1985年	1点		陶磁器	A-7392
13	銀紅彩地文陶 風韻	栗木達介	1986年	1点		陶磁器	A-7393
14	97-8A	加藤清之	1997年	1点		陶磁器	A-7394
15	98-S4	加藤清之	1998年	1点		陶磁器	A-7395
16	Modern Remains Thunderbolt	竹内紘三	2019年	1点		陶磁器	A-7396

#### ② 寄附資料

須恵器陶馬はじめ181件の寄附を受け入れた(下記一覧では、寄附者名敬称略)。

No.	資料名称	産地、作者等	時代、年代	点数	寄附者	管理区分	館蔵品No.
1-1	須恵器 陶馬	不詳	奈良時代 (8世紀)	1点	岡田千彦	陶磁器	A-7202
1-2	小甕 正平二年他墨書	越前窯	鎌倉時代-南北朝時代 (14世紀)	1点	岡田千彦	陶磁器	A-7203
2-1	須恵器 陶馬	美濃須衛窯	奈良時代-平安時代 前期(8-9世紀)	1点	松浦繁藏	陶磁器	A-7204
2-2	須恵器 陶馬	不詳	平安時代前期(8世紀末-9世紀)	1点	松浦繁藏	陶磁器	A-7205
2-3	短頸壺	猿投窯	平安時代末期 (12世紀)	1点	松浦繁藏	陶磁器	A-7206
2-4	刻文広口瓶	渥美窯	平安時代末期 (12世紀)	1点	松浦繁藏	陶磁器	A-7207

No.	資料名称	産地、作者等	時代、年代	点数	寄附者	管理区分	館藏品 No.
2-5	長方硯	常滑窯 桧原山古窯	平安時代末期 (12世紀)	1点	松浦繁蔵	陶磁器	A-7208
2-6	長方硯	常滑窯または猿投窯	平安時代末期 (12世紀)	1点	松浦繁蔵	陶磁器	A-7209
2-7	長方硯	猿投窯または常滑窯	平安時代末期 (12世紀)	1点	松浦繁蔵	陶磁器	A-72010
2-8	片口小壺	常滑窯	鎌倉時代 (13世紀)	1点	松浦繁蔵	陶磁器	A-7211
3	刻文甕	常滑窯	室町時代 (15世紀)	1点	村瀬敏治	陶磁器	A-7212
4-1	織部松皮菱形手鉢	平澤九朗 ／名古屋	江戸時代後期 (19世紀前半)	1点	田中孝子	陶磁器	A-7213
4-2	赤絵草花文鉢	犬山	江戸時代 嘉永3年(1850)	1点	田中孝子	陶磁器	A-7214
5	陶胎漆器木具写し水盤	六代または七代大喜豊助 ／豊楽焼	19世紀後半 －20世紀前半	1点	亀井玄人	陶磁器	A-7215
6-1	釉下彩蟹図小花瓶	ゴットフリート・ワグネル ／東京	明治16年(1883) 頃	1点	植田 寛	陶磁器	A-7216
6-2	釉下彩葦鴨図蓋付碗	ゴットフリート・ワグネル ／東京	明治17年(1884)－ 明治20年(1887)	4点	植田 寛	陶磁器	A-7217
6-3	釉下彩富士図鉢	ゴットフリート・ワグネル ／東京	明治17年(1884)－ 明治20年(1887)	1点	植田 寛	陶磁器	A-7218
6-4	釉下彩葦鷺図蓋付碗	ゴットフリート・ワグネル ／東京	明治17年(1884)－ 明治20年(1887)	2点	植田 寛	陶磁器	A-7219
6-5	青磁耳付花瓶	京都市陶磁器 試験場	大正4年(1915)	1点	植田 寛	陶磁器	A-7220
6-6	青磁盃	京都市陶磁器 試験場	大正4年(1915)	1点	植田 寛	陶磁器	A-7221
6-7	鉄緒釉天目茶碗	京都市陶磁器 試験場	大正4年(1915)頃	1点	植田 寛	陶磁器	A-7222
6-8	狸画茶碗	京都市陶磁器 試験場	大正4年(1915)頃	1点	植田 寛	陶磁器	A-7223
6-9	染付蝶文碗	京都市陶磁器 試験場	大正4年(1915)頃	1点	植田 寛	陶磁器	A-7224
6-10	植田豊橋氏頭像	浅見恒平	昭和10年代(1935－ 1944)	1点	植田 寛	金属	I-0064
7-1	白磁コーヒーカップ &ソーサー	三郷陶器(株) ／尾張旭市	1970年代	1組	御崎正之	陶磁器	A-7225
7-2	白磁ティーカップ &ソーサー	三郷陶器(株) ／尾張旭市	1970年代	1組	御崎正之	陶磁器	A-7226
7-3	瑠璃金彩コーヒー カップ&ソーサー	三郷陶器(株) ／尾張旭市	1970年代	1組	御崎正之	陶磁器	A-7227
8	ノベルティ・マリア ランプ	丸邦栄製陶 (株)／瀬戸市	1990年代	一対	高井哲雄	陶磁器	A-7228
9	光和陶器ノベルティ デザイン画	光和陶器(株) ／瀬戸市・尾張旭市	1960年代－1990年 代	1件 (計 1,383 点)	川原春子	絵画	E-0069
10-1	オーバルプレート< スタンピーノ>	リチャード・ジノ窯	1735年－1757年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7229
10-2	デザート・プレート <チューリップパーノ >	リチャード・ジノ窯	1735年－1757年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7230
10-3	デザート・プレート <東洋の花>	リチャード・ジノ窯	1735年－1757年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7231
10-4	デザート・プレート <東洋の花>	リチャード・ジノ窯	1735年－1757年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7232
10-5	婦人胸像	リチャード・ジノ窯	1735年－1757年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7233
10-6	婦人胸像	リチャード・ジノ窯	1735年－1757年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7234

No.	資料名称	産地、作者等	時代、年代	点数	寄附者	管理区分	館藏品 No.
10-7	人形 右手に本を持つ使徒	リチャード・ジノ窯	1735年-1757年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7235
10-8	人形 左手に本を持つ使徒	リチャード・ジノ窯	1735年-1757年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7236
10-9	人形 パンタローネ	リチャード・ジノ窯	1735年-1757年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7237
10-10	コーヒーカップ&ソーサー<花飾り>	リチャード・ジノ窯	1757年-1792年	3組	盛田昌夫	陶磁器	A-7238
10-11	コーヒーカップ<花飾り>	リチャード・ジノ窯	1757年-1792年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7239
10-12	コーヒーソーサー<花飾り>	リチャード・ジノ窯	1757年-1792年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7240
10-13	カップ&ソーサー<花飾り>	リチャード・ジノ窯	1757年-1792年	3組	盛田昌夫	陶磁器	A-7241
10-14	カップ&ソーサー<花飾り>	リチャード・ジノ窯	1757年-1792年	3組	盛田昌夫	陶磁器	A-7242
10-15	ミニカップ<花飾り>	リチャード・ジノ窯	1757年-1792年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7243
10-16	シェルのハンドル付小皿<ブーケ模様>	リチャード・ジノ窯	1757年-1792年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7244
10-17	色絵草花文波形皿	リチャード・ジノ窯	1757年-1792年	2点	盛田昌夫	陶磁器	A-7245
10-18	ミニカップ<イタリアンフルーツ>	リチャード・ジノ窯	1757年-1792年	2点	盛田昌夫	陶磁器	A-7246
10-19	キャンディー・ボックス<イタリアンフルーツ>	リチャード・ジノ窯	1757年-1792年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7247
10-20	トレイ付きバスケット<花飾り>	リチャード・ジノ窯	1757年-1792年	1組	盛田昌夫	陶磁器	A-7248
10-21	人形 レディー	リチャード・ジノ窯	1757年-1792年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7249
10-22	人形 青年	リチャード・ジノ窯	1757年-1792年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7250
10-23	デザート・プレート<小バラ模様>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	8点	盛田昌夫	陶磁器	A-7251
10-24	スープ皿<小バラ模様>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	6点	盛田昌夫	陶磁器	A-7252
10-25	オーバル・プレート<小バラ模様>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7253
10-26	オーバル・プレート<小バラ模様>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7254
10-27	オーバル・プレート<小バラ模様>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	2点	盛田昌夫	陶磁器	A-7255
10-28	ディナープレート<小バラ模様>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	3点	盛田昌夫	陶磁器	A-7256
10-29	フラット・ボウル<小バラ模様>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	2点	盛田昌夫	陶磁器	A-7257
10-30	スープチューリン<小バラ模様>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7258
10-31	ソースボート<小バラ模様>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7259
10-32	コースター<花飾り>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	2点	盛田昌夫	陶磁器	A-7260
10-33	ピクルス・プレート<アンティック・ローズ>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	2点	盛田昌夫	陶磁器	A-7261
10-34	ピクルス・プレート<アンティック・ローズ>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	2点	盛田昌夫	陶磁器	A-7262
10-35	オーバル・プレート<アンティック・ローズ>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7263

No.	資料名称	産地、作者等	時代、年代	点数	寄附者	管理区分	館藏品 No.
10-36	デザート・プレート <アンティーク・ローズ>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	6点	盛田昌夫	陶磁器	A-7264
10-37	デザート・プレート <アンティーク・ローズ>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	6点	盛田昌夫	陶磁器	A-7265
10-38	スープ・プレート <アンティーク・ローズ>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	2点	盛田昌夫	陶磁器	A-7266
10-39	プレート<花飾り>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	2点	盛田昌夫	陶磁器	A-7267
10-40	デザート・プレート <小バラ模様>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	28点	盛田昌夫	陶磁器	A-7268
10-41	デザート・プレート <花模様>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	6点	盛田昌夫	陶磁器	A-7269
10-42	ピクルス・プレート <ボルドー花飾り>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	2点	盛田昌夫	陶磁器	A-7270
10-43	プレート<イタリアンフルーツ>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	2点	盛田昌夫	陶磁器	A-7271
10-44	プレート<イタリアンフルーツ>	リチャード・ジノ窯	1780年-1800年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7272
10-45	デザート・プレート <風景画>	リチャード・ジノ窯	1792年-1837年	3点	盛田昌夫	陶磁器	A-7273
10-46	デザート・プレート <風景画>	リチャード・ジノ窯	1792年-1837年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7274
10-47	デザート・プレート <風景画>	リチャード・ジノ窯	1792年-1837年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7275
10-48	三人の天使像	リチャード・ジノ窯	1792年-1837年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7276
10-49	オイル&ビネガースタンド	リチャード・ジノ窯	1792年-1837年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7277
10-50	スープチューリン <花飾り>	リチャード・ジノ窯	1810年-1820年代	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7278
10-51	薬草用ジャー	リチャード・ジノ窯	1850年-1896年	3点	盛田昌夫	陶磁器	A-7279
10-52	薬草用ジャー	リチャード・ジノ窯	1850年-1896年	3点	盛田昌夫	陶磁器	A-7280
10-53	カポディモンテ キャンディー・ボックス <イストリアート>	リチャード・ジノ窯	1880年-1900年頃	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7281
10-54	カポディモンテ キャビア・カップ <イストリアート>	リチャード・ジノ窯	1880年-1900年頃	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7282
10-55	カポディモンテ ボックス <イストリアート>	リチャード・ジノ窯	1880年-1900年頃	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7283
10-56	カポディモンテ ティーポット <イストリアート>	リチャード・ジノ窯	1880年-1900年頃	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7284
10-57	カポディモンテ 飾皿	リチャード・ジノ窯	1880年-1900年頃	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7285
10-58	ナポレオン カップセット (カップ&ソーサー、クリーマー)	リチャード・ジノ窯	1880年-1896年	5組及び1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7286
10-59	ラスター彩のチョコレートセット (カップ&ソーサー、チョコレートポット、クリーマー、シュガーポット)	リチャード・ジノ窯	1920年頃	6組及び各1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7287
10-60	象のブックエンド	リチャード・ジノ窯	1923年-1930年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7288
10-61	天使像	リチャード・ジノ窯	1927年	2点	盛田昌夫	陶磁器	A-7289

No.	資料名称	産地、作者等	時代、年代	点数	寄附者	管理区分	館藏品 No.
10-62	花器<カーヴ>	リチャード・ジリ窯	20 世紀前半	6 点 組	盛田昌夫	陶磁器	A-7290
10-63	タベルナ コーヒー カップ	リチャード・ジリ窯	1929 年	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7291
10-64	タベルナ コーヒー カップ	リチャード・ジリ窯	20 世紀前半	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7292
10-65	色絵果物文皿	リチャード・ジリ窯	1920 年代-1940 年 代	4 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7293
10-66	色絵花束文皿	リチャード・ジリ窯	1920 年代-1940 年 代	6 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7294
10-67	女性像	リチャード・ジリ窯	1985 年	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7295
10-68	キャンドルスタンド	リチャード・ジリ窯	1985 年	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7296
10-69	ワイングラスクーラ ー<グランドツアー >	リチャード・ジリ窯	1985 年	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7297
10-70	コーヒーポット<レ ッドコック>	リチャード・ジリ窯	1985 年	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7298
10-71	人形<プルチネッタ >	リチャード・ジリ窯	1985 年	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7299
10-72	人形<サンタルチア >	リチャード・ジリ窯	1985 年	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7300
10-73	リパティールランプ< リディリオ>	リチャード・ジリ窯	1995 年	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7301
10-74	リパティール・ベース <三美神>	リチャード・ジリ窯	1995 年	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7302
10-75	リパティール・ベース <シェルとトリトン >	リチャード・ジリ窯	1995 年頃	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7303
10-76	リパティール・ベース	リチャード・ジリ窯	1995 年頃	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7304
10-77	プレート<二人の女 性>	リチャード・ジリ窯	1996 年	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7305
10-78	オーバル・ベース< ドナテッラ>	リチャード・ジリ窯	1996 年	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7306
10-79	プレート<イルコン チェルト>	リチャード・ジリ窯	1996 年	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7307
10-80	蓋付のジャー<風景 >	リチャード・ジリ窯	1980 年-2000 年	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7308
10-81	人物像	リチャード・ジリ窯	1980 年-2000 年	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7309
10-82	女神 ラ・プルデンツ ア<賢明さ>	リチャード・ジリ窯	1980 年-2000 年	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7310
10-83	女神	リチャード・ジリ窯	1980 年-2000 年	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7311
10-84	キャンドルスタンド <春夏>	リチャード・ジリ窯	1980 年-2000 年	一対	盛田昌夫	陶磁器	A-7312
10-85	コーヒーセット<ブ ーケ> (カップ&ソ ーサー、ポット、ク リーマー、シュガー ポット)	リチャード・ジリ窯	1980 年-2000 年	2 組 及び 各 1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7313
10-86	コーヒーセット<風 景図> (カップ&ソ ーサー、ポット、ク リーマー、シュガー ポット)	リチャード・ジリ窯	1980 年-2000 年	2 組 及び 各 1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7314
10-87	人形 親密	リチャード・ジリ窯	1980 年-2000 年	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7315
10-88	人形 長椅子	リチャード・ジリ窯	1980 年-2000 年	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7316
10-89	人形 コンチェルト	リチャード・ジリ窯	1980 年-2000 年	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7317
10-90	人形 二重奏	リチャード・ジリ窯	1980 年-2000 年	1 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7318
10-91	人形 ダンス	リチャード・ジリ窯	1980 年-2000 年	4 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7319
10-92	人形 音楽家 (バイ オリン)	リチャード・ジリ窯	1980 年-2000 年	4 点	盛田昌夫	陶磁器	A-7320

No.	資料名称	産地、作者等	時代、年代	点数	寄附者	管理区分	館藏品 No.
10-93	人形 音楽家 (チェロ)	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	4点	盛田昌夫	陶磁器	A-7321
10-94	人形 音楽家 (マンドリン)	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	4点	盛田昌夫	陶磁器	A-7322
10-95	人形 ライティングデスク	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7323
10-96	人形 アルレッキーナ	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7324
10-97	人形 コンタディネッロ	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7325
10-98	人形 楽器を奏でるエンジェル	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7326
10-99	人形 笛を吹くエンジェル	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7327
10-100	人形 エンジェル	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7328
10-101	人形 楽器を奏でるエンジェル	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	3点	盛田昌夫	陶磁器	A-7329
10-102	カラモージョ 学者	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	9点	盛田昌夫	陶磁器	A-7330
10-103	カラモージョ おばあさん	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	9点	盛田昌夫	陶磁器	A-7331
10-104	カラモージョ 歌手	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	9点	盛田昌夫	陶磁器	A-7332
10-105	カラモージョ 召使い	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	9点	盛田昌夫	陶磁器	A-7333
10-106	カラモージョ ドクター	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	9点	盛田昌夫	陶磁器	A-7334
10-107	カラモージョ 酔っ払い	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	9点	盛田昌夫	陶磁器	A-7335
10-108	カラモージョ 骨董屋	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	9点	盛田昌夫	陶磁器	A-7336
10-109	カラモージョ マダム	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	9点	盛田昌夫	陶磁器	A-7337
10-110	カラモージョ 男性像	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	9点	盛田昌夫	陶磁器	A-7338
10-111	人形 弓を張るキューピッド	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7339
10-112	人形 騎士と宿屋の女主人	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7340
10-113	人形 コジュエラ	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7341
10-114	人形 ペッピネッラ	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7342
10-115	人形 コラッリーナ	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7343
10-116	人形 アフリカの女性	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7344
10-117	人形 ビザンチンの役人	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7345
10-118	人形 ギリシャの女性	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7346
10-119	人形 護衛の将校	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7347
10-120	人形 ペルシャの女性	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7348
10-121	人形 イスラム教の指導者	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7349
10-122	人形 貴婦人エリアンテ	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7350
10-123	人形 貴婦人クラリーチェ	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-735
10-124	人形 貴婦人トラウレ	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-735
10-125	人形 男女	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	一対	盛田昌夫	陶磁器	A-7353
10-126	バチョッキコレクターズカップ	リチャード・ジリ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7354

No.	資料名称	産地、作者等	時代、年代	点数	寄附者	管理区分	館藏品 No.
10-127	ウォールプレート<ベルベデーレ>	リチャード・ジノ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7355
10-128	ウォールプレート<ピッティ宮>	リチャード・ジノ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7356
10-129	ウォールプレート<シニョーリア広場>	リチャード・ジノ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7357
10-130	ウォールプレート<プリマベラブーケ 東洋の花>	リチャード・ジノ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7358
10-131	ウォールプレート<風景>	リチャード・ジノ窯	1980年-2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7359
10-132	リバティエー・ベース <孔雀>	リチャード・ジノ窯	2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7360
10-133	リトファニー・ランプ <小椅子の聖母>	リチャード・ジノ窯	2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7361
10-134	リトファニー<小椅子 の聖母>	リチャード・ジノ窯	2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7362
10-135	マイタイムセット<サンタン ジェロ城> (プレート、カップ &ソーサー)	リチャード・ジノ窯	2000年	1点 及び 1組	盛田昌夫	陶磁器	A-7363
10-136	ウォールプレート	リチャード・ジノ窯	2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7364
10-137	ヨハネ・パウロⅡ世 像	リチャード・ジノ窯	2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7365
10-138	ウォール・プレート <ヨハネ・パウロⅡ 世胸像>	リチャード・ジノ窯	2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7366
10-139	聖ペテロ座像	リチャード・ジノ窯	2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7367
10-140	オーバル・プレート <大聖堂>	リチャード・ジノ窯	2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7368
10-141	レリーフ<聖歌隊>	リチャード・ジノ窯	2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7369
10-142	レリーフ<聖歌隊>	リチャード・ジノ窯	2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7370
10-143	ベル<大聖堂のクー ポラ>	リチャード・ジノ窯	2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7371
10-144	スクエアボックス<ロ ーマ教皇の紋章>	リチャード・ジノ窯	2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7372
10-145	メディチ壺<ドッチ アの風景>	リチャード・ジノ窯	2000年	2点	盛田昌夫	陶磁器	A-7373
10-146	メディチ壺<イスト リアート>	リチャード・ジノ窯	2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7374
10-147	カポディモンテ プ レート<イストリア ート>	リチャード・ジノ窯	2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7375
10-148	カポディモンテ 手 付きのジャー	リチャード・ジノ窯	2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7376
10-149	カポディモンテ 手 付きのジャー	リチャード・ジノ窯	2000年	1点	盛田昌夫	陶磁器	A-7377
11	指し図鉢	河井寛次郎	昭和11年(1936) 頃	1点	松村和歌 子・服部東 穂・服部 和	陶磁器	A-7378
12	98-S2	加藤清之	1998年	1点	加藤清之	陶磁器	A-7379
13	黒織部三段重	鈴木五郎	2000年頃	1点	惣田 田	陶磁器	A-7380

購入資料



1 須恵器 灰釉双耳瓶  
猿投 1点  
高さ 38.3 口径 12.0 胴径 24.3  
奈良時代(8世紀)  
A-7381



2 鉄釉四耳壺 永正拾六年他刻銘  
瀬戸・美濃 1点  
高さ 35.5 口径 12.4 胴径 31.5  
室町時代(戦国期)・永正 16年(1519)  
A-7382



3 錆絵染付若松文桔梗形向付  
御菩薩池 5点  
高さ 5.5 口径 9.6 底径 5.2  
江戸時代中期(18世紀)  
A-7383



4 モダンセット (画像:プレート)  
プレート1点・カップ&ソーサー6組  
三郷陶器(株)／尾張旭市  
1955年頃  
A-7384



5 紅陶尖底双耳瓶  
中国 黄河中流域 1点  
高さ 39.5 口径 5.8 胴径 26.4  
仰韶文化半波類型(BC5000-BC4000)  
A-7385



6 黒皮陶有蓋双鼻壺  
中国 長江下流域 1点  
総高 15.4 口径 6.5 胴径 10.6  
良渚文化(BC3300-BC2250)  
A-7386



7 黒釉銀彩直弧文角大皿  
栗木達介 1点  
高さ 6.5 幅 55.0×56.5  
1980年  
A-7387



8 黒釉銀彩直弧弓型大皿  
栗木達介 1点  
高さ 8.5 幅 8.5×38.5  
1981年  
A-7388



9 黒釉銀彩文角扁壺  
栗木達介 1点  
高さ 23.0 幅 26.0×21.0  
1981年頃  
A-7389



10 銀緑彩文皿  
 栗木達介 1点  
 高さ 6.5 幅 48.0×52.0  
 1983年  
 A-7390



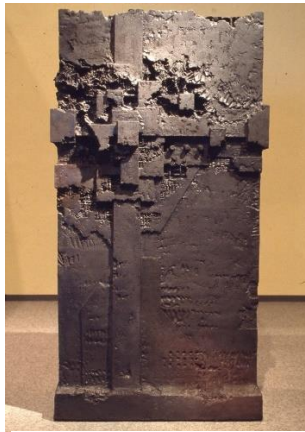
11 三つの面からなる角皿  
 栗木達介 1点  
 高さ 9.0 幅 51.5×51.5  
 1984年  
 A-7391



12 銀紅彩地文陶 まがり  
 栗木達介 1点  
 高さ 77.0 幅 29.0×23.0  
 1985年  
 A-7392



13 銀紅彩地文陶 風韻  
 栗木達介 1点  
 高さ 86.0 幅 28.5×25.0  
 1986年  
 A-7393



14 97-8A  
 加藤清之 1点  
 高さ 190.0 幅 75.0×65.0  
 1997年  
 A-7394



15 98-S4  
 加藤清之 1点  
 高さ 176.0 幅 68.5×59.0  
 1998年  
 A-7395



16 Modern Remains Thunderbolt  
 竹内紘三 1点  
 高さ 105.0 幅 32.0×56.0  
 2019年  
 A-7396

## 寄附資料



1-1 須恵器 陶馬 産地未詳  
伝・三重県松阪市久保町出土 1点  
高さ 11.0  
奈良時代(8世紀)  
岡田千彦氏寄贈  
A-7202



2-1 須恵器 陶馬 美濃須衛  
出土地未詳 1点  
残存最大幅 13.8  
奈良-平安時代(8-9世紀)  
松浦繁蔵氏寄贈  
A-7204



2-4 刻文広口瓶  
渥美 1点  
高さ 24.2 胴径 17.2 底径 8.3  
平安時代末期(12世紀)  
松浦繁蔵氏寄贈  
A-7207



3 刻文甕  
常滑 1点  
高さ 27.7 口径 21.6 胴径 33.3  
室町時代(15世紀)  
村瀬敏治氏寄贈  
A-7212



4-1 織部松皮菱形手鉢  
平澤九朗/名古屋 1点  
高さ 14.3 幅 27.2×28.5  
江戸時代後期(19世紀後半)  
田中孝子氏寄贈  
A-7213



5 陶胎漆器木具写し水盤 1点  
豊楽焼 六代または七代大喜豊助  
高さ 12.0 幅 47.2×33.5  
19世紀後半-20世紀前半  
亀井玄人氏寄贈  
A-7215



6-1 釉下彩蟹図小花瓶  
ゴットフリート・ワグネル/東京 1点  
高さ 9.5 口径 2.2 胴径 5.6  
明治 16年(1883)頃  
植田寛氏寄贈  
A-7216



6-5 青磁耳付花瓶  
京都市陶磁器試験場 1点  
高さ 33.1 口径 12.4 胴径 16.0  
大正 4年(1915)  
植田寛氏寄贈  
A-7220



7-1 白磁カップ&ソーサー  
三郷陶器(株)/尾張旭 1個  
カップ高さ 6.3  
1970年代  
御崎正之代氏寄贈  
A-7225



8 ノベルティ マリアランプ  
丸邦栄製陶(株)／瀬戸 一対  
高さ 27.8 幅 11.8×8.6  
1990年代前半  
高井哲雄氏寄贈  
A-7228



9 光和陶器ノベルティデザイン画  
光和陶器(株)／愛知県瀬戸市・尾張旭市 1件 (計 1,383点)  
紙本着彩・絵具・マーカー・紙本鉛筆デッサン 鳥 1,023点・動物 360点  
1960年代-1990年代  
川原春子氏寄贈  
E-69



10-4 デザートプレート<東洋の花>  
リチャード・ジノリ窯 1点  
口径 22.5  
1735-1775年  
盛田昌夫氏寄贈  
A-7232



10-69 ワイングラスクーラー  
<グランドツアー> 幅 30.0×21.0  
リチャード・ジノリ窯 1点  
1985年 (250周年記念)  
盛田昌夫氏寄贈  
A-7247



10-78 オーバル・ベース  
<ドナテッラ> 幅 33.0×12.1  
リチャード・ジノリ窯 1点  
1996年 (1924年製品を復刻)  
盛田昌夫氏寄贈  
A-7306



11 指し図鉢  
河井寛次郎 1点  
口径 41.2  
昭和 11年(1936)頃  
松村和歌子・服部東穂・服部和氏寄贈  
A-7278



12 98-S2  
加藤清之 1点  
高さ 190.0 幅 75.0×65.0  
1998年  
作者寄贈  
A-7279



13 黒織部三段重  
鈴木五郎 1点  
高さ 41.2 幅 24.5×29.0  
2000年頃  
惣田田氏寄贈  
A-7280

## (2) 資料の活用

### ① 所蔵資料の貸出

美術館等からの借用の依頼に対して、展覧会の内容や該当作品の保存状態などを考慮し、所蔵資料等を貸し出した。

No.	貸出期間	資料名称	点数	借用者	展覧会等の名称
1	令和3.4.1－ 令和4.3.31	灰釉平碗 他	8	愛知県政策企画局秘書課	公館内掲出
2	令和3.4.1－ 令和4.3.31	天目茶碗 他	7	愛知県議会事務局総務課	議長室掲出
3	令和3.4.1－ 令和4.3.31	天目茶碗 他	27	瀬戸市	瀬戸蔵ミュージアム常設展 「瀬戸焼の歩み」
4	令和3.4.1－ 令和4.3.31	青瓷素地 椀蓋 他	12	みよし市立歴史民俗資料館	常設展「みよしの古窯」
5	令和3.6.1－ 令和4.3.31	孫右衛門窯跡出土資料	一括	(公財)瀬戸市文化振興財団	調査研究
6	令和3.6.10－ 令和3.9.30	樹文三耳壺 他	4	福井県陶芸館	特別展「ECHIZEN BRAND」
7	令和3.6.14－ 令和3.12.28	染錦桜楼閣文宝紐蓋付壺 他	6	山口県立萩美術館浦上記念館・(株)キュレーターズ	巡回展「海を渡った古伊万里」
8	令和3.6.30－ 令和3.9.25	杯身 他	22	みよし市立歴史民俗資料館	企画展「猿投開窯」
9	令和3.9.1－ 令和4.3.1	白地黒絵双魚盆 他	2	(公財)土岐市文化振興事業団	特別展「小山富士夫と美濃」
10	令和3.9.15－ 令和3.12.20	三彩鍍	1	岐阜市歴史博物館	特別展「鑑真和上と美濃の僧・栄叡」
11	令和3.9.16－ 令和3.12.19	色絵木の葉文深鉢 他	6	石川県九谷焼美術館	特別展「吉田屋と粟生屋の至宝」
12	令和3.10.12－ 令和3.12.6	染付台付碗 他	9	(公財)瀬戸市文化振興財団	企画展「文明開化とせとやき」
13	令和3.11.5－ 令和5.12.25	吹墨色絵水禽文大皿 他	5	パナソニック汐留美術館・国立工芸館・山口県立萩美術館浦上記念館・佐賀県立九州陶磁文化館・MOA美術館・茨城県陶芸美術館・兵庫陶芸美術館・NHKエンタープライズ中部	巡回展「未来へつなぐ陶芸－伝統工芸のチカラ展」
14	令和3.11.11－ 令和4.3.14	古染付写雲鶴獸文手桶形水指 他	4	瀬戸市美術館	特別展「川本治兵衛」
15	令和4.3.15－ 令和4.10.31	PACK A	1	千葉市美術館・(独行)国立美術館京都国立近代美術館	巡回展「清水九兵衛/七代清水六兵衛回顧展」

\*掲載は貸出順。令和2年度から3年度にかけて2ヶ年度に渡る貸出については『館報』28号に掲載。

\*寄託資料等、当館保管資料を含む。

### ② 所蔵資料の写真撮影等

出版社等からの写真撮影・掲載等の依頼に対して、出版物等の内容を考慮し、撮影・掲載等を承認した。

No.	掲載等年月日	資料名称	点数	申請者/掲載者	掲載誌等の名称
1	令和5.3.25	青花牡丹唐草文盤 他	10	宮下陽	愛知県立芸術大学美術研究科博士後期課程美術専攻博士学位論文
2	令和4.3月	愛知用水関連資料須恵器饗膳具	一括	井上隼多	名古屋大学人文学研究科博士後期課程考古学専攻博士学位論文
3	令和3.5.17刊行	大甕 他	8	(株)目の眼	『目の眼』2021年6月号
4	令和3.6.10－ 令和3.9.30	樹文三耳壺 他	4	福井県陶芸館	特別展「ECHIZEN BRAND」図録他
5	令和3.5.17刊行	灰陶四合院	1	(株)目の眼	『目の眼』2021年6月号

No.	掲載等年月日	資料名称	点数	申請者／掲載者	掲載誌等の名称
6	令和 3. 5. 23 刊行	禁煙（禁煙の名人）	1	日本経済新聞社大阪本社	日本経済新聞日曜版「美の粋」
7	令和 3. 6. 1－令和 4. 3. 31 撮影・実測	孫右衛門窯跡出土資料	一括	(公財)瀬戸市文化振興財団	『研究紀要』
8	令和 3. 6 月－ 令和 3. 11. 23	三彩鉢	1	岐阜市歴史博物館	特別展「鑑真和上と美濃の僧・栄叡」図録他
9	令和 3. 7 月撮影 令和 4. 3 月刊行	染付松竹梅文茶碗	1	(株)淡交社	『茶の湯の茶碗』
10	令和 3. 7. 15 刊行	黄瀬戸茶碗 他	2	(株)小学館クリエイティブ	成美堂出版『図解戦国史』
11	令和 3. 6. 30－ 令和 3. 9. 25	杯身 他	22	みよし市立歴史民俗資料館	企画展「猿投開窯」図録他
12	令和 3. 6. 10 掲出	甕	1	とこなめ陶の森	資料館常設展示内パネル及び常設展示図録
13	令和 3. 7. 15－ 令和 4. 2. 13	白地黒絵双魚盆 他	2	(公財)土岐市文化振興事業団	特別展「小山富士夫と美濃」広報用資料他
14	令和 3. 11 月刊行	テーブルセット ブルーオニオン	1	(株)アルバ	ポプラ社『総合百科事典ポプラディア』
15	令和 3. 10. 2－ 令和 3. 12. 5	色絵木の葉文深鉢 他	6	石川県九谷焼美術館	特別展「吉田屋と粟生屋の至宝」図録他
16	令和 3. 8 月撮影 令和 3. 10. 16 刊行	染付台付碗 他	9	(公財)瀬戸市文化振興財団	企画展「文明開化とせとやき」図録
17	令和 5. 4 月	双耳深鉢 他	6	文部科学省初等中等教育局	教科書『セラミック工業』
18	令和 3. 11. 10 刊行	双耳深鉢	1	(株)筑摩書房	『はじめての考古学』
19	令和 3. 10 月実測 令和 3. 12. 20 提出	土偶形容器	1	稲垣彩乃	奈良大学文学部文化財学科卒業論文
20	令和 3. 11. 20－ 令和 4. 3. 13	古染付写雲鶴獸文手桶形水指 他	4	瀬戸市美術館	特別展「川本治兵衛」図録他
21	令和 3. 11. 24 刊行	色絵龍虎図輪花皿 他	12	編集室青人社	(株)パイ インターナショナル『美しい日本の伝統色』
22	令和 3. 10. 7 放映	青花宝相華唐草文鉢	1	東京メトロポリタンテレビジョン(株)	TOKYO MX「バラいろダンディ」
23	令和 3. 12. 16 放映	灰釉多口瓶 他	18	(株)日企	CS ディスカバリーチャンネル「明日への扉」
24	令和 3. 10 月－ 令和 5. 12. 25	吹墨色絵水禽文大皿 他	5	パナソニック汐留美術館・国立工芸館・山口県立萩美術館浦上記念館・佐賀県立九州陶磁文化館・MOA 美術館・茨城県陶芸美術館・兵庫陶芸美術館・NHK エンタープライズ中部	巡回展「未来へつなぐ陶芸－伝統工芸のチカラ展」図録他
25	令和 4. 1. 1 刊行	井ヶ谷 78 号窯跡出土遺物	一括	刈谷市歴史博物館	刈谷市『市民だより』1 月 1 日号
26	令和 4. 2 月－ 令和 4. 10. 31	PACK A	1	千葉市美術館・(独行)国立美術館京都国立近代美術館	巡回展「清水九兵衛/七代清水六兵衛回顧展」図録他
27	令和 4. 1. 18－ 令和 4. 1. 23	白地黒絵双魚盆 他	10	堀尾真央	「やきもんよう展」参考画像（名古屋学芸大学卒業制作展）
28	令和 4. 2 月	Oscillation	1	阿部出版	『現代陶芸家の肖像』
29	令和 4. 5 月	深鉢 他	2	タク・ヨンジュ(韓国)	江西教育出版社有限責任公司『韓国古代陶瓷美』
30	令和 4. 4 月	双耳深鉢	1	(株)朝日新聞出版	『縄文人は海を越えたか?』
31	令和 4. 4 月	色絵秋草文瓶	1	(株)都市ガバナンス研究所	栗田ギャラリー&ライブラリー常設展示掲出

No.	掲載等年月日	資料名称	点数	申請者／掲載者	掲載誌等の名称
32	令和4.4月	青花芙蓉手盤 他	4	(株)翔泳社	『あたらしい洋食器の教科書』

\*掲載は申請、承認順。

\*寄託資料等、当館保管資料を含む。

### (3) 文化財指定

令和3年7月30日付け愛知県文化財保護審議会において、下記資料について指定を可とする旨の答申があり、8月6日付け愛知県指定文化財に新規指定された。

#### 新規指定 有形文化財（当館分）

種別	名称	員数	所在地	所有者
工芸	猿投灰釉手付長頸瓶	1口	瀬戸市南山口町234 愛知県陶磁美術館	愛知県
工芸	猿投灰釉長頸瓶	1口	瀬戸市南山口町234 愛知県陶磁美術館	愛知県



愛知県指定文化財(工芸)  
「猿投灰釉手付長頸瓶」  
令和3年8月6日指定・工芸135  
須恵器 環耳付長頸瓶 猿投 1点  
高さ25.5 口径9.6 胴径18.5 底径11.1  
平安時代初期(8世紀末)  
伝 みよし市・黒笹36号窯跡出土  
林助三郎氏旧蔵・令和元年度寄贈  
A-7174



愛知県指定文化財(工芸)  
「猿投灰釉長頸瓶」  
令和3年8月6日指定・工芸136  
白瓷 灰釉長頸瓶 猿投 1点  
高さ28.7 口径15.4 胴径21.4 底径13.3  
平安時代前期(9世紀)  
伝 西尾市・矢作古川江原橋下遺跡出土  
平成20年度購入  
A-4416

### 3 調査・研究

当館活動の基盤として、陶磁や博物館等に関する調査・研究に取り組み、その成果を館内外で情報発信した。

#### (1) 調査事業等

学芸員の調査活動等のうち、主なものは以下のとおりである。

内 容	期 間	場 所	学芸員
「沖縄県立芸術大学研究紀要」第30号 論文査読	令和3.9.28－令和4.1.19	愛知県陶磁美術館	佐藤
東京国立近代美術館美術作品評価	令和3.12.8	国立工芸館	佐藤
兵庫陶芸美術館収蔵品収集価格評価	令和3.11.20	兵庫陶芸美術館	大槻
滋賀県立陶芸の森陶芸館陶芸作品等価格評価	令和4.1.26	滋賀県立陶芸の森	大槻

#### (2) 研究論文・研究発表

##### ① 研究論文等

論 文 名	誌 名 / 号	発 行	学芸員
「近代窯業の父としてのワグネルについて－ワグネルによる旭焼の創出を中心に－」	『化学史研究』第48巻第2号	化学史学会 令和3.6.15	佐藤
「『陶磁水滴コレクション－大島コレクション－』の世界」	展覧会図録『水滴 小さき陶芸』	愛知県陶磁美術館 令和3.6.26	小川
「特別展『海を渡った古伊万里～ウィーン、ロースドルフ城の悲劇～」	『JAPPI NEWSLETTER』No.263	日本陶磁器産業振興協会 令和3.4.1	佐久間
「百面相の狛犬：なぜ？ どうして？」	深川神社コラム「瀬戸歳時記」	深川神社 令和3.7.25	佐久間
各地の御庭焼「犬山焼－犬山城主・成瀬家に縁の深いやきもの」	『淡交』10月号	淡交社 令和3.9.28	佐久間
「愛知県陶磁美術館の陶製こま犬コレクション」	『やきものの狛犬』	NPO法人やきもの文化と芸術振興協会 令和4.1	佐久間
「特別展『華＊花－四季の花と中国陶磁史－』第1回」	『JAPPI NEWSLETTER』No.268	日本陶磁器産業振興協会 令和3.9	田畑
「華＊花－四季の花と中国陶磁史－」	展覧会図録『華＊花－四季の花と中国陶磁史－』	愛知県陶磁美術館 令和3.10.9	田畑
「華＊花－四季の花と中国陶磁史－」	『陶説』No.821	日本陶磁協会 令和3.10	田畑
「特別展『華＊花－四季の花と中国陶磁史－』第2回」	『JAPPI NEWSLETTER』No.269	日本陶磁器産業振興協会 令和3.10	田畑
「フォーカス・アイ 黒川徹 虚と実を結び、やきものの普遍性を描き出す」	『炎芸術』第148号	阿部出版 令和3.11	入澤
「昭和レトロモダン－洋食器とデザイン画－」	展覧会パンフレット『昭和レトロモダン』	愛知県陶磁美術館 令和4.1	入澤
「やきもの現代考証論」	展覧会パンフレット『テーマ展 やきもの現代考』	愛知県陶磁美術館 令和4.1	入澤
「昭和レトロモダン－洋食器とデザイン画－」	『陶説』第824号	日本陶磁協会 令和4.2	入澤

論文名	誌名 / 号	発行	学芸員
企画展『昭和レトロモダン—洋食器とデザイン画—』	『JAPPI NEWSLETTER』No. 273	日本陶磁器産業振興協会 令和 4. 2	入 澤
「中世前期東海地方の子持器台・子持椀・子持皿小考」	『滋賀県立大学考古学研究室論集 I —考古学研究室 25 周年・中井均先生退職記念—』	滋賀県立大学考古学研究室 令和 3. 6	大 西
研究ノート「中世猿投窯の三筋壺生産の特質」	『貝塚』77号	物質文化研究会 令和 3. 11	大 西
「山々には窯焚きの煙—岩崎・鳴海・折戸・黒笹地区—」	『令和3年度 考古学セミナー あいちの考古学 2021 資料集』	(公財)愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター 令和 3. 12	大 西
最近出土の陶磁トピックス (2020年1月—12月) 「(3) 東海地方」	『東洋陶磁学会会報』第96号	東洋陶磁学会 令和 3. 12	大 西
「8世紀前半以前の西三河の須恵器生産」	『伊保廃寺発掘調査報告書』	名古屋大学大学院 人文学研究科考古学研究室・豊田市 令和 4. 3	大 西
「やきものマイクロズム」	展覧会図録『水滴 小さき陶芸』	愛知県陶磁美術館 令和 3. 6. 26	宮 川
展覧会図録掲載論文英訳	展覧会図録『水滴 小さき陶芸』	愛知県陶磁美術館 令和 3. 6. 26	宮 川

## ② 研究発表等

発表名等	発表日	場 所	学芸員
特別講演「近代窯業の父としてのワグネルについて—ワグネルによる旭焼の創出を中心に—」 (化学史学会)	令和 3. 7. 3	愛知県立大学 (オンライン講演)	佐 藤
「陶磁文化に触れる」(ものづくり文化講義)	令和 3. 7. 15	愛知工業大学	佐 藤
「愛知のやきもの」(国際芸術祭「あいち 2022」 ラーニング「愛知と世界を知るためのリサーチ ① 監督と学ぶ 片岡真実」第3回)	令和 3. 8. 22	アートラボあいち	佐 藤
記念講演会「九谷焼と江戸時代後期の地方窯」 (特別展「吉田屋と粟生屋の至宝」)	令和 3. 11. 14	石川県九谷焼美術館	大 槻
「日本のやきものと季節の表現」 (NPO 法人やきもの文化と芸術振興協会 2021 年度 やきもの大学)	令和 3. 12. 4	愛知県陶磁美術館 講堂	大 槻
「寛永染付・藍織部について」に対するコメント (阿弥の会第4講)	令和 4. 2. 19	ぎやらり壺中天	小 川
博物館メディア論ゲスト「「楽しかった」と 言ってもらうために」	令和 3. 10. 20	学習院大学 (オンライン講義)	佐久間
「近代犬山焼の新資料 尾関作十郎家と六世乾山」 (令和3年度考古学セミナー「あいちの考古学 2021」ポスターセッション及び口頭発表)	令和 3. 12. 11 令和 3. 12. 12	名古屋市博物館 展示説明室および講堂	佐久間 宮 川
「華*花 —四季の花と中国陶磁史—」 (主催: 愛知県図書館)	令和 3. 10. 21	愛知県図書館	田 畑
「華*花 —四季の花と中国陶磁史—」 (主催: 葵美術グループ)	令和 3. 11. 22	イーブルなごや	田 畑

発表名等	発表日	場 所	学芸員
「民藝運動の黎明－三國荘を中心に－」 (NPO 法人やきもの文化と芸術振興協会 2021 年度 やきもの大学)	令和 3. 7. 10	愛知県陶磁美術館 講堂	入 澤
「民藝運動の展開－同人たちの活動を中心に－」 (NPO 法人やきもの文化と芸術振興協会 2021 年度 やきもの大学)	令和 3. 9. 11	愛知県陶磁美術館 講堂	入 澤
「楠部彌弌の蔵書にみる思想と時代背景」	令和 3. 11. 1	京都市立芸術大学	入 澤
「伝統工芸の概念的成立過程－第一～七回日本伝 統工芸展を手がかりとして－」(東海伝統工芸研 究会)	令和 4. 2. 13	愛知県陶磁美術館 会議室	入 澤
「山々には窯焚きの煙－岩崎・鳴海・折戸・黒笹 地区－」(令和 3 年度考古学セミナー「あいちの考 古学 2021」)	令和 3. 12. 11	名古屋市博物館 講堂	大 西
「近畿地域における猿投産須恵器」(科研基盤研 究(B) 日本古代土器の複眼的編年検証に基づく通 時代的特質の解明(研究代表者 中久保辰夫) オンライン研究会)	令和 4. 3. 6	オンライン開催	大 西
「須恵器」(愛知大学総合郷土研究所公開シンポ ジウム「副葬品がかたる古墳文化－寺西 1 号墳シ ンポジウム－」)	令和 4. 3. 19	豊橋市公会堂	大 西 (共同)

### (3) 研究紀要

『愛知県陶磁美術館 研究紀要 27』を当館公式 WEB ページ上で刊行した。

論 文 名	掲載頁	学芸員
愛知県下の窯業遺跡出土資料に関する基礎的調査報告Ⅴ －猿投窯黒笹 91 号跡、中世猿投窯出土重要陶片の考古学的調査的調査－	1-24 頁	大 西
講義録 愛知県立大学・学芸員課程「博物館教育論」2020 第 3 講「博物館教育概論－博物館が行う教育普及事業の特質とは?－」	25-34 頁	小 川

#### 4 教育・普及

多様な魅力を有する陶磁文化について理解を深めるため、講演会や講座、ワークショップ等を開催した。また、学校教育や地域団体との連携事業に取り組んだ。

##### (1) 教育講座（館内）

###### ① 展示関連事業

展示について理解を深めるため、講演会、講座、ワークショップなどを開催している。

###### ①-1 特別展「海を渡った古伊万里 ～ウィーン、ロースドルフ城の悲劇～」

行事名		月 日	会 場	講 師	参加者数
記念講演会Ⅰ 「破壊された陶磁の語る宮廷文化」		4月10日(土)	講堂	荒川正明氏(学習院大学 教授/本展監修者)	106人
記念講演会Ⅱ「ウィーン万国博覧会とロ ースドルフ城の陶磁コレクション」		5月1日(土)	講堂	森谷美保氏(美術史家 /本展企画協力者)	76人
特別対談 「陶磁器修復の世界」		4月11日(日)	講堂	繭山浩司氏(修復家) 荒川正明氏	76人
学芸員による 連続講座 「入門編!海 を渡った陶磁 器」	「古伊万里、西洋へ 青・赤・金」	4月18日(日)	講堂	伊藤嘉章(総長)	86人
	「輸出の華・幕末明治 の陶磁」	5月9日(日)	講堂	大槻倫子(学芸課長)	71人
	「海を渡った明清陶 磁」	5月30日(日)	講堂	田畑潤(学芸員)	72人
	「ヨーロッパの磁器 白への憧れ」	6月6日(日)	講堂	宮川菜々子(学芸員)	57人
学芸員・佐久間真子による ギャラリートーク ※5月23日及び6月13日は、緊急事態 宣言発出を受け、スライドトークに変更		5月4日(火・祝)	1階展示室	佐久間真子(学芸員)	15人
		5月23日(日)	講堂		25人
		6月13日(日)			30人
ワークショッ プ「重ねて描 く」	「特別鑑賞・ 紙に文様を描く」	4月24日(土)	1階展示室 陶芸館	岩渕 寛(陶芸指導員) 近藤ひとみ(陶芸指導員) 佐久間真子(学芸員) 宮川菜々子(学芸員)	22人
	「素焼き素地に下絵付 け(染付)」	5月8日(土)	陶芸館		22人
	「染付の器に上絵付け (色絵)」	5月22日(土)			22人

※ワークショップの内容は50頁を参照

###### ①-2 特別展「華\*花 -四季の花と中国陶磁史-」

行事名		月 日	会 場	講 師	参加者数
担当学芸員に よる連続講座	「華*花 牡丹」	10月24日(日)	講堂	田畑潤(学芸員)	51人
	「華*花 蓮」	11月14日(日)			53人
	「華*花 菊」	11月28日(日)			30人
	「華*花 梅」	12月12日(日)			40人
担当学芸員に よる中国茶会 と講座	「華*花茶会 牡丹」	10月22日(金)	茶室「陶翠 庵」・本館第 1展示室	田畑潤(学芸員) [コロナ関連中止]	—
	「華*花茶会 蓮」	11月12日(金)			—
	「華*花茶会 菊」	11月26日(金)			—
	「華*花茶会 梅」	12月10日(金)			—
担当学芸員によるギャラリートーク		10月16日(土)	本館第2展 示室・第1 展示室	田畑潤(学芸員)	18人
		10月30日(土)			20人
		11月6日(土)			24人
		11月20日(土)			22人
		12月4日(土)			25人
		12月11日(土)			30人
ワークショッ プ「掻き*花 器」	「花器作り」	10月10日(日)	陶芸館	加藤清之氏 (陶芸作家)	16人
	「特別鑑賞・掻落し」	10月17日(日)	本館・陶芸館		16人
	「いけばな」	12月5日(日)	本館		16人

※ワークショップの内容は50頁を参照

### ①-3 企画展「水滴 小さき陶芸 –大島国康コレクションを中心に–」

行事名	月 日	会 場	講 師	参加者数
記念講座・ワークショップ「水と硯」	8月22日(日)	陶芸館	五代名倉鳳山氏 (硯刻家)	20人
講座「陶磁水滴コレクション–大島コレクションの世界」	7月4日(日)	講堂	小川裕紀(主任学芸員)	35人
講座「やきものマイクロズム–愛知県陶磁美術館の小さなやきもの宇宙」	9月5日(日)	講堂	宮川菜々子(学芸員)	34人
ワークショップ「古瀬戸水滴の鑑賞と制作」	7月11日(日)	陶芸館	岩渕 寛(陶芸指導員) 小川裕紀(主任学芸員)	20人
ワークショップ「平面から DOGU–立ち上がれ小さき人々」	8月1日(日)	陶芸館	清水美香子(陶芸指導員) 宮川菜々子(学芸員)	12人

※ワークショップの内容は50頁を参照

### ①-4 企画展「昭和レトロモダン –洋食器とデザイン画–」

行事名	月 日	会 場	講 師	参加者数	
記念講演会「洋食器の加飾技法」	令和4年 1月8日(土)	講堂	高木典利氏 (近代陶磁研究家)	45人	
担当学芸員による連続講座	「昭和初期の陶磁器研究所にみる洋食器デザイン」	2月20日(日)	展示説明室	佐藤一信(副館長)	39人
	「昭和中期の洋食器とデザイン画–三郷陶器を中心に–」	3月6日(日)	展示説明室	入澤聖明(学芸員)	41人
担当学芸員によるギャラリートーク	1月16日(日)	本館第1展示室・第2展示室	入澤聖明(学芸員)	22人	
	1月30日(日)			21人	
	2月26日(土)			19人	
	3月12日(土)			8人	
	3月21日(月・祝)			16人	
ワークショップ「レトロかわいい転写シールでボンボニエールをつくろう!」	「素地づくり」	1月15日(土)	陶芸館 本館第1・第2展示室、陶芸館	入澤聖明(学芸員) 岩渕 寛(陶芸指導員) 近藤ひとみ(陶芸指導員) 吉田庄吾(陶芸指導員)	15人
	「転写シール貼り」	2月5日(土)			

※ワークショップの内容は51頁を参照

### ①-5 特集展示「喫茶の碗の物語」

行事名	月 日	会 場	講 師	参加者数
特別講座 「喫茶の碗の物語–その展開と魅力–」	11月13日(土)	講堂	伊藤嘉章(総長)	63人

※NPO やきもの文化と芸術振興協会と共催。詳細は42頁を参照

### ①-6 本館テーマ展「愛知の新たな宝」

行事名	月 日	会 場	講 師	参加者数
講座「名陶で学ぶ古代猿投窯の歴史」	9月19日(日)	講堂	小川裕紀(主任学芸員)	34人

### ①-7 若手作家紹介事業 01 「やきもの現代考「内々外」

行事名	月 日	会 場	講 師	参加者数	
アーティストトーク	令和4年 1月22日(土)	本館1階 回廊	樽田裕史氏、奥直子氏、 横田典子氏、松永圭太 氏、渡邊太一郎氏	19人	
学芸員ギャラリートーク	1月30日(日)	本館1階 回廊	入澤聖明(学芸員)	15人	
	2月12日(土)			18人	
	2月26日(土)			19人	
	3月12日(土)			8人	
	3月21日(月・祝)			16人	
	3月26日(土)			15人	
Live Performance in 陶芸館	「Cave」	2月27日(日)	陶芸館	松永圭太氏(陶芸作家)	12人
	「光纏ウ」	3月27日(日)	陶芸館	樽田裕史氏(陶芸作家)	14人

※Live Performanceの内容は51頁を参照

### ② ボランティア研修(公開講座)

「愛知県陶磁美術館ボランティア」(後掲)の活動を支援するため、主に当館学芸員が講師として毎月1回の研修会を開催している。また、県民の学習機会を拡大するため、受講者を当館ボランティアに限定せず、公開講座として実施してきた。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、一般来館者へは公開しなかった。

行事名	月 日	会 場	講 師	参加者数
令和3年度当館事業及び令和2年12月実施アンケートのフィードバック	4月23日(金) 4月24日(土)	講堂	学芸課	計31人
当館のコロナ対策、ボランティア活動のコロナ対策と災害時の行動について	5月21日(金) 5月22日(土)	講堂	学芸課	計29人
災害時の対応について 新収蔵の重要古陶磁について	8月27日(金)	講堂	佐藤一信(副館長) 大槻倫子(学芸課長) 小川裕紀(主任学芸員)	20人
名品選(第3展示室名品コーナー)が変わった!	10月29日(金)	講堂	伊藤嘉章(総長) 大西 遼(学芸員)	25人
名品コーナーのリニューアルについて (中世/近世/近代)	11月26日(金)	講堂	小川裕紀、宮川菜々子 (学芸員)、佐藤一信	23人
他館見学/瀬戸市美術館特別展「川本治兵衛」観覧	令和4年 1月28日(金)	瀬戸市 美術館	山内香徳氏(瀬戸市美術 館学芸員) 西野 航氏(同)	16人
名品コーナーのリニューアルについて (外国陶磁) 企画展「昭和レトロモダン」、若手作家 紹介事業01「やきもの現代考「内々外」	2月25日(金)	講堂	田畑 潤(学芸員) 入澤聖明(学芸員)	21人
災害時の対応について リ・デザイン・狛犬	3月25日(金)	講堂 玄関ロビー	佐藤一信・大槻倫子・田 畑 潤、 佐久間真子(学芸員)	20人

\*各日ともに午後1時30分-3時に実施した。

### ③ はじめての陶磁美術館

より身近で、多角的な視点から焼き物を紹介し、当館への来館層を拡大するため、例年様々なテーマで講演会や見学会などを開催してきた。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、実施しなかった。

## (2) 教育講座（館外）

### ① 「移動美術館 2021－愛知県美術館・愛知県陶磁美術館のコレクションから－」

館外展示について理解を深めるため、関連する講演及びレクチャーを愛知県美術館、田原市博物館及び田原市教育委員会と協力して実施した。

行事名	月 日	会 場	講 師	参加者数
記念講演会 1「生きもののかたち」	6月26日(土)	華山会館	拝戸雅彦 (愛知県美術館長)	22人
記念講演会 2「やきものは楽しい 愛知県陶磁美術館へ行こう」	7月10日(土)	華山会館	佐藤一信 (陶磁美術館副館長)	20人
スライドトーク	7月18日(日)	華山会館	中野 悠 (県美学芸員)	20人
	8月1日(日)		大西 遼 (陶美学芸員)	18人

### ② 県政お届け講座

愛知県広報広聴課が広報・受付窓口を行っている「県政お届け講座」のうち、陶磁美術館が担当する講座「もっと知りたい! 愛知のやきもの」について実施した。

行事名	月 日	会 場	講 師	参加者数
東部ゆうゆう学級 (小牧市教育委員会)	10月14日(水)	小牧市東部市民センター	小川裕紀 (主任学芸員)	30人

## (3) 子ども向け事業

### ・ 愛知県児童総合センター連携プログラム

当館では、子どもと大人が児童館と美術館を自在に行き来し、アートを通じてともにのびのびと育つことを目的に、愛知県児童総合センターと連携プログラムを行っている。

例年は「土どろウォーキング」「あなをほる」「土をやく」「ベビーカーツアー」を開催しているが、本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、下記のみを人数制限の上、実施した。

行事名	月 日	会 場	講 師	参加者数
土どろウォーキング	5月29日(土)	愛知県児童総合センター －当館 (徒歩移動)	佐藤一信 (副館長)	24人
土をやく	つくる	10月10日(日)	愛知県児童総合センター	12人
	やく	11月21日(日)		18人
	みる	11月23日(火・祝)		12人

## (4) 学校教育との連携事業

当館の人材、資料、施設などを活用し、小中学校、大学等と連携して教育活動を実践した。

### ① 常設展の開催

「愛知のやきもの「今」」・「愛知のやきもの1万年」(※詳細は13頁参照)

### ② 各種教育プログラムの実施

#### ②-1 スクール・プログラム (見学コース)

行事名	内 容
自由見学コース	学校団体のオリジナルプランで自由に見学した。
学芸員ガイダンス付 コース	事前申込のあった学校団体に対し、学芸員がガイダンス・展示説明等を行った。

特別企画コース	学校団体との事前協議に基づき、学芸員が展示室・復元古窯・古窯館等の現地説明を行った。
---------	--

\*本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、展示室での説明は行わなかった。

## ②-2 スクール・プログラム（その他）

### 「学校出前講座」

焼き物を通して我が国と地域の歴史と文化、芸術の理解を深め、親しみや誇り、美を感じ取る心を育むことをねらいとし、当館保有の陶磁資料等を実物教材として用い、県内小学校数校において実施校教員と当館学芸員が連携して、学級毎に体験型の授業を実施している。

本年度は実施希望校の募集を当館公式 Web ページのみで行い、希望のあった下記 3 校で 4 年社会科「県内の特色ある地域」の「伝統的な工業」に関連するプログラム「愛知のやきもの」を実施した。

月 日	実 施 校	参加者数
令和 4 年 1 月 28 日(金)	名古屋市立北一社小学校 第 4 学年 2 学級	75 人
令和 4 年 2 月 2 日(水)	日進市相野山小学校 第 4 学年 2 学級	46 人
令和 4 年 2 月 9 日(水)	名古屋市立東築地小学校 第 4 学年 2 学級	58 人

### 「中学生等職場体験」

県内中学校等の職場体験学習を支援・協力するため、申し出のあった学校の生徒について、陶芸館で体験実習を行った。

月 日	参 加 校	参加者数
7 月 1 日(木)－令和 4 年 2 月 24 日(木) 計 19 日	愛知県立瀬戸つばき特別支援学校高等部	1 人

## ②-3 カレッジ・プログラム

### 「愛知県陶磁美術館大学等パートナーシップ事業」

大学生等に陶磁文化に親しみ、当館が行う事業への理解を深めてもらうことを目的とした制度。

参加大学等の学生や教職員は、大学等が観覧料を後払いで負担することで当館の展覧会を自由に観覧することができる。また、当館を利用した研究活動等の実施が可能となる。

月 日	参 加 校	利用者数
令和 3 年度	愛知医科大学、愛知学院大学、愛知教育大学、愛知県立芸術大学、愛知県立大学、愛知工業大学、金城学院大学、中京大学、中部大学、東海学園大学、名古屋外国語大学、名古屋学院大学、名古屋学芸大学、名古屋経営短期大学、名古屋工業大学、名古屋産業大学、名古屋造形大学、名古屋大学、名城大学、愛知高等学校、名城大学附属高等学校 (計 21 大学等、令和 4 年 3 月 31 日現在)	学生 527 人 教職員 83 人 計 610 人
主な教育・研究的利用		
4 月－11 月	名古屋大学 人文学研究科博士後期課程 資料調査	1 人
7 月 3 日(土)	中部大学 学芸員課程「博物館実習」事前指導 (館園見学)	31 人
7 月 22 日(木) － 7 月 28 日(水)	愛知学院大学、愛知県立芸術大学 学芸員課程「博物館実習」館園実習 (※39 頁を参照)	各 1 人
11 月 6 日(土) －11 月 7 日(日)	愛知県立芸術大学 美術研究科博士前期課程「プロジェクト研究 I」 (※39－40 頁を参照)	教員 3 人 学生 6 人
11 月 17 日(水)	名古屋大学 美学美術史研究室 展示見学	17 人

## 「博物館実習」

大学における学芸員課程の教学に協力するため、申し出のあった大学・学生について、当館学芸員が館内で実習指導を行った。例年は実習内容として教育・普及事業の実施補助－接客業務を含むが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、教育・普及関連の実習は実施しなかった。

参加大学：愛知学院大学・愛知学泉大学・愛知県立芸術大学・京都精華大学・京都橘大学・信州大学・八洲学園大学 各1名、計7名

月 日	実 習 内 容
7月22日(木)	事業紹介、展示・教育事業講義、広報宣伝概説、施設見学、陶磁取扱い実習
7月23日(金)	陶磁史講義、施設見学、資料調査
7月24日(土)	資料調査、資料撮影、屋外展示管理
7月25日(日)	展示・教育事業案中間発表(演習)、広報宣伝関連業務、茶室等見学
7月26日(月)	資料調査、展示技術(見学、実習)
7月28日(水)	展示・教育事業案発表(演習)、広報宣伝記事発表、講評

\*各日とも時間は午前9時～午後5時。7月27日(火)は、実習は休日。

## 「愛知県立大学講義」

当館と愛知県立大学の連携協定に基づき、「博物館教育論」について当館職員が大学で講義した。

講師：小川裕紀(主任学芸員)(6月16日以外)、岩淵 寛(陶芸指導員)(6月16日のみ)

最終履修登録者：32人

月 日	講 義 内 容
4月14日(水)	教育学概論Ⅰ－教育学は「学習」をどのようにとらえてきたか?－
4月21日(水)	教育学概論Ⅱ－社会における教育の役割とは何か?－
4月28日(水)	博物館教育概論－博物館が行う教育普及活動の特質とは?－
5月12日(水)	博物館教育職制度－法制度における博物館と教育の関係は?－
5月19日(水)	事業の計画と評価－なぜ、その事業を実施するのか?－
5月26日(水)	博物館体験論－人はなぜ、ミュージアムショップでおみやげを買うのか?－
6月2日(水)	博物館教育活動の実際－多様な教育普及事業をどう把握するのか?－
6月9日(水)	ワークシート－ミュージアムにおけるアクティブ・ラーニングのデザインとは?－
6月16日(水)	ワークショップ－ケーススタディ・陶磁美術館陶芸館－
6月30日(水)	博学連携Ⅰ－博物館と学校は、どのように「連携」するのか?－
7月7日(水)	博学連携Ⅱ－ケーススタディ・陶磁美術館と小学校社会科－
7月14日(水)	博物館における研究と展示・教育－ケーススタディ・陶磁美術館と小学校図工科－
7月21日(水)	博物館教育の最新動向－「教育普及」現場の現状と行く末は?－

## 「愛知県立芸術大学講義」

「修士総合研究Ⅱ」について、当館職員が大学で講義を行った。

講師：岩淵 寛(陶芸指導員)

履修登録者：3人

月 日	講 義 内 容
11月24日(水)	愛知県陶磁美術館・陶芸館での講座・ワークショップの運営



博物館実習 (陶磁取扱い実習)



愛知県立芸術大学展示発表 (愛知県陶磁美術館インスタレーション)

## 「愛知県立芸術大学展示発表」

愛知県立芸術大学の美術教育に協力するため、同大学院美術研究科博士前期課程「プロジェクト研究Ⅰ」のフィールドワークとして、当館敷地内で展示発表（計4点）及びガイドツアーを行った。

行事名	月日	会場	主催	展示発表	参加者数
愛知県陶磁美術館 インスタレーション (展示発表)	11月6日(土) -11月7日(日)	当館 芝生広場	当館、 愛知県立 芸術大学	教員：大河内俊 則・倉重光則・ 小林優仁、 学生：プロジェ クト研究履修生6 名	314人 (展示観 覧及び ガイド 参加延 べ人数)
愛知県陶磁美術館 インスタレーション ガイドツアー	11月6日(土) 午後3時-3時20分 午後5時40分-6時	当館 芝生広場			

## (5) ボランティア活動

県民に広く生涯学習の場を提供するとともに、観覧者の学習活動を支援するため、「愛知県陶磁美術館ボランティア」を設置している（令和4年3月31日現在、延べ登録者数・計97人）。

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、来館者への応接を行う展示解説及びガイドボランティアは、昨年度に引き続き本年度も活動を休止した。来館者への応接を行わない発送及び環境整備ボランティアは、昨年度夏の活動再開に引き続き本年度も活動を行った。

種別	概要	活動日	主な活動場所	登録者数
展示解説 ボランティア	常設展「日本と世界のやきもの」 の展示解説を行う。 (設立：平成11年)	開館日全て [コロナ関連休止]	本館2階展示室	39人
ガイド ボランティア	窯業原料等を用いて、やきもの の魅力等をガイドする。 (設立：平成23年)	毎月第1、3日曜日 [コロナ関連休止]	本館玄関ロビー	18人
発送等 ボランティア	広報印刷物の郵便発送（帳合、梱 包等）を補助する。 (設立：平成23年)	主に月2回程度、 火曜日の午前	本館会議室	18人
環境整備 ボランティア	茶畑などの除草、施肥作業を行 う。 (設立：平成29年)	主に5月-11月の月1回、 月曜日の午前	茶畑「愛陶茶園」	22人

## (6) 他団体との連携活動

### ① 地域連携（瀬戸市内）

#### ①-1 瀬戸市との連携

当館が所在する瀬戸市の、文化遺産を活用した文化観光、地域振興事業等を連携実施している。

春季には、陶祖・藤四郎を祀る陶彦社の祭礼「陶祖まつり」において、瀬戸市まるっとミュージアム課（令和4年度から「観光課」）と連携し、陶磁美術館所蔵のこま犬展示と、こま犬作りワークショップを実施した。

冬季には、重要文化財「陶製狛犬」を所蔵する深川神社と連携し、陶磁美術館観覧券半券の提示により、深川神社社務所で特製ポストカードをプレゼントするキャンペーンを実施した。

行事名	月日	会場	講師	参加者数
愛知県陶磁美術館所蔵 こま犬展	4月17日(土)	瀬戸蔵 1階ホール	—	—
こま犬作りワークショップ	4月18日(日)	瀬戸蔵 2階イベントスペース	当館陶芸指導員及び 学芸員	5人
陶磁美術館・深川神社 コラボレーション企画	令和4年1月8 日-4月17日	当館 深川神社	—	—



特別展「海を渡った古伊万里」お迎え花 (松月堂古流)



企画展「水滴 小さき陶芸」お迎え花 (聖生流)

### ①-2 瀬戸いけばな協会との連携

同協会の会員に生け込みを依頼し、各企画展の会期開始日から約1週間、展示室入口前等において、「お迎え花」を設置した。花器は、加藤清之氏（陶芸作家）による作品を用いた。

行事名	月 日	会 場	講 師
特別展「海を渡った古伊万里」お迎え花	4月10日(土) －4月16日(金)	本館 第1展示室入口前	奥村静芽庵氏 (松月堂古流)
企画展「水滴 小さき陶芸」お迎え花	6月26日(土) －7月2日(金)	本館 第1展示室入口前	山田山風斎氏 (聖生流)
特別展「華*花」お迎え花	10月9日(土) －10月15日(金)	本館 第1展示室入口前	今井鈴峰庵氏 水野枝峰庵氏 (千秋流)
企画展「昭和レトロモダン」お迎え花	令和4年 1月8日(土) －1月15日(金)	本館 第1展示室入口前	松原由屋軒氏 (正風華道)

### ①-3 愛知県立瀬戸つばき特別支援学校との連携

同校は当館に近接しており、開校以来毎年、高等部の卒業制作として陶板制作と作品鑑賞を行っている。完成した陶板は、陶壁として同校に設置されている。

行事名	月 日	会 場	講 師	参加者数
卒業制作と常設展観覧	7月13日(火)	陶芸館 本館 第7展示室	当館陶芸指導員 及び学芸員	50人

### ①-4 あいち海上の森センターとの連携講座

「海上の森アカデミー里山暮らしコース」のうち、陶磁の体験学習について当館が担当した。

行事名	月 日	会 場	主 催	講 師	参加者数	
やきもの	制作と 展示見学	11月28日(日)	当館	あいち海上 の森センタ ー	佐藤一信 (副館長)	15人
	焼成	12月18日(土) －12月19日(日)	海上の森 サテライト会場		佐藤一信 (副館長)	延べ 30人

### ①-5 特定非営利活動法人やきもの文化と芸術振興協会との連携

同協会（事務局：瀬戸市内）が実施した学習体験事業等のうち、当館に関連するものは以下の通りである。

#### 「やきもの大学」

やきもの文化に対する社会一般の理解・知識を深めるため、「やきもの」の歴史や作り方、鑑賞方法、使い方等を紹介する講座を、会員及び一般を対象に開催している。

行事名	月 日	会 場	主 催	後 援	講 師	参加者数
民藝1「柳宗悦と民藝」	6月12日(土)	当館講堂	特定非営利活動法人やきもの文化と芸術振興協会	当館	児玉文彦氏(豊田市郷土資料館 民芸館館長)	36人
民藝2「民藝運動の黎明ー三国荘を中心にー」	7月10日(土)	当館講堂			入澤聖明(学芸員)	23人
民藝3「民藝運動の展開ー同人たちの活動を中心にー」	9月11日(土)	当館講堂			入澤聖明(学芸員)	32人
喫茶の碗の物語ーその展開と魅力ー	11月13日(土)	当館講堂			伊藤嘉章(総長)	63人
日本のやきものと季節の表現	12月4日(土)	当館講堂			大槻倫子(学芸課長)	30人
まぼろしの焼物	令和4年 1月22日(土)	当館講堂			橋 倫子氏(茶道資料館学芸課長)	30人

## 「茶摘み2021」「愛陶茶会2021」

当館「陶磁文化連携情報発信事業」の一つとして実施した。

行事名	月 日	会 場	内 容	参加者数
茶摘み2021	5月15日(土)	茶畑「愛陶茶園」	※詳細は52頁を参照	50人
愛陶茶会2021 茶の木・花・種を楽しむ	11月3日(水・祝)	茶畑「愛陶茶園」、 茶室「陶翠庵」、展示説明室		21人

## ② 地域連携(近郊)

### ②-1 イオンモール長久手との協同企画

例年、出張陶芸体験イベント等で協同企画を行っているイオンモール長久手(長久手市)から、リコモ周辺の商業施設及び文化施設を繋ぐ各種イベントの協力打診を受け、企画したものである。令和3年度は「恐竜を作ろう」と「ラリーキャンペーン」を実施した。

### 「恐竜を作ろう」

行事名	月 日	会 場	主 催	協 力	参加者数
作品制作(作陶)	8月14日(土) 8月15日(日)	当館 陶芸館	当館、 イオンモール 長久手	-	43人
「恐竜を作ろう展示会」 (完成作品の展示)	9月20日(月・祝) ー9月26日(日)	イオンモール長久手 2階特設会場			-

### 「ラリーキャンペーン」

行事名	月 日	会 場	主 催	協 力	参加者数
リコモ沿線 GWスタンプラリー	4月29日(木・祝) ー5月9日(日)	[全回] イオンモール長久手、リコモ 藤が丘駅、ロイヤルホームセ ンター長久手、IKEA長久手、 愛・地球博記念公園、当館	イオンモール 長久手	各施設	621人
リコモ沿線 サマースタンプラリー	8月7日(土) ー8月15日(日)	[GWのみ] ながくて観光交流サポート センター [GW及びサマーのみ] 愛知県口論議運動公園			495人
リコモ沿線 ウィンタースタンプラリー	12月18日(金) ー12月27日(日)	[サマーのみ] リコモテラス公益施設、 長久手温泉ござらっせ [ウインターのみ] 長久手市郷土資料館			325人

## ②-2 体感！しだみ古墳群ミュージアムとの協同企画「お庭に埴輪プロジェクト」

体感！しだみ古墳群ミュージアム（名古屋市守山区）から、同館を象徴する埴輪に関連したワークショップへの協力打診を受けて企画した協同企画。※詳細は 51 頁を参照

行事名	月 日	会 場	主 催	協 力	参加者数
「埴輪と焼物の歴史を学ぼう！」	令和 4 年 1 月 23 日(日)	当館常設展示室、古窯館、 陶芸館ほか	体感！ しだみ古墳群 ミュージアム	当館	14 人
「埴輪のカタチを作ろう！」	2 月 6 日(日)	体感！しだみ古墳群 ミュージアム			19 人
「ガーデニングを学び埴輪に色づけをしよう！」	3 月 6 日(日)	体感！しだみ古墳群 ミュージアム			17 人

## ②-3 カルチャーセンター協力講座

当館企画展等への誘客を図るため、名古屋市所在のカルチャーセンターと協力して、レクチャーと展示見学を組み合わせた講座を実施した。

行事名	月 日	会 場	講 師	参加者数
近世に花開いたやきもの文化Ⅰ～伊万里焼	5 月 11 日(火)	朝日カルチャーセンター 名古屋教室	佐久間真子（学芸員）	9 人
	5 月 18 日(火)	当館 1 階展示室		9 人
「海を渡った古伊万里」展 で、華麗な陶磁器の世界を 楽しむ	4 月 20 日(火)	栄中日文化センター	佐久間真子（学芸員）	14 人
	5 月 25 日(火)	当館展示室		14 人
近世に花開いたやきもの文化Ⅱ～京焼クリエーター魂	8 月 31 日(火)	朝日カルチャーセンター 名古屋教室	大槻倫子（学芸課長）	9 人
	9 月 7 日(火)	当館展示室		6 人
四季の花にみる中国陶磁史	11 月 9 日(火)	朝日カルチャーセンター 名古屋教室	田畑 潤（学芸員）	9 人
	11 月 16 日(火)	当館第 2・第 1 展示室		9 人
茶の湯の碗の魅力と展開	11 月 18 日(木)	栄中日文化センター	伊藤嘉章（総長）	35 人
	11 月 25 日(木)	当館第 3 展示室		32 人
近世に花開いたやきもの文化Ⅲ～海外へ進出した“せともの”	令和 4 年 2 月 9 日(水)	朝日カルチャーセンター 名古屋教室	佐藤一信（副館長）	7 人
	2 月 16 日(水)	当館第 3・第 4 展示室		7 人

## ③ 広域連携

### ③-1 「愛知やきものヒストリー2021」

愛知のやきものを扱う複数館（参加 19 館）が協力し、来館者に対して愛知のやきものに親しむ機会を提供した（平成 28 年度以降 5 度目の開催）。今回は「やきものの使い方」に焦点を当てて、各館のやきものの一品を展示紹介し、それに合わせたやきものスタンプラリー（景品付）を行った。

ただし、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、スタンプに代えてシールを用いた。また、新型コロナウイルス感染症・緊急事態宣言発出のため 8 月 26 日(木)で終了したが、当初の終了予定日は 9 月 5 日(日)であった。

行事名	月 日	会 場	主 催	参加者数
愛知やきものヒストリー 2021	7 月 17 日(土) －8 月 26 日(木)	県内博物館施設計 19 館	参加館	381 人 (景品引換者)
[当館実施分] 一品展示「平安時代のタイ ムカブセルー経筒外容器」	7 月 17 日(土) －8 月 26 日(木)	常設展「日本と世界のやきもの」 通史部門・日本ゾーン (本館第 3 展示室・東室)	当館	108 人

### ③-2 愛知県博物館協会

愛知県内に所在する博物館施設が、相互の連絡協力を密にし、事業の振興を図ることを目的として昭和 39 年に設立された。令和 3 年 4 月現在の加盟館は、計 119 館である。

例年は、総会及び理事会を開催している。また、実行委員会及び災害対策分科会を設置して、協会の活動内容などを検討し、実務を分担している。

令和 3 年度は、当館長は監事、当館は監事館として在籍。当館学芸員が実行委員として実行委員会に参加し、他館とともに部門別研修会と非常対策訓練を担当した。また、東海地区博物館連絡協議会の事務局(愛知県)を担当した。

なお、本協会では他に、愛知県博物館等職員研修会(東海三県博物館協会研究交流会と合同)を実施したほか、協会報を発行している。

### ③-3 陶磁ネットワーク会議

公立の陶磁専門館がネットワークを組み、協働することを目的として平成 20 年に設立した。例年、連絡会議を開催して情報交換等を行っている。

令和 3 年度は監事館・福井県陶芸館において「陶磁美術館・博物館の運営体制とその変遷」をテーマに会議が開催された。

加盟館：愛知県陶磁美術館、茨城県陶芸美術館、岐阜県現代陶芸美術館  
佐賀県立九州陶磁文化館、滋賀県立陶芸の森、兵庫陶芸美術館、福井県陶芸館  
山口県立萩美術館・浦上記念館

## ④ 県行政機関との連携

### ④-1 第 38 回伝統的工芸品月間国民会議全国大会との連携展示

「KOUGEI EXPO IN AICHI」が 11 月 27 日から 29 日にかけて Aichi Sky Expo で開催されたことに関連して、経済産業大臣指定伝統的工芸品のうち愛知県ゆかりの製品(計 8 点)を展示紹介した(担当：県経済産業局産業振興課)。

行事名	月 日	会 場	主 催	協 力	観覧者数
KOUGEI EXPO IN AICHI 関連展示	11 月 2 日(火) －11 月 28 日(日)	当館 本館 2 階 ホール(第 4 展示 室外通路)	愛知県伝統的 工芸品月間推 進協議会	愛知県陶磁美術 館	2,077 人

### ④-2 愛知県図書館との連携講座

愛知県図書館が愛知県内の文化芸術施設と連携して「文化芸術に関する連続講座」を開催しており、陶磁美術館学芸員が同館企画展に関連した講義を行った。

行事名	月 日	会 場	主 催	講 師	参加者数
華＊花－四季の花と中 国陶磁史－	10 月 21 日(木)	愛知県図書館	愛知県 図書館	田畑 潤 (学芸員)	10 人

### ④-3 第 10 回愛知県茶会への協力

愛知県茶会とは、お茶の消費拡大及び茶文化の振興を図るために愛知県が主催する茶会である(計 6 席、席主：愛知県知事、担当：農業水産局農政部園芸農産課)。

招待者への呈茶に供するため、瀬戸陶芸協会、常滑陶芸作家協会に所属する陶芸家の方々が愛知県陶磁美術館・茶室「陶翠庵」へ御寄贈いただいた茶器 50 点を、当館より貸し出した。

行事名	月 日	会 場	主 催	協 力	参加者数
愛知県茶会	令和 4 年 3 月 26 日(土)	愛知県公館	愛知県	裏千家淡交会 三河支部	230 人

## (7) ギャラリーの貸出

本館第8展示室を、当館主催展示で用いない期間において、ギャラリーとして県民等に貸し出し、陶磁文化及び陶磁器産業の振興に寄与する展覧会を開催する機会を提供している。

令和3年度は以下の展覧会について当館が共催し、当館所蔵資料の出品、陳列補助、教育・普及事業への協力等を行った。

### ① 令和3年度公益財団法人瀬戸市文化振興財団

#### 企画展「文明開化とせとやき -近代前期の瀬戸窯と美濃窯-」

会期・日数	10月16日(土)～12月5日(日)、開館日数44日		
開催関係者	主催：(公財)瀬戸市文化振興財団(埋蔵文化財センター)、共催：当館		
展示点数	531点(うち、当館所蔵資料9点)		
歴史講演会	11月21日(日)	「現代につながる明治のやきもの生産 -町ごとのオリジナル商品の確立-」	中寫 茂氏 (公財)土岐市文化振興事業団
展示説明会	11月21日(日)	「展覧会ワンポイントレクチャー」	岡本直久氏 (公財)瀬戸市文化振興財団
入場者数	2,009人		

### ② 公益社団法人日本工芸会東海支部

#### 「東海伝統工芸の今 -第52回東海伝統工芸展より-」

会期・日数	令和4年2月5日(土)～2月13日(日)、開館日数8日		
開催関係者	主催：(公社)日本工芸会東海支部、共催：当館		
展示点数	74点		
出品作家による ギャラリートーク	令和4年2月6日(日)	聞き手：入澤聖明(学芸員)	
	令和4年2月11日(金・祝)	聞き手：伊藤嘉章(総長)	
出品作家による 制作実演	令和4年2月11日(金・祝)	染付釉はじき：明石朋実氏	
		大物ろくろ：竹内孝一郎氏	
研究会	令和4年2月13日(日)	講師：伊藤嘉章(総長)、入澤聖明(学芸員)	
入場者数	1,045人		

### ③ 愛知県障害者芸術活動参加促進事業実行委員会

#### あいちアール・ブリュット サテライト展

#### 「マテリアル -土の声にふれる-」

会期・日数	令和4年2月22日(火)～2月27日(日) 開館日数6日
開催関係者	主催：愛知県(福祉局福祉部障害福祉課) 共催：当館、愛知県立芸術大学
展示点数	144点(うち、当館所蔵資料8点)
入場者数	945人

**あいちアール・ブリュット サテライト展**  
マテリアル「～土の声にふれる～」

2022  
2.22 火 - 2.27 日

9:30～16:30  
(入場料16,000まで)

愛知県  
陶磁美術館  
(瀬戸市赤山1丁目21番地)  
本館 第8展示室

「土の聲にふれる」をテーマに、作品の元となる素材の多様性による表現方法のなかで、愛知の各地の土のサウンドを織りこめられた作品を展示します。

あいちアール・ブリュット近郊講座作品展示  
愛知県では、障害のある方の芸術活動を支援するため、近郊地区を中心に、陶磁器の制作体験や展示会を開催しています。愛知の各地の土のサウンドを織りこめられた作品を展示します。

二重奏の音色  
「二重奏の音色」は、陶磁器の制作体験や展示会を開催しています。愛知の各地の土のサウンドを織りこめられた作品を展示します。

愛知県障害者芸術活動参加促進事業実行委員会(愛知障害者芸術)  
〒463-8500 名古屋市中区三の宮1番1号  
TEL: 052-244-6007 FAX: 052-244-6100 E-mail: info@artbrut.aichi.jp

## 5 陶芸館

陶芸館では陶芸指導員の指導により、利用者が希望に応じて自由に作陶体験できる陶芸実習を通年で行うほか、定例の陶芸教室、復元古窯焼成などの陶芸体験事業や、特別展・企画展に関連したワークショップなどを実施した。

なお、利用者が制作（成形・絵付）した作品の乾燥・素焼・施釉・本焼は陶芸指導員（本項では、非常勤職員を含む）が当館内の窯炉などを用いて行った。

### (1) 通年事業：陶芸実習

#### ○ 実習内容

作陶：利用者の希望と経験により、自由に制作（成形）を行う（作品の大きさに制限あり）。  
絵付：予め制作された素焼きの皿・湯呑に絵付を行う。

#### ○ 説明及び指導

作陶の初心者を対象とした説明会を午前9時30分から午後2時30分までの毎時0分・30分に開催した。

また、陶芸指導員が実習室に常時在室し、利用者の要望に応じて指導を行った。

#### ○ 利用者定員

作陶（電動ロクロを除く）・絵付：164人、電動ロクロ：18人

\*新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため作陶82人、電動ロクロ10人

#### ○ 利用時間

午前9時30分から午後4時30分まで

（受付開始：午前9時15分、初心者向け最終説明会：午後2時30分）

全ての受付を電話または、外部サイト「じゃらん・遊び体験」によるインターネットでの事前予約とした。

#### ○ インターネットでの事前予約

外部サイト「じゃらん・遊び体験」を用いて、午前9時30分、11時30分、午後1時30分開始時間の予約を受付けた（陶芸館売店（船井アソシエイツ）にて受付）。

#### ○ 利用料金

（令和4年3月31日現在）

区分	内容	料金	
		一般	中学生以下
実習室 使用料	2時間まで	300円 (240円)	150円 (120円)
	4時間まで	600円 (480円)	300円 (240円)
	7時間まで	900円 (720円)	450円 (360円)
焼成料	作陶（粘土1kg毎）	300円	
	絵付（1個毎）	300円	

\*（ ）内は20名以上の団体料金。

\*粘土や絵付素材などについては、陶芸館内の売店で別途販売。

## (2) 定例事業

### ① 第36回陶芸教室

やきもの作りの技術を様々な角度から習得できるように、当館の陶芸指導員、非常勤職員が個々の経験を活かした多様なコースを担当し、専門性の高い講座を開設した。少人数制の形式をとることに、受講者との距離も近づき、基礎から丁寧に隅々まで心の行き届いた教室を行った。

コース	講師	内容	時間	定員	参加者数	実施日	受講料
初級	日野千春 (陶芸指導員)	やきもの作りが初めての方、初心者の方が対象。紐作り、タタラ作りなど、成形技法の基礎を学ぶ。	午前	20人	10人	7/2、7/9、7/16、7/23、8/6、8/13、8/20	7,560円
			午後	20人	9人		
土曜日の初級	岩渕寛 (陶芸指導員)	平日に時間が取れない方のための初級コース。	午前	15人	7人	11/13、12/11、令和4年 1/8、2/12、3/12	4,730円
			午後	15人	8人		
中級	富田二香 (陶芸指導員)	化粧土を使った「搔落し」「象嵌」技法を習得したい方が対象。花器を制作。	午前	15人	15人	令和4年 2/2、2/9、2/16、2/23、3/2、3/9、3/16、3/23	5,200円
			午後	15人	16人		
上級	近藤ひとみ (陶芸指導員)	練込み技法による装飾技法を習得したい方が対象。六角皿を制作。	午前	15人	15人	11/12、11/19、11/26、12/3、12/10、12/17、12/24	4,730円
			午後	15人	14人		
ろくろ初心者	吉田庄吾 (陶芸指導員)	電動ロクロでの制作の初心者、未経験者が対象。道具や粘土の使い方を学びながら茶碗程度の大きさの器を制作。	午前	10人	10人	7/7、7/14、7/21、7/28、8/11、8/18、8/25、9/1、9/8	5,950円
			午後	10人	10人		
ろくろ応用	東直生 (陶芸指導員)	「コロナに負けるな・縁起物作り」と題し、ろくろで多口瓶、こま犬づくり	午前	10人	0人	令和4年 2/4、2/11、2/18、2/25、3/4、3/11、3/18、3/25	6,000円
			午後	10人	4人		
特別造形講座	加藤清之氏 (陶芸作家)	ワークショップ「搔き*花器」で制作した花器に仕上げを行う。	午後	15人	16人	12/5	イベント参加料として事前に徴収

### ② 復元古窯焼成

#### ②-1 「織部を焼こう」

当館では、復元古窯2基（室町時代の大窯と江戸時代の連房式登窯）の窯体保存と学術研究の観点から試験焼成を行ってきた。令和3年度は連房式登窯を使用し、陶芸作家の加藤清之氏の指導により、桃山時代に焼かれていた「織部」の釉薬、陶土、燃料、焼成方法をできる限り厳密に再現し、約500点の試験体（作品）を焼成した。

指導：加藤清之氏（陶芸作家）

担当：岩渕寛（陶芸指導員）、大西遼（学芸員）、宮川菜々子（同）

富田二香（陶芸指導員）、吉田庄吾（同）

内容	実施日	参加者数
勉強会	9月18日(土)	64人
作陶、仕上げ	10月1日(金)－10月3日(日)	194人
絵付け、施釉	10月22日(金)－10月24日(日)	194人
窯入れ	10月25日(月)－10月28日(木)	17人
焼成	11月6日(土)－11月9日(月)	234人
窯起し	11月15日(月)	20人

\*焼成スタッフ（館職員除く）：延べ40人





左上：復元古窯 連房式登窯・全景  
 右上：同・三の間窯詰状況（焼成前）  
 左下：同・一の間焼成中光景

## ②-2 特別講座「向付に迫る—知る・見る・つくる・そして、使う—」

復元古窯焼成「織部を焼こう」で積み重ねてきた経験を活かし、より精度の高い「織部」を制作することを目的とした講座。制作過程において、「織部」というやきものをより深く考え、感じていただいた。テーマを「向付」に絞り込み、知る、見る、作る、そして使うことを6回に分けて実践した。15名という少人数制で行うことで、密度の濃い内容の講座を参加者、講師と共に作り上げた。

担当：岩渕 寛（陶芸指導員）大西 遼（学芸員）宮川菜々子（学芸員）

内 容	実 施 日	講 師	参加者数
勉強会「向付という器」	7月24日(土)	加藤清之氏（陶芸作家） 神崎かず子氏（元副館長）	14人
元屋敷陶器窯跡出土の陶片鑑賞	8月21日(土)	伊藤嘉章（総長） 大西 遼（学芸員）	14人
土型を作る	9月4日(土)	岩渕 寛（陶芸指導員）	14人
向付を作る(成形)	9月25日(土)	大西 遼（学芸員）	14人
向付を作る(絵付・施釉)	10月16日(土)		14人
向付を使う	11月27日(土)	—	—

\*11月27日講座は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止した。

特別講座  
**向付に迫る**  
 「知る・見る・作る・そして、使う」  
 参加者募集

日程・内容

- ◆勉強会「向付という器」  
7月24日(土)
- ◆元屋敷陶器窯跡出土の陶片鑑賞  
8月21日(土)
- ◆土型を作る  
9月4日(土)
- ◆向付を作る・絵付・施釉  
9月25日(土)・10月16日(土)
- ◆向付を使う  
11月27日(土)

愛知県陶磁美術館  
 2022.7.24

\*制作した「向付」は、復元古窯（前室）で焼成しました。

### ③ 「はじめての陶芸館」

令和2年から開始した、陶芸館の利用促進のための事業。はじめて陶芸館を利用する方の、やきものの作りの入り口となるような講座。やきものを全く作ったことがない方でも、手軽に制作を楽しむ「簡単」な作り方で「使える」器や「陶人形」を制作する陶芸体験を開催した。

テーマ	実施日	参加者数
土を転がし一輪挿し	4月11日(日)	28人
似顔彫刻	5月2日(日)	15人
多肉植物のための器をつくろう	6月6日(日)	25人
恐竜を作ろう	7月4日(日)	79人
押し付けはみ出せ落書き印花皿	8月8日(日)	141人
薪窯で焼く！こま犬	9月26日(日)	22人
薪窯で焼く！俺のぐい呑み	10月14日(日)	56人
干支「寅」	11月13日(日)	36人
節分「福笑う、笑い鬼」	12月12日(日)	70人
「陶雛」 やきものの雛人形	令和4年 1月16日(日)	37人
炎で描く抜き絵の世界	2月13日(日)	26人
五月人形「兜」	3月13日(日)	79人

### ④ アーティスト in 陶芸館

瀬戸・常滑や東海地方で活躍する陶芸作家や現代美術家を講師として招聘し、参加者と交流を深めながら、講師の持つ特別な技術や技法を体感することを目的とした。

テーマ	実施日	講師	参加者数
線を重ねて面へ	5月16日(日)	長江重和氏(瀬戸市)	18人
塊でつくる造形	7月18日(日)	柴田正明氏(常滑市)	19人
黒陶靱殻燻炭	9月19日(日)	高山 大氏(津市)	29人
名古屋絵付でクリスマス	11月21日(日)	杉山ひとみ氏(稲沢市)	17人
水と器と手のかたち	令和4年 2月20日(日)	鈴木孝幸氏(新城市)	12人
泥漿鑄込み 自分だけのスパイスケースを作ろう！	3月20日(日)	岡崎達也氏(岩倉市)	14人



### (3) 展示連携事業

#### ① ワークショップ「重ねて描く」

特別展「海を渡った古伊万里」関連催事として開催した。紙・素焼・ガラス面（釉上）への絵付けの違いを体感する連続講座。「染付」（下絵付け）、「色絵」（上絵付け）を重ねて描く古伊万里の装飾技法に着目した。

1回目は学芸員と共に特別展を観覧し、紙の上に文様を制作。2回目に素焼素地に「染付」。3回目は焼き上がった染付の器（釉上）に「色絵」を施し、作品を完成させた。

焼き上がった作品は、特別展会期中本館ロビーにて展示を行った。

日時：4月24日(日)、5月8日(日)、5月22日(日)、13:30-15:30

会場：本館企画展会場・陶芸館

担当：佐久間真子（学芸員）、宮川菜々子（学芸員）

岩淵 寛（陶芸指導員）、近藤ひとみ（陶芸指導員）

参加：22人



#### ② ワークショップ「古瀬戸水滴の鑑賞と制作」

企画展「水滴 小さき陶芸」展示第一部「書の友、水滴」教育・普及事業として開催した。古瀬戸水滴の陶片を鑑賞し、陶製水滴を作陶する体験。担当学芸員との陶片資料の特別鑑賞のあと、印花・貼花など、古瀬戸の装飾技法に注目して水滴の成形を行った。成形した水滴は、灰釉等を施釉し焼成した。

日時：7月11日(日) 13:30-15:30

会場：陶芸館

担当：小川裕紀（主任学芸員）、岩淵 寛（陶芸指導員）

参加：20人



#### ③ ワークショップ「平面から DOGU 立ち上げれ小さき人々」

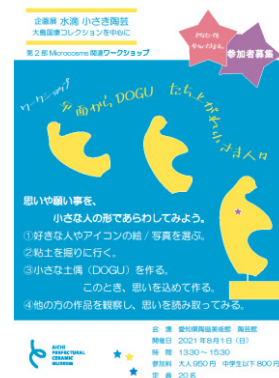
企画展「水滴 小さき陶芸」の展示第二部「Microcosms」教育・普及事業として開催した。自分の大切にしている人や、好きなアイコンをもとに小さな土偶（DOGU）を制作した。参加者は平面（写真・絵・ポスター等）でできた題材を用意した。制作に使用する土は、当館敷地内から採取した。焼成した土偶は、本館ロビーにて展示した。

日時：8月1日(日) 13:30-15:30

会場：陶芸館及び同館周辺

担当：宮川菜々子（学芸員）、清水美香子（陶芸指導員）

参加：12人



#### ④ ワークショップ「掻き\*花器

##### 掻き落とし技法による花器作りといけばな体験

特別展「華\*花」関連催事として開催した。成形・特別鑑賞と装飾・いけばなと続く全3回の連続講座。講師に加藤清之氏を招聘し、磁州窯などで使われる装飾技法の一つ「白化粧掻落し」技法により花器を制作した。完成した花器は透明釉を施釉し、復元古窯にて焼成した。完成した花器を使用し、講師指導の下、「いけばな」を体験した。

日時：10月10日(日) 10:30-15:30 陶芸館

会場 10月17日(日) 10:30-15:30 本館第1展・会議室、陶芸館

12月5日(日) 13:30-15:30 本館玄関ロビー

講師 加藤清之氏（陶芸作家）

担当：田畑 潤（学芸員）、岩淵 寛（陶芸指導員）

参加：16人



## ⑤ ワークショップ「レトロかわいい転写シールで ボンボニエールをつくろう！」

企画展「昭和レトロモダン」関連イベントとしてを開催した。第1日は手ねり技法で蓋物を作り、本焼成。第2日は担当学芸員の解説の後、昭和時代に使われていた「転写シール」を切り取り、参加者の感性で再構成して貼り付け、730℃で上絵焼成をした。昭和レトロなデザインを身にまとった令和の「ボンボニエール」が完成した。

日時：令和4年1月15日(土) 13:30-16:00

令和4年2月5日(土) 13:30-15:30

会場：本館企画展会場、陶芸館

担当：入澤聖明(学芸員)、岩渕寛(陶芸指導員)

近藤ひとみ(陶芸指導員)、吉田庄吾(陶芸指導員)

参加：24人



## ⑥ Live Performance in 陶芸館

若手作家紹介事業01「やきもの現代考「内&外」」関連行事として開催した。出品作家の松永圭太氏・樽田裕史氏を講師として招聘し、公開制作を行った。参加者との交流を深めながら、講師が持つ特別な技術や技法を体感することを目的とした。

令和4年2月27日(日)「Cave」

講師：松永圭太氏

参加：12人

令和4年3月27日(日)「光纏ウ」

講師：樽田裕史氏

参加：14人

両回とも、13:30-15:30に陶芸館で開催



## (4) その他連携事業

### ① 体感！しだみ古墳群ミュージアムとの協同企画

#### 「お庭に埴輪プロジェクト」

古代の焼物の歴史を学びながら、参加者のオリジナル埴輪を作って、個々の家庭の庭やベランダに飾る企画。体感！しだみ古墳群ミュージアムと当館の資料や施設、職員が交流しながら、古墳時代のやきものを中心に、陶磁文化を地域の人たちに伝えることを目的とする。

第1回「土の採取」は当館にて古墳時代のやきものを中心に当館学芸員とともに鑑賞し、館敷地内にて土を採取し篩にかけるなどし、簡易に精土を行った。第2回「埴輪の成形」は、しだみ古墳群ミュージアムにて当館にて精土した土を使用し、埴輪の制作を行った。テーマは自由とし、参加者は個々にオリジナリティ溢れる埴輪を作り上げた。第3回「色づけ」は当館で採取した土を使用し、制作した埴輪に着色。完成した埴輪は、しだみ古墳群ミュージアムにて焼成を行った。

日時：令和4年1月23日(日) 10:00-15:00 当館本館常設展、古窯館、陶芸館、陶芸館周辺

会場 令和4年2月6日(日) 10:00-15:00 体感！しだみ古墳群ミュージアム

令和4年3月6日(日) 10:00-15:00 体感！しだみ古墳群ミュージアム

担当

第1回：服部哲也氏(特定非営利活動法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク副理事長)  
佐久間真子(学芸員)、大西遼(同)、岩渕寛(陶芸指導員)

第2回：服部哲也氏、岩渕寛

第3回：天野麻里絵氏(豊田ガーデン花遊館ヘッドガーデナー)、岩渕寛

参加

第1回：14人、第2回：19人、第3回：17人

### ② イオンモール長久手との協同企画「恐竜を作ろう」

※前掲42頁参照

## 6 陶磁文化連携情報発信事業

### (1) 茶摘み・茶会

当館と特定非営利活動法人やきもの文化と芸術振興協会により、当館敷地内の茶畑「愛陶茶園」を活用した事業を行った。

行事名	月 日	会 場	内 容	参加者数
茶摘み 2021	5月15日(土)	茶畑「愛陶茶園」	新茶の収穫を行った。感染症対策のため、例年より人数を減らし簡易な内容で実施した。	50人
愛陶茶会 2021 茶の木・花・種を楽しむ	11月3日(水・祝)	茶畑「愛陶茶園」、茶室「陶翠庵」、展示説明室	愛陶茶園の見学と茶の木の花摘み体験。花茶の聞香（喫茶なし）。抹茶の喫茶（5月15日摘葉）。茶の実の搾油ワークショップ（講師：たねのしずく研究所）。特別展「華＊花」観覧（学芸員展示説明）。	21人

### (2) やきものリアル謎解きゲーム

もう一つの名茶碗 — 影武者茶碗に込められた有楽齋の想いを突き止めよ！ —

リアル謎解きゲームは、謎解きキットを手掛かりに、施設内を周遊しながら直感やヒラメキで謎を解き進めて行く体験型イベントである。当館初の取り組みとなった今回のリアル謎解きゲームでは、常設展示内で同時開催した「喫茶の碗の物語」展、「8Kで文化財」と連携し、特別展示された重要美術品「大井戸茶碗 有楽井戸」にまつわる謎を解くという、陶磁器専門美術館ならではの内容となった。参加者に、ゲーム楽しみながらやきものの魅力をより深く伝え、また陶磁美術館の施設を知る機会を提供した。

行事名	月 日	会 場	企画制作	参加者数
やきものリアル謎解きゲーム	10月10日(日)、11日(月・祝)、16日(土)、17日(日)、23日(土)、24日(日)、30日(土)、31日(日) 11月3日(水・祝)、6日(土)、7日(日)、13日(土)、14日(日)、20日(土)、21日(日)、23日(火・祝)、27日(土)、28日(日) 12月4日(土)、5日(日)、11日(土)、12日(日) 計22日 各日とも午前9時30分～午後4時30分	本館 常設展示室 南館 陶芸館 古窯館	株式会社 エフェックス	1,147人

### (3) 生け花ワークショップ「キッズいけばなチャレンジ！」

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、実施しなかった。



## 7 現代陶芸魅力発信事業

愛知県陶磁美術館は、平成30年度から令和元年度にかけ2年続けて根源的見直しの対象となった。令和元年度、運営費節減のために西館の閉鎖と、それに伴う本館における陶製狛犬展示の方針が決定された。これを受けて、令和3年度から令和5年度末まで実施する「現代陶芸魅力発信事業」は、前述の陶製狛犬の移設展示を現代的な手法で魅力的に演出し、さらに若手作家の現代陶芸作品展示を実施し、とくに若年層にむけて広く陶磁作品の魅力をするものである。

### (1) 「リ・デザイン・狛犬プロジェクト」

現代陶芸魅力発信事業のうち陶製狛犬を題材にした取り組みは「リ・デザイン・狛犬プロジェクト」と総括される。初年度である令和3年度は、陶製狛犬コレクションを本館へ移設し、陶製狛犬の魅力をこれまで以上に発信できる演出を行った展示（以下、本展示）を実施した。

#### ① 当館の陶製狛犬コレクションについて

近世－現代における陶製の狛犬は、全国でも東海地域の一部でのみ生産された、地域の貴重な文化財である。

当館の陶製狛犬コレクション（以下、本コレクション）は、その大部分が開館以前からの寄贈によるものであり、昭和59年（1984）には210体が県指定有形民俗文化財に指定されている。さらに西館は、陶製狛犬を常設展示できる展示室が無かったことをうけ、「広く県民に文化財を公開し、陶芸文化の向上を計る」ことを目的とし、昭和57年（1982）に財団法人東海財団による建設及び寄贈を受けたものである。

本コレクションは他に類を見ない特徴あるものであるため、全国の美術館・博物館等からの貸出依頼や調査依頼も多く、高い関心も持たれている。そのため、「リ・デザイン・狛犬プロジェクト」では、西館の閉鎖によって本コレクションの活用を縮小させることなく、さらなる寄贈品への深い敬意の表明と活用を実現することを目的としている。

#### ② 「リ・デザイン・狛犬プロジェクト」と本展示のねらい

「リ・デザイン・狛犬プロジェクト」は、陶製狛犬の魅力を「より多くの人に」、「よりしっかりと」、「より驚きとともに」感じていただきたいという3つの想いを掲げている。

本展示でもその想いを達成すべく、インスタレーションの手法を大胆に取り入れてタワー型の大型展示台をロビーに設置し、①「狛犬精選」と②「狛犬群像」の2つのテーマを組み合わせ展示空間を構成した。この展示空間に、愛知県指定有形民俗文化財「陶製狛犬コレクション」を中心に、備前や沖縄で作られた大型の狛犬も組み合わせ展示紹介した。建築や展示空間の雰囲気をできる限り損なわないよう、展示パネルやキャプションの設置は最小限とし、文字情報の多くはQRコードを用いてWEBページへ誘導した。



本館玄関ロビーにおける狛犬展示

## (2) 若手作家紹介事業 01 「やきもの現代考 内⇄外」

現代陶芸魅力発信事業のうち、若手作家を題材とした取り組みは「やきもの現代考「内⇄外」」として実施した。東海地域やその近隣を拠点として活動する気鋭の若手作家を紹介し、新たな陶磁文化の担い手を支援するだけでなく、当館の特徴的な建築要素をふまえたインスタレーション展示を展開することで、これまでにない魅力創出を狙ったものであった。

会 期	令和4年1月22日(土)－3月27日(日)
開館日数	56日
会 場	本館1階ホール(回廊)・屋外(芝生広場)
主 催	愛知県陶磁美術館
参加作家 (敬称略)	樽田裕史、奥直子、横田典子、 松永圭太、渡邊太一郎、岩村遠
出品件数	46点
広報出版	パンフレット(A4 16頁) DM(長形3号変形(1種))



DM

### 教育・普及事業

#### ◇作家ギャラリートーク

1月22日(土) 午後1時－2時 本館回廊

講師：樽田裕史、奥直子、横田典子、松永圭太、渡邊太一郎の各氏

#### ◇Live performance in 陶芸館

2月27日(日) 「Cave」

講師：松永圭太氏

3月27日(日) 「光纏う」

講師：樽田裕史氏

両日ともに午後1時30分－3時30分 陶芸館

#### ◇担当学芸員による展示解説

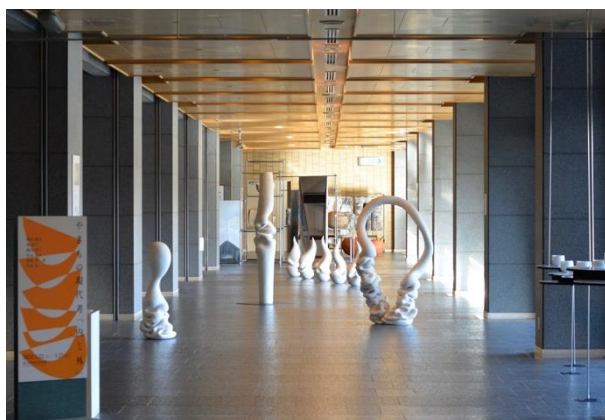
1月30日(日)、2月12日(土)、2月26日(土)、

3月12日(土)、3月21日(月・祝)、3月26日(土)

各回ともに午後1時30分－1時間 本館1階ホール(回廊)



パンフレット表紙



本館回廊



芝生広場

## 8 魅力向上推進事業

当館の魅力向上推進の一環として、現在の“情報が整理されておらず、劣化が激しく、館の魅力が損なう要因となっている案内表示”を、“分かりやすく、見るだけでワクワクする、質の高い案内表示”にしてゆくためのデザインプランを策定するとともに、車両誘導サインを作成設置する業務を実施した。

美術館等の案内表示及びデザインに関する知識やノウハウを持つアートディレクターを中心に、当館職員も構成員とした「案内表示デザイン検討会議」を計9回開催した。検討内容は、当館案内表示の課題の整理・当館事業の体験研修や近隣調査・新規設置もしくは改修方法等の検討・案内表示デザインプランの決定等である。

本年度は、県道沿い大型サイン（館内MAP、ポスターケース）、車両誘導サイン（三叉路）、大型駐車場から陶芸館・本館への道案内サイン、南館駐車場・名鉄バスバス停案内サイン、リニモ「陶磁資料館南駅」出入口案内サインの計5箇所の案内サインの作成設置を行った。なお、検討会議にて、当初予定の県道沿い大型サイン（館内MAP、ポスターケース）について、歩行者が少なく費用対効果に問題があるため、同等規格でリニモ利用者向けに効果が高い南館裏館内MAP、ポスターケースへ変更した。



車両進入路・三叉路  
車両誘導サイン（新設）



大駐車場・南辺／陶芸館・北壁  
案内サイン（新設）



リニモ側遊歩道・駅前  
左：ポスター掲示板（既設）  
右：案内サイン（新設）



リニモ側遊歩道・南館南東  
左：ポスター掲示板（既設）  
右：案内サイン（新設）



南駐車場・南館北東  
案内サイン（新設）

## 9 広報・宣伝活動のあらまし

愛知県陶磁美術館では、「愛知県陶磁美術館条例」で掲げられた陶磁文化の振興等の目的を達成するため、県内外の多くの人々に館の魅力を県内外の多くの人に伝え、来館を呼び込むべく広報宣伝業務を行っている。

令和3年度は、令和2年度実施の「魅力発信検討会議」をふまえた館職員による公式 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）アカウントの運営をはじめ、新たにオンライン上での広報手法を取り入れるなど、各種取り組みを実施した。

### (1) 陶磁美術館魅力発信事業：陶磁美術館公式 SNS の運営

令和2年度の陶磁美術館魅力発信事業において策定した「陶磁美術館 SNS アクションプラン」に基づき、陶磁美術館公式 SNS（Twitter・Instagram・Facebook・YouTube）の運営を行った。

#### 陶磁美術館公式 SNS の概要

媒体名および アカウント名、開設日	運用体制 (令和3年1月以降)
Twitter @toujibijutsukan 平成30年度	休館日を除く毎日1度投稿を行う。（臨時投稿も可） 館職員24名、文化芸術課1名による交代制。
Instagram @ touji. bijutsukan 平成30年度	3日に1度投稿を行う。（臨時投稿も可） 館職員10名による交代制。 令和3年度から広告も出稿（下記(3)参照）
Facebook @ touji. aichi 平成24年度※	Instagramと連動させ同時投稿を行う。
YouTube @aichitouji 平成24年度※	広報宣伝ツールとしてではなく、主に陶芸館事業における動画教材の公開ツールとして活用。

※開設当初は、平成23年度実施の広報委託事業「やきものPR隊」の公式 Facebook および YouTube として運用開始、その後活動終了にともない当館公式へ移行。

### (2) 広報印刷物の製作および設置依頼、公式 WEB ページの運営について

令和3年度も引き続き、本広報業務を行った。とくに広報印刷物の設置依頼については、これまで一律の枚数を発送していた体制を見直し、主要な広報先などを随時整理し、より効果的な発送計画を立てるなどの工夫を行った。この広報項目のあらましについては、館報第28号を参照されたい。

### (3) 新たな広報手法の採用：Instagram 広告、PRTIMES 出稿

当館では従来、展覧会や比較的規模の大きなイベントを開催する際には、ポスターの駅貼りやチラシの設置など、広報印刷物の掲出による広報を行ってきた。

しかし昨今のオンラインニュースや SNS 上での情報拡散力には注目すべきものがあり、さらには予算に合わせた効率的な運用が望めることから、当館では従来の広報手段に加えて新たに年間を通じた Instagram 広告と、年2回のプレスリリース掲載サイト PRTIMES へ出稿を行った。

#### Instagram 広告の概要

広報テーマ	配信期間
特別展「海を渡った古伊万里 ～ウィーン、ロースドルフ城の悲劇～」	4月10日－6月10日
企画展「小さき陶芸 ー大島国康コレクションを中心にー」	6月26日－9月26日
特別展「華＊花 ー四季の花と中国陶磁史ー」	10月9日－12月9日
企画展「昭和レトロモダン ー洋食器とデザイン画ー」	令和4年1月8日－3月8日

令和4年度企画展「酒のうつわ -その美、こだわり…」	令和4年3月1日 - 3月31日
----------------------------	------------------

PRTIMES 出稿の概要

広報テーマ	配信日
特集展示「喫茶の碗の物語 -中国陶磁への憧れ、そして…」	10月1日
企画展「昭和レトロモダン -洋食器とデザイン画-」	令和4年1月7日

(4) 県広報広聴課経由の広報媒体への出稿

県広報広聴課をはじめ各部局が扱う広報媒体への出稿を積極的に行っている。

種 別	掲載内容
県知事記者会見バックボード	コロナ関連情報掲出のため見合わせ
名古屋テレビ『まるまるあいち』	・6月19日：水滴展
東海テレビ『村上佳菜子の週刊愛ちっち』	・7月15日：愛知の新たな宝展
動画配信『県政レポート』	・9月25日：華＊花展
ZIP-FM ラジオ『アイチ・サンデー・トピックス』	・10月17日：華＊花展
CBC ラジオ『つぼイノリオの聞けば聞くほど』	・10月28日：喫茶の碗の物語展
名古屋テレビ『ドデスカ!』	・令和4年1月17日：昭和レトロモダン展
県内ユニエ店舗へのB2ポスター掲出	・華＊花展 ・昭和レトロモダン展

(5) 交通広告等への出稿（有料広告）

名古屋市営地下鉄をはじめ、県内交通機関の広告媒体に出稿を行っている。また、愛知高速交通（リニモ）車内放送、愛知県内の美術展情報を網羅した冊子（隔月発行）のナゴヤアートニュース、瀬戸・尾張旭・長久手の各市を放送エリアとするコミュニティFMラジオサンキューへの出稿を行っている。

種 別	掲出内容
リニモ駅構内広告	・特別展および企画展のB1ポスターを、藤が丘、長久手古戦場、愛・地球博記念公園、陶磁資料館南、八草の5駅に掲出。
リニモ車内放送	・陶磁資料館南での下車アナウンスの際に、施設情報を放送。
ナゴヤアートニュース掲載	・4-5月号：海を渡った古伊万里展 ・6-7月号：水滴展 ・8-9月号：水滴展 ・10-11月号：華＊花展 ・12-1月号：昭和レトロモダン展 ・2-3月号：昭和レトロモダン展
名古屋市営地下鉄タウンガイドB1ポスター広告	・4月28日 - 5月11日：海を渡った古伊万里展 ・7月21日 - 8月3日：水滴展 ・10月27日 - 11月9日：華＊花展 ・令和4年1月6日 - 2月2日：昭和レトロモダン展
ラジオサンキュー放送および出演	・特別展、企画展、各種イベントの紹介（毎週水曜日1分枠） ・毎月第4木曜日の生放送出演

## 10 事業活性化の取組

### (1) 陶磁美術館の活性化計画（令和3年度－令和5年度）

平成30（2018）年度、平成31/令和元（2019）年度と「陶磁美術館の活性化」が「しなやか県庁創造プログラム推進プロジェクトチーム」における重点項目となった。

そこで検討した「SNSを活用した効果的な情報発信」「陶芸館の利用促進」「展示事業の充実」の3つの取組を主な柱とし、これを具体化し、施設の活性化に取り組むため、「行動目標」と「数値目標」からなる計画（計画期間：令和3年度－令和5年度）を策定した。

### (2) 令和3年度の「取組」及び「行動目標」

#### ① 取組1 SNSを活用した効果的な情報発信

- ・行動目標1 魅力発信検討会議の実施
  - ・魅力発信検討会議において専門家から提案されたアクションプランに基づき、陶磁美術館全体の魅力をSNSツールの特性に応じた内容で効果的に発信している。（令和2年度から）

#### ② 取組2 陶芸館の利用促進

- ・行動目標2 団体割引制度や後払い制度の実施
  - ・施設利用料の改定、団体利用における割引制度を導入（令和3年4月から）
  - ・旅行会社の後払い制度（陶芸館クーポン）を導入（令和3年4月から）
- ・行動目標3 オンライン予約制度の検討
  - ・作陶体験のインターネット 予約（外部サイト「じゃらん・遊び体験」）申込みを実施（令和2年度から）
  - ・上記予約枠を拡大（令和3年4月から）
- ・行動目標4 手軽な作陶コースの開設
  - ・初心者向けの「はじめての陶芸館」を開設し、毎月開催している。（令和2年度から）

#### ③ 取組3 展示事業の充実等

- ・行動目標5 現代陶芸魅力発信事業の実施
  - ・西館のこま犬を本館に移設することで、展示の新たな見どころ、撮影スポットとする。（こま犬インスタレーション展示）（令和4年1月から）
  - ・若手作家の制作した現代陶芸インスタレーションを、本館内及び屋外スペースに展示する。（令和4年1月－3月）
- ・行動目標6 魅力向上推進事業の実施
  - ・敷地内外・施設内の案内表示について、統一的なデザイン及び設置場所を検討する。（令和3年度）
  - ・案内表示デザインプランに基づき、案内表示を設置する。（令和3年度5か所、令和4年度以降継続実施）
- ・行動目標7 南館展示内容等の検討
  - ・南館1階の＜愛知のやきもの＞展示をリニューアルし、産業陶磁の一部を本館に移設予定。（令和4年度）
- ・行動目標8 常設展示の見直し
  - ・本館の常設展示内容について、より魅力的な内容となるよう見直し検討をする（令和3年度）

### (3) 評価基準

取 組	評価基準 (数値目標)	令和 3 年度	令和 2 年度	令和元年度
1 SNS等を活用した効果的な情報発信	Instagramフォロワー数 (令和 5 年度：1,500 人)	2,613 人	1,405 人	1,070 人
	ツイッターフォロワー数 (令和 5 年度：1,200 人)	1,728 人	1,115 人	684 人
2 陶芸館の利用促進	陶芸館の団体利用者数 (令和 5 年度：6,600 人)	7,669 人	3,674 人	5,783 人
	陶芸館関連イベントの開催数 (令和 5 年度：20 回/年)	32 回	9 回	6 回
3 展示事業の充実	来館者数 (10 万人/年)	81,282 人	49,468 人	76,639 人
	展覧会アンケートによる満足度調査 (90%以上)	86.7%	86.8%	82.6%



本館玄関前 案内サイン (魅力向上推進事業で設置したものの一つ)

## 11 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のあらまし

令和3年度は、「陶磁美術館の新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に基づき、館内の対策を実施した。令和4年3月22日現在の概要は以下の通りである。

### (1) 館内の対策

- ① 受付等適所に手指消毒設備を設置する。
- ② 受付カウンター、ソファ、階段手すり、ロッカー、トイレなどの手が触れる箇所の清掃、消毒。
- ③ 浄水器の使用を停止する。
- ④ 受付（観覧券購入列）の間隔を一定距離確保するため、1 m程度空けて並ぶ位置表示を設ける。
- ⑤ ロビー等に設置するソファは、間隔を広げて設置する。長椅子などについては、間隔を空けて座るように紙面貼付する。
- ⑥ 各展示室は密集しないように人と人との間隔を確保するように注意を促して収容定員の範囲内で許可する。
- ⑦ 展示室内の展示ケース、パネル等に手を触れないように注意案内を表示する。
- ⑧ 展示説明室の利用はラウンジを併せて118（展示説明室78、ラウンジ40）名とする。地下講堂は、人と人との間隔を確保するため、収容定員の6割程度とする。（定員218名中、130名程度）
- ⑨ 本館・南館・西館・陶芸館（屋外を除く。）での飲食は、展示説明室に限り許可する。
- ⑩ 展示室内、ロビーなど館内での大声での会話を控えるよう案内表示し注意を促す。
- ⑪ 看視員は、上記⑤から⑩について、随時看視し、必要に応じて来館者に協力をお願いする。
- ⑫ 図書室の閲覧を許可する。許可時に3密（密閉・密集・密接）とならないよう周知する。
- ⑬ 陶芸館実習室での受入れは、3密とならないよう定員の半数程度とし、人数制限内で当日の受入れも可とする。
- ⑭ 陶芸館では、館内の換気の徹底を行うとともに、ロビー及び実習室内(机、ろくろ)の消毒を行う。
- ⑮ 陶芸館での食事は禁止するが、熱中症対策等を考慮し、お茶等の飲用は許可する。

### (2) 職員及び館内従事者の主な対策

- ① スタッフはマスク着用とする。
- ② 出勤前に毎日検温し各自で記録する。

### (3) 来館者への対応

ホームページ及び館内の掲示板等に来館者向けの注意案内を行う。

皆様に安心してご覧いただけるよう、ご理解とご協力くださいますようお願いいたします。

- 発熱、咳等風邪症状のあるお客様は入館をご遠慮ください。
- 多人数でのご来館は分散入室などをお願いする場合があります。  
（団体でのご利用は事前に館までご相談ください）
- すべての方にマスク等の着用をお願いしています。
- 発熱、咳等風邪症状のあるお客様は入館をご遠慮ください。
- 展示室内をはじめ、ロビーなど館内で大声での会話は極力お控えください。
- 展示室内では、展示ケースやパネル等にお手を触れないようご注意ください。
- 展示室内ではとくにソーシャルディスタンスに気をつけ、他の方との間隔を1 m程度空けてご観覧ください。  
（展示室の混み具合を確認しながら、ご入室をお待ちいただく場合があります。）
- 多人数でのご来館は分散入室などをお願いする場合があります。（学校団体でのご利用は事前に館までご相談ください。）
- 館内（展示説明室・ラウンジを除く）での飲食を禁止いたします。
- 陶芸館の利用は予約システム([https://cubic.com/aitou\\_tougeikan](https://cubic.com/aitou_tougeikan))又は当日の受付となります。  
電話による予約は受け付けていません。学校団体による受付詳細は、  
[https://www.pref.aichi.jp/touji/use\\_guidance/dantai\\_yoyaku.html](https://www.pref.aichi.jp/touji/use_guidance/dantai_yoyaku.html) をご覧ください。
- お客様ご自身でご来館日時の記録をお願いいたします。  
当館職員に感染者が発生した場合、またご来館者の感染が確認できた場合には、当館ホームページでお知らせいたします。

### Ⅲ 参考資料

#### 1 沿革

年	月	日	記	事
昭和 47 年	2 月	10 日	県は、県政 100 年記念事業として基本計画を策定し、具体的建設計画を発表する。	建設予定地を瀬戸市大字山口字南山地内に決定する。
	4 月	1 日	愛知県商工部（工業振興課）に「建設係」を設置し、建設事務に当たる。	
	6 月	20 日	「愛知県陶磁資料館（仮称）建設会議（構成員 30 人）を設置し、第 1 回会議を開催する。	
昭和 48 年	3 月	31 日	瀬戸市大字山口字南山に建設予定地 11 万平方メートル余を買収する。	
	6 月	5 日	基本計画を立案・策定する。	
昭和 50 年	1 月	22 日	進入路・駐車場造成工事に着工する。	
昭和 51 年	1 月	31 日	同上	竣工する。
	12 月	25 日	産業展示棟（南館）建設工事に着工する。	
昭和 52 年	4 月	1 日	愛知県陶磁資料館（本館及び付属施設）建設事務が愛知県商工部（工業振興課）から愛知県教育委員会（文化財課）に所管替えとなる。	
	12 月	23 日	本館及び付属施設建設工事に着工する。	
昭和 53 年	3 月	20 日	産業展示棟（南館）建設工事竣工する。面積 1,620.74 平方メートル。	
	3 月	29 日	愛知県陶磁資料館条例（昭和 53 年 3 月 29 日愛知県条例第 7 号）が公布される。	
	4 月	1 日	愛知県陶磁資料館（産業展示等）の所管事務が愛知県商工部（工業振興課）から愛知県教育委員会（文化財課）に所管替えとなる。	
			土地 112,335.20 平方メートルが商工部から所管替えとなる。	
	5 月	26 日	愛知県陶磁資料館規則（昭和 53 年 5 月 26 日愛知県教育委員会規則第 5 号）が公布される。（昭和 53 年 6 月 1 日施行）	
	6 月	1 日	産業展示棟（南館）開館記念式典を挙げる。開館記念特別展「日本の陶磁」同企画展「明治の陶器」開会式	
昭和 54 年	3 月	20 日	本館及び付属施設建設工事竣工する。面積 5,703.23 平方メートル。	
	3 月	31 日	農地林務部から土地 104,743.00 平方メートルが所管替えとなる。	
	4 月	1 日	愛知県陶磁資料館「かい」として発足する。	
	7 月	20 日	南館から愛知県青少年公園まで遊歩道竣工する。	
	10 月	13 日	本館開館記念式典を挙げる。本館開館記念特別展「東洋の陶磁」開会式	
昭和 56 年	3 月	27 日	復元古窯大窯、同 3 連房式登り窯並びに覆屋（面積 99 平方メートル）竣工する。	
	11 月	26 日	財団法人東海財団・株東海銀行から県民茶室「陶翠庵」の寄贈を受ける。面積 148.23 平方メートル。	
昭和 57 年	12 月	4 日	財団法人東海財団から「西館」の寄贈を受ける。面積 232.75 平方メートル。	
昭和 58 年	8 月	3 日	皇太子殿下、同妃殿下が当館を御視察になる。	
昭和 61 年	3 月	20 日	陶芸実習施設「陶芸館」竣工する。面積 469.74 平方メートル。	
	4 月	12 日	陶芸館開館記念式典を挙げる。	
昭和 62 年	6 月	11 日	入館者が 50 万人を突破する。	
昭和 63 年	10 月	9 日	開館 10 周年記念特別展「日本陶磁絵巻」開会式	
平成 元年	5 月	31 日	愛知県土地開発基金から土地 60,297.15 平方メートル取得する。	
	7 月	1 日	愛知県陶磁資料館拡充整備検討会議設置	
平成 2 年	7 月	27 日	皇太子殿下が当館を御視察になる。	
	12 月	5 日	増築敷地造成工事（一次）に着工する。	

年	月	日	記	事
平成 3 年	3 月	27 日	愛知県陶磁資料館規則（昭和 53 年 5 月 26 日愛知県教育委員会規則第 5 号）を廃止する規則が公布される（平成 3 年 4 月 1 日施行）。愛知県陶磁資料館規則（平成 3 年 3 月 27 日愛知県規則第 22 号）が公布される（平成 3 年 4 月 1 日施行）。	
	4 月	1 日	愛知県陶磁資料館の所管事務が愛知県教育委員会（文化財課）から愛知県総務部文化振興局（企画課）に所管替えとなる。	
	8 月	8 日	増築敷地造成工事（二次）に着工する。	
	10 月	16 日	増築工事に着工する。	
平成 4 年	9 月	29 日	陶磁資料館古窯上屋（古窯館）建設工事に着工する。	
平成 5 年	3 月	18 日	古窯館（南山 8 号窯跡、南山 9 号窯跡）竣工する。面積 344 平方メートル。	
	11 月	30 日	本館、陶芸館増築工事竣工する。面積 12,449.91 平方メートル。	
平成 6 年	4 月	1 日	陶芸館増築部分及び古窯館が開館する。	
	7 月	5 日	陶磁資料館完成記念式典を挙げる。完成記念特別企画展「東洋陶磁名品展」内覧会	
	7 月	6 日	本館増築部分が開館する。	
	9 月	22 日	陶磁資料館完成記念特別企画展「国際現代陶芸展」開会式	
平成 10 年	4 月	4 日	開館 20 周年記念特別展「耀州窯展」開会式	
	10 月	3 日	開館 20 周年記念特別展「日本の三彩と緑釉」開会式	
	10 月	11 日	入館者が 150 万人を突破する。	
平成 12 年	4 月	1 日	愛知県陶磁資料館の所管事務が組織再編により愛知県総務部文化振興局（企画課）から愛知県県民生活部（文化学事課）に変更になる。	
平成 15 年	4 月	1 日	愛知県教育委員会から博物館法第 29 条に規定する博物館に相当する施設として指定を受ける。	
	6 月	10 日	皇太子殿下が愛知万博会場を御視察の際、当館を御利用になる。	
平成 16 年	1 月	18 日	入館者が 200 万人を突破する。	
平成 17 年	3 月	20 日	愛知万博記念特別企画展「桃山陶の華麗な世界」・「ピカソの陶芸—創造と伝統—」合同開会式	
平成 20 年	4 月	5 日	開館 30 周年記念特別企画展「窯変の美」開会式	
	10 月	25 日	開館 30 周年記念「陶磁フェスティバル」、特別企画展「海のシルクロードの出発点“福建”」開会式	
平成 22 年	7 月	3 日	本館 2 階常設展・南館常設展リニューアルオープン。「にぎわい創出プロジェクト事業」を実施する。	
	8 月	13 日	入館者が 250 万人を突破する。	
平成 24 年	12 月	21 日	愛知県陶磁資料館を愛知県陶磁美術館に改正する条例（平成 24 年 12 月 21 日愛知県条例第 76 号）の一部を改正する条例が公布される（平成 25 年 6 月 1 日施行）。	
平成 25 年	5 月	1 日	愛知高速交通「陶磁資料館南駅」へのアクセス遊歩道土地 3,105.12 平方メートルが産業労働部（産業科学技術課）から県民生活部（文化芸術課）に所管替えとなる。	
	5 月	31 日	愛知県陶磁資料館規則を愛知県陶磁美術館規則に改正する規則が公布される。（平成 25 年 5 月 31 日愛知県規則第 33 号、平成 25 年 6 月 1 日施行）。	
	6 月	1 日	開館 35 周年「愛知県陶磁美術館」新名称記念式典を挙げる。開館 35 周年・新名称記念特別企画展「—日本・中国・韓国—陶磁の名品、ここに集う」開会式	
平成 26 年	10 月	4 日	本館常設展示室（第 3 展示室～第 6 展示室）リニューアル開会式。陶磁の名品コーナーを新設する。	
平成 27 年	5 月	23 日	入館者が 300 万人を突破する。	
平成 28 年	2 月	27 日	南館常設展リニューアルオープン。	

平成 30 年 6 月 30 日 開館 40 周年記念特別企画展「知られざる古代の名陶 猿投窯」開会式  
 平成 30 年 10 月 27 日 開館 40 周年記念特別企画展「瀬戸ーかく焼き繋ぎ 江戸時代の本業と新製ー」  
 開会式  
 令和 4 年 3 月 12 日 入館者が 350 万人を突破する。

## 2 組織及び事務分掌

### (1) 組織

愛知県行政組織規則（抜粋）

（陶磁美術館）

第 19 条第 1 項 愛知県陶磁美術館に次の課を置く。

総務課	学芸課
-----	-----

2 前項の各課の分掌事務は、下記のとおりとする。

総務課

- (1) 文書及び公印の管守に関する事。
- (2) 職員の人事及び福利厚生に関する事。
- (3) 予算、会計及びその他庶務に関する事。
- (4) 建物、附属設備及び物品の保全管理に関する事。
- (5) 陶芸実習室及び展示室の利用に関する事。
- (6) その他学芸課の主管に属さない事。

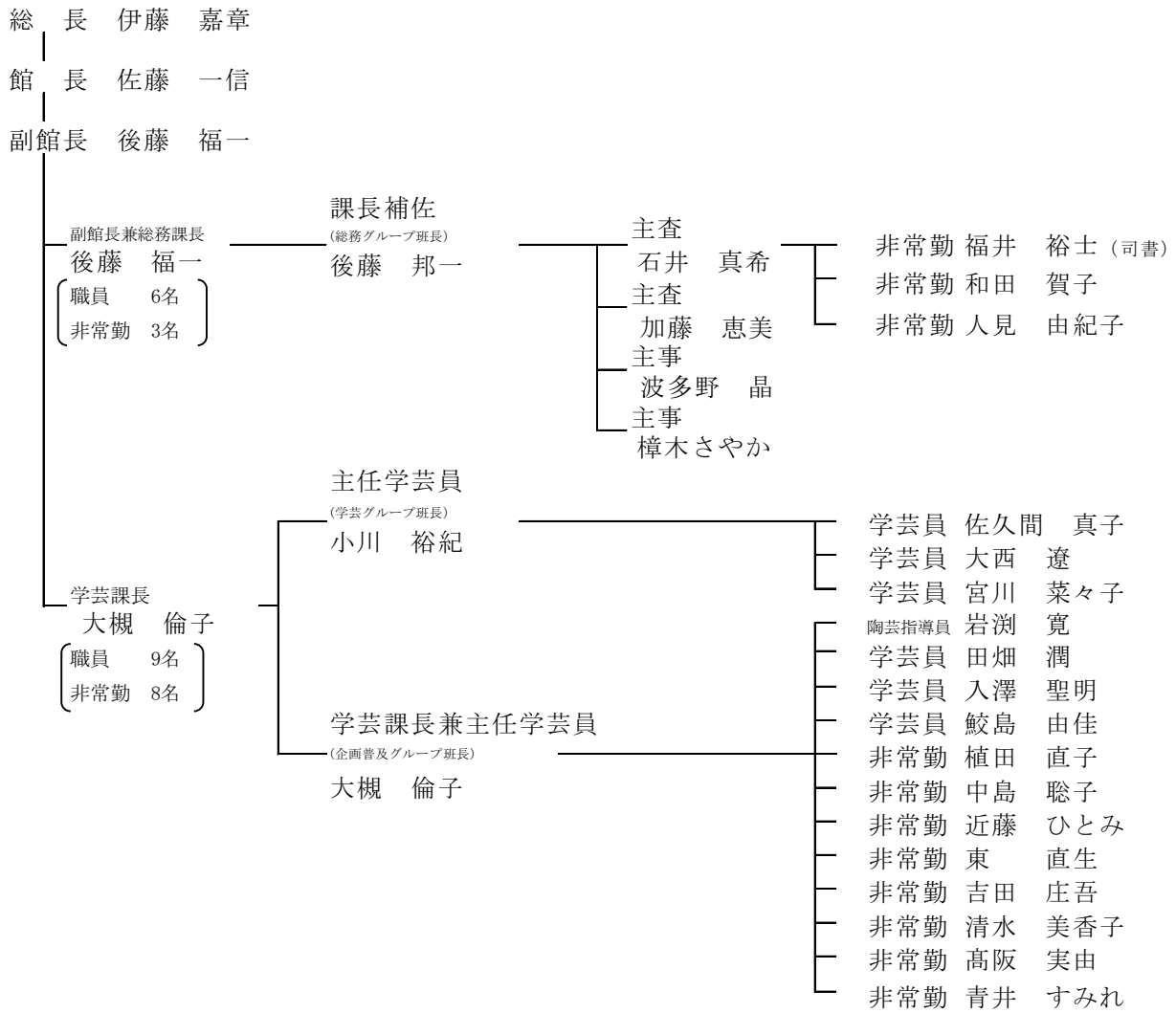
学芸課

- (1) 陶磁器及び陶磁器に関する資料の収集、保存及び展示に関する事。
- (2) 陶磁器及び陶磁器に関する資料の調査研究に関する事。
- (3) 陶磁器に関する知識の向上及び普及に関する事。
- (4) 陶磁器に関する資料の刊行その他広報に関する事。

### (2) 職員等定数（令和 4 年 5 月 1 日現在）

職員定数 16 名 現員数 16 名（正規 16）  
 非常勤職員数 12 名 現員数 12 名（総長を含む）

(3) 組織図 (令和4年5月1日現在)



3 収支予算 (令和4年度)

(単位:千円)

歳 入		歳 出	
陶磁美術館使用料	35,809	職員給与	117,293
観覧料収入	15,279	管理事務費 〔光熱水費 業務委託 施設維持管理費〕	302,296
行政財産使用料	2,260		
実習室等使用料	18,270		
諸収入	163,800	事業費 〔展覧会開催費 普及啓発事業費〕	4,395
宝くじ収入	152,000		
助成金等収入	11,800		
国庫支出金	2,197	施設設備整備費	78,771
文化振興基金繰入金	2,198		
県債	105,000		
一般財源	193,751		
歳入合計	502,755	歳出合計	502,755

## 4 陶磁美術館運営会議

### (1) 会議の開催

日 時	令和3年8月2日(月) 午後2時～4時
出席委員	赤田委員、安藤委員、伊藤(保徳)委員、伊藤(嘉章)委員、太田委員、木藤委員、倉地委員、柴垣委員、柴田委員、高瀬委員、辻委員、中野委員

### (2) 陶磁美術館運営会議開催要領

(目的)

第1条 愛知県陶磁美術館(以下「美術館」という。)の円滑かつ適正な運営に資するため、愛知県陶磁美術館運営会議(以下「運営会議」という。)を開催する。

(構成員)

第2条 運営会議の運営委員は、次の各号に掲げる者とし、愛知県陶磁美術館長(以下「館長」という。)が依頼する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 陶芸作家
- (3) 県関係者
- (4) その他館長が必要と認める者

2 運営委員の任期は2年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

(協議事項)

第3条 運営会議は、次の事項について協議する。

- (1) 美術館の運営に関する事。
- (2) 常設展、企画展及び普及活動等に関する事。
- (3) その他必要と認める事項

(座長等)

第4条 運営会議に座長を置く。

2 座長は、愛知県陶磁美術館総長とする。

3 座長は、運営会議を主宰する。

4 座長に事故があるときは、座長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(顧問)

第5条 運営会議に顧問を置くことができる。

(運営会議)

第6条 運営会議は座長が招集する。

2 運営会議は、原則として公開するものとする。ただし、愛知県情報公開条例(平成12年愛知県条例第19号)第7条に規定する不開示情報が含まれる事項に関して調査検討等を行う場合又は運営会議を公開することにより会議の適正な運営に著しい支障が生ずると認められる場合であつて、座長が運営会議の一部又は全部を公開しない旨を決定したときは、この限りでない。

3 会議録及び会議資料は、5年間保存する。

(事務)

第7条 運営会議の事務は、美術館において処理する。

(その他)

第8条 この要領に定めるもののほか、運営会議に必要な事項は、別に定める。

### (3) 愛知県陶磁美術館運営会議運営委員

(任期 令和3年4月1日～令和5年3月31日)

区 分	氏 名	備 考
学識経験者	柴垣 勇夫	元愛知淑徳大学教授
	長井 千春	愛知県立芸術大学美術学部長
	小林 牧	東京国立博物館名誉館員・客員研究員
陶芸作家	太田 公典	瀬戸陶芸協会会長
	柴田 正明	常滑陶芸作家協会会長
	安藤 工	公益財団法人美濃陶芸協会会長
県関係者	おおたけ りえ	愛知県議会県民環境委員会委員長
	伊藤 嘉章	愛知県陶磁美術館総長
その他館長が必要と認める者	伊藤 保徳	瀬戸市長
	高瀬 健一	一般社団法人愛知県観光協会 元国内誘客宣伝部長
	辻 孝二郎	INAX ライブミュージアム元館長
	中野 昭雄	愛知県陶磁器工業協同組合理事長
	赤田 由起江	愛西市佐屋中学校校長(小中学校長会推薦)

※運営委員の氏名は令和4年6月1日現在

## 5 愛知県陶磁美術館資料委員会

### (1) 会議の開催

日 時	令和4年1月26日(水) 午後2時～4時
出席委員	荒川委員、唐澤委員、竹内委員、出川委員、長井委員

### (2) 資料収集の方針及び関連例規

#### ①方針

日本陶磁史の全体像を系統的に理解できるよう、全国の主要な窯業地の陶磁作品、海外の代表的な窯業地の陶磁作品、国内外の現代陶芸、陶磁器産業資料及び窯業関連資料の収集を図ることを基本方針とし、当面の収集目標を次のとおりとしている。

#### ア 日本陶磁の優品

日本陶磁史において、画期をなす時代の美術的、歴史的に優れた作品の収集に努める。特にこの地域で花開いた猿投窯、瀬戸・渥美・常滑窯を中心に、古代・中世の重要文化財級の優品並びに桃山時代のバラエティに富んだ茶陶の優品、近世の名工や近代・現代の人間国宝等の代表作の収集に努める。

#### イ 外国陶磁の優品

海外の代表的な窯業地の美術的、歴史的に優れた作品の収集に努める。

#### ウ 現代陶芸作品

国内外を代表する近代・現代の陶芸作品並びに当地域を中心とする中部地方の代表的陶芸作家の作品の収集に努める。

#### エ 陶磁史の基礎的資料

時代別・産地別に特徴を示す日本陶磁並びにこれに関連する外国陶磁資料の収集に努め館蔵品の充実を図る。

#### ②関連例規

ア 愛知県陶磁美術館資料委員会開催要領

イ 愛知県陶磁美術館資料購入要領

ウ 美術品等取得基金管理要綱

エ 愛知県陶磁美術館資料取扱要領

### (3) 愛知県陶磁美術館資料委員会委員

(任期 令和3年4月1日～令和5年3月31日)

氏 名	備 考
荒川 正 明	学習院大学教授
唐 澤 昌 宏	国立工芸館長
竹 内 順 一	東京藝術大学名誉教授
出 川 哲 朗	大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長
長 井 千 春	愛知県立芸術大学美術学部長

(4) 資料収集状況及び計画

(令和4年3月31日現在)

区 分		既収集資料点数			収 集 計 画
		総点数	購入点数	受贈点数	
日 本 陶 磁	縄 文 時 代	63	49	14	縄文時代6期の各期の特徴的な資料及び造形的に優れた名品。
	弥 生 時 代	25	20	5	弥生時代前期・中期・後期を代表する資料及びパレススタイルの土器群。
	古 墳 時 代	100	78	22	土師器・埴輪及び須恵器。
	奈 良 時 代	102	67	35	土師器・須恵器・奈良三彩及び瓦。
	平 安 時 代 前 期 ～ 後 期	86	36	50	猿投窯をはじめとする各地の須恵器・青瓷・白瓷。
	平 安 時 代 末 期 ～ 鎌 倉 ・ 室 町 時 代	513	283	230	渥美・常滑・瀬戸・珠洲・越前・信楽・丹波・備前等の中世窯製品。
	桃 山 時 代	120	80	40	瀬戸黒・黄瀬戸・志野・織部・伊賀・備前・唐津等の茶陶類。
	江 戸 時 代	1,167	382	785	瀬戸・美濃・常滑・萬古や名古屋等の東海地方の諸窯。有田等の肥前陶磁、仁清・乾山等の京焼をはじめとする日本各地の製品。
	近 現 代 陶 磁	1,397	121	1,276	近代陶芸の基礎を築いた明治期の名工たちの作品。現代陶芸作家の作品及び著名公募展優秀作品。
	近 現 代 産 業 陶 磁	1,366	131	1,235	明治期の輸出陶磁器類及び窯業の近代化を物語る資料。ファインセラミックス及び現代陶磁器産業の製品。
	小 計	4,939	1,247	3,692	
外 国 陶 磁	中 国 陶 磁	880	62	818	日本の陶磁器の源流である中国・朝鮮半島の陶磁器及び世界各地の資料。
	韓 国 ・ 東 南 ア ジ ア 陶 磁	287	53	234	
	中 近 東 陶 磁	196	19	177	
	ヨ ー ロ ッ パ 陶 磁	93	6	87	
	そ の 他 の 外 国 陶 磁	759	0	759	
	近 現 代 陶 磁	68	41	27	
	近 現 代 産 業 陶 磁	166	48	118	
	小 計	2,449	229	2,220	
関 連 資 料	909	12	897	ガラス・七宝などの窯業製品及び制作工程の資料や民俗資料。	
合 計	8,297	1,488	6,809		
内 令 和 3 年 度 収 集 資 料 点 数	197	16	181	内所蔵陶磁資料・学芸課管理番号 A-7202～A-7396	

※注意・「平安時代末期～鎌倉・室町時代」の受贈点数には、国より譲渡された埋蔵文化財50点を含む。

・「近現代陶磁」および「近現代産業陶磁」の受領点数には、本県会計局(前出納事務局)から区分替えされた資料8点を含む。

・近現代陶磁の受贈点数1,276は、貸出中における亡失(平成17年3月)のため、1点少なくなっている。

## (5) 収集指定文化財

指定区分/種別	指定名称	員数	指定年月日	収集区分/年度
国・重要文化財/工芸品	猿投灰釉多口瓶	1口	1975.6.12	寄贈 1993 年度
国・重要文化財/工芸品	渥美灰釉芦鷺文三耳壺	1口	1976.6.5	寄贈 1979 年度
国・重要文化財/工芸品	陶製五輪塔 久安二年の刻銘がある	1基	1995.6.15	購入 1991 年度
国・重要美術品/工芸品 愛知県指定文化財/工芸品	鉄釉巴文瓶子	1口	1935.5.10 1984.2.27	購入 1978 年度
愛知県指定文化財/工芸品	陶製牡丹文経筒外容器	1口	1984.2.27	購入 1974 年度
愛知県指定文化財/工芸品	猿投灰釉短頸壺	1口	1984.2.27	購入 1978 年度
愛知県指定文化財/考古資料	猿投灰釉短頸壺及び平瓶	各1口	1984.2.27	寄贈 1981 年度
愛知県指定文化財/有形民俗文化財	陶製狛犬コレクション	210 駆	1984.3.30	寄贈・購入 1976 他
愛知県指定文化財/工芸品	猿投灰釉手付長頸瓶	1口	2021.8.6	寄贈 2019 年度
愛知県指定文化財/工芸品	猿投灰釉長頸瓶	1口	2021.8.6	購入 2008 年度

## (6) 愛知用水関連資料及び南山 8・9 号窯資料

資料名称	内 訳	数 量	概 要
愛知用水関連資料 一括	完形資料	118件119点	昭和30年から37年にかけて、愛知用水建設に関連して、愛知県教育委員会が名古屋大学に委託して発掘調査を行った古窯跡の出土文化財
	重要陶片資料	33件190点	
	一般陶片資料	99件5,455箱	
南山8・9号窯資料 一括	重要陶片資料	134点	平成3年に、当館大駐車場の造成工事に関連して、当館が発掘調査を行った古窯跡の出土文化財
	一般陶片資料	257箱	

## (7) 図書資料収集状況

(単位：冊)

年度	購入図書	寄 贈 図 書		合 計
		寄付受入	交換図書ほか	
令和 3	0	0	920	920
合 計	1,849	11,721	50,451	64,021

## 6 利用者の状況

### (1) 年次別利用者一覧

(単位:人)

	開館日数 (日)	観覧者	陶芸館	合計	1日平均	累計
昭和53年度	212	53,935		53,935	254	53,935
54年度	292	47,163		47,163	162	101,098
55年度	307	48,867		48,867	159	149,965
56年度	307	49,686		49,686	162	199,651
57年度	306	48,586		48,586	159	248,237
58年度	307	48,108		48,108	157	296,345
59年度	306	49,984		49,984	163	346,329
60年度	305	52,443		52,443	172	398,772
61年度	306	71,882	14,700	86,582	283	485,354
62年度	308	50,287	15,197	65,484	213	550,838
63年度	305	48,046	15,328	63,374	208	614,212
平成元年度	306	53,288	18,781	72,069	236	686,281
2年度	306	44,990	20,745	65,735	215	752,016
3年度	306	40,390	21,465	61,855	202	813,871
4年度	307	39,886	24,643	64,529	210	878,400
5年度	306	27,439	24,413	51,852	169	930,252
6年度	298	77,701	38,983	116,684	392	1,046,936
7年度	307	76,613	51,957	128,570	419	1,175,506
8年度	305	68,831	57,184	126,015	413	1,301,521
9年度	306	58,213	57,725	115,938	379	1,417,459
10年度	307	73,903	53,033	126,936	413	1,544,395
11年度	307	56,076	52,861	108,937	355	1,653,332
12年度	306	43,121	50,644	93,765	306	1,747,097
13年度	306	49,268	44,427	93,695	306	1,840,792
14年度	305	39,898	46,701	86,599	284	1,927,391
15年度	307	43,849	44,030	87,879	286	2,015,270
16年度	308	38,824	36,971	75,795	246	2,091,065
17年度	331	53,294	29,426	82,720	250	2,173,785
18年度	306	41,257	35,534	76,791	251	2,250,576
19年度	308	39,744	35,917	75,661	246	2,326,237
20年度	307	34,782	35,558	70,340	229	2,396,577
21年度	306	37,516	34,464	71,980	235	2,468,557
22年度	306	50,746	35,946	86,692	283	2,555,249
23年度	307	64,859	38,527	103,386	337	2,658,635

24年度	307	60,394	42,281	102,675	334	2,761,310
25年度	305	67,114	41,889	109,003	357	2,870,313
26年度	306	68,702	43,679	112,381	367	2,982,694
27年度	310	50,695	41,350	92,045	297	3,074,739
28年度	306	44,811	34,348	79,159	259	3,153,898
29年度	308	37,173	31,290	68,463	222	3,222,361
30年度	305	46,544	26,900	73,444	241	3,295,805
31年度	307	50,691	25,948	76,639	250	3,372,444
令和2年度	275	33,615	15,853	49,468	180	3,421,912
令和3年度	306	60,122	21,160	81,282	266	3,503,194
累 計	13,054	2,183,214	1,238,698	3,421,912		
令和3年 4月	26	2,985	1,274	4,259	164	4,259
5月	26	4,480	1,424	5,904	227	10,163
6月	26	3,993	1,422	5,415	208	15,578
7月	27	2,940	2,394	5,334	198	20,912
8月	26	3,136	2,737	5,873	226	26,785
9月	26	3,449	1,282	4,731	182	31,516
10月	27	5,384	2,525	7,909	293	39,425
11月	25	6,853	2,268	9,121	365	48,546
12月	24	3,551	1,541	5,092	212	53,638
令和4年 1月	23	4,224	1,106	5,330	232	58,968
2月	24	10,264	1,617	11,881	495	70,849
3月	26	8,863	1,570	10,433	401	81,282
<b>令和3年度 年計</b>	<b>306</b>	<b>60,122</b>	<b>21,160</b>	<b>81,282</b>		

※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、観覧施設は4月11日（土）から5月17日（日）まで、陶芸館は4月11日（土）から5月31日（日）まで休館した。

(2) 月別利用者数

(31年度 単位：人)

区 分		令和3年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和4年1月	2月	3月	合 計		
特別 企 画 展	個人	高・大学生	6	20	11				6	7	2				52	
		一 般	352	544	280				251	341	151				1,919	
	障害者	高・大学生	1												1	
		一 般	50	90	45				32	45	24				286	
	団体	高・大学生			113				32						145	
		一 般			25				39	35	20				119	
	リニモ	高・大学生	5	7	19				2	10	8				51	
		一 般	122	222	157				131	215	117				964	
	割引者	高・大学生	3	18	5				5	4	5				40	
		一 般	597	1,132	587				383	460	295				3,454	
	計		1,136	2,033	1,242	0	0	0	881	1,117	622	0	0	0	7,031	
	有 料 観 覧 者	個人	高・大学生				31	8	6				15	14	25	99
			一 般			43	246	233	232				288	351	333	1,726
		障害者	高・大学生					1								1
			一 般			6	34	12	29				41	53	37	212
団体		高・大学生													0	
		一 般													0	
リニモ		高・大学生			3	4	10	4				2	10	15	48	
		一 般			18	122	145	139				83	236	218	961	
割引者		高・大学生				5	8	7				12	10	24	66	
		一 般			49	386	379	360				569	722	840	3,305	
計		0	0	119	828	796	777	0	0	0	1,010	1,396	1,492	6,418		
常 設 展		個人	高・大学生	1	2	4		7	4	7	5	16		4	6	56
			一 般	112	47	127	51	69	46	318	319	216	53	34	140	1,532
		団体	高・大学生								22					22
計		113	49	152	51	76	50	325	348	232	53	38	146	1,633		
ク ー ボ ン	個人													0		
	団体													0		
計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
パートナーシップ		16	49	56	85	61	50	34	84	45	27	51	52	610		
合 計 (有料観覧)		1,265	2,131	1,569	964	933	877	1,240	1,549	899	1,090	1,485	1,690	15,692		
無 料 観 覧 者	学 校 行 事	小 学 生			78			88	626	236	120	152	37	19	1,356	
		中 学 生			22	21	34		244	29		7			357	
		高 校 生			28	61	65				30				184	
		計	0	0	128	82	99	88	870	265	150	159	37	19	1,897	
	そ の 他	招 待 券	583	695	884	417	366	793	596	988	822	429	554	890	8,017	
		中学生以下	59	71	56	67	277	70	108	131	77	88	102	141	1,247	
		障害者常設展 企画展観覧者	21	6	8	25	26	21	32	41	21	9	17	13	240	
		計	1,294	1,806	2,049	1,565	1,906	2,211	2,493	3,167	2,000	1,482	1,748	2,288	24,009	
	合 計 (無料観覧)		1,294	1,806	2,177	1,647	2,005	2,299	3,363	3,432	2,150	1,641	1,785	2,307	25,906	
	観覧イベント		268	269	93	158	15	100	593	1,661	355	1,337	6,841	4,578	16,268	
	茶室利用者		158	274	154	171	183	173	188	211	147	156	153	288	2,256	
	観覧者等合計		2,985	4,480	3,993	2,940	3,136	3,449	5,384	6,853	3,551	4,224	10,264	8,863	60,122	
	陶 芸 館	作 陶	中学生以下	280	379	574	764	1,154	307	1,304	638	572	355	437	424	7,188
			一 般	873	1,017	824	1,526	1,418	947	1,141	1,308	833	731	1,147	1,105	12,870
		計		1,153	1,396	1,398	2,290	2,572	1,254	2,445	1,946	1,405	1,086	1,584	1,529	20,058
絵 付 け		中学生以下	20	11	10	74	81	11	52	16	117	13	16	18	439	
	一 般	82	17	14	30	84	17	11	23	19	7	17	23	344		
計		102	28	24	104	165	28	63	39	136	20	33	41	783		
陶芸館イベント		19						17	283					319		
陶 芸 館 合 計		1,274	1,424	1,422	2,394	2,737	1,282	2,525	2,268	1,541	1,106	1,617	1,570	21,160		
総 計		4,259	5,904	5,415	5,334	5,873	4,731	7,909	9,121	5,092	5,330	11,881	10,433	81,282		

## 7 展覧会別観覧者状況一覧

### 企画展・特別展

年度	展覧会名	会期	開催日数	観覧者数	1日平均
平成6	東洋陶磁名品展	平成6.7.6～平成8.8.28	47日	26,823人	571人
	国際現代陶芸展 ―今日のうつわと造形―	平成6.9.22～平成8.11.27	58	12,176	210
	ペルシア陶器展	平成6.12.18～平成7.2.19	48	6,640	138
7	茶の湯の美 ―五島美術館コレクション―	平成7.4.15～平成7.5.28	38	11,579	305
	―茶どころに華ひらく陶芸文化― 名古屋のやきもの	平成7.6.6～平成7.7.30	48	8,935	186
	瀬戸の陶芸 ―1300年の歴史と今―	平成7.8.5～平成7.9.28	47	22,001	468
	―古代の造形美― 装飾須恵器展	平成7.10.7～平成7.11.26	44	9,114	207
	思索する色とかたち作陶50年 タカエズ・トシコ展	平成7.12.9～平成8.2.4	43	5,185	121
経塚出土陶磁展 ―中部地方に埋納されたやきもの―	平成8.2.10～平成8.3.27	40	5,465	137	
8	ドナウの夢と追憶 ハンガリーの建築・陶芸と応用美術1896-1916	平成8.4.2～平成8.5.6	31	7,109	229
	桃山の数寄 ―茶の湯の名碗―	平成8.6.1～平成8.7.14	38	18,899	497
	常滑現代陶芸展	平成8.7.20～平成8.9.5	41	7,261	177
	現代陶芸の若き旗手たち	平成8.9.14～平成8.11.24	62	14,446	233
	スワトウ・ウェアの世界 ―呉州赤絵・呉州染付・餅花手―	平成8.11.30～平成9.2.2	49	6,137	125
経塚出土陶磁展 ―関東・北陸地方に埋納されたやきもの―	平成9.2.8～平成9.3.27	41	3,988	97	
9	松岡美術館名品展 ―東洋陶磁の精華―	平成9.4.12～平成9.5.25	38	10,454	275
	森正洋陶磁デザイン展 ―今を生きるくらしの器―	平成9.6.3～平成9.7.27	48	7,013	146
	長野のやきもの ―山あい息づく土と炎の文化―	平成9.8.5～平成9.9.23	43	7,467	174
	遺跡にみる戦国・桃山の茶道具 ―茶の湯の名陶―	平成9.10.4～平成9.11.24	45	10,319	229
	美濃の現代陶芸 ―伝統と創造―	平成9.12.6～平成10.2.1	43	7,016	163
経塚出土陶磁展 ―東北・越後地方に埋納されたやきもの―	平成10.2.7～平成10.3.25	40	4,052	101	
10	―中国中原に華ひらいた名窯― 耀州窯展	平成10.4.4～平成10.5.10	32	8,906	278
	大阪市立東洋陶磁美術館所蔵 安宅コレクションの至宝	平成10.5.16～平成10.6.21	32	25,347	792
	磁器の技と美 ―有田そして瀬戸へ―	平成10.8.8～平成10.9.27	44	17,181	390
	日本の三彩と緑釉 ―天平に咲いた華―	平成10.10.3～平成10.11.23	45	10,785	240
経塚出土陶磁展 ―中国・四国地方に埋納されたやきもの―	平成11.2.9～平成11.3.28	42	3,621	86	
11	―なぞのタイムカプセル― 封印された南宋陶磁展	平成11.4.3～平成11.5.16	38	15,011	395
	犬山焼 ―浅井コレクション展―	平成11.5.22～平成11.7.11	44	7,452	169
	茶の湯とやきもの ―尾張・三河の茶人たちをめぐって―	平成11.9.11～平成11.10.24	38	10,751	283
12	万国博覧会と近代陶芸の黎明	平成12.4.8～平成12.5.21	38	7,800	205
	加藤舜陶古陶磁コレクション展 ―その作品とともに―	平成12.5.27～平成12.7.9	38	6,444	170
	煎茶とやきもの ―江戸・明治の中国趣味―	平成12.9.23～平成12.11.26	56	10,421	186
13	ドイツ陶芸の100年 ―アール・ヌーヴォーから現代作家まで―	平成13.4.1～平成13.5.20	43	11,082	258
	尾張の茶道具 ―瀬戸・常滑の名工たちをめぐって―	平成13.9.8～平成13.10.28	44	8,135	185
	ルネサンスの精華 マジヨリカ名陶展 ―イタリア・ファエンツァ国際陶芸博物館所蔵―	平成13.11.3～平成13.12.24	45	10,103	225
14	アメリカ現代陶芸の系譜 1950-1990 ―自由の国のオブジェと器―	平成14.4.13～平成14.6.30	68	9,396	138
	スイスの陶芸	平成14.9.21～平成14.11.24	56	7,920	141
	ノベルティ・デザイン ―光和陶器・デザインの軌跡―	平成15.2.1～平成15.3.30	50	6,810	136
15	土と炎の世紀 ―ノリタケチャイナと製陶王国の100年史―	平成15.4.5～平成15.6.8	56	9,019	161
	桃山陶に魅せられた七人の陶芸家 ―陶片に学んだ技と美―	平成15.6.14～平成15.8.24	62	12,175	196
	歴史の風景 ―遺跡からのメッセージ―	平成15.8.30～平成15.11.16	68	7,609	112
16	近代窯業の父 ゴットフリート・ワグネルと万国博覧会展	平成16.4.3～平成16.6.27	74	6,884	93
	土と炎の芸術 ―世界の土器―	平成16.7.3～平成16.11.7	110	8,909	81
	洛陽の夢 ―唐三彩展	平成16.11.16～平成16.12.23	33	9,400	285
	桃山陶の華麗な世界	平成17.3.21～平成17.3.31	11	2,432	221
ピカソの陶芸 ―創造と伝統―	平成17.3.21～平成17.3.31	11	1,560	142	
17	桃山陶の華麗な世界	平成17.4.1～平成17.9.25	178	35,814	201
	ピカソの陶芸 ―創造と伝統―	平成17.4.1～平成17.9.25	178	21,169	119
	土から生み出すかたち 造形の軌跡 加藤清之展	平成17.10.29～平成17.12.25	50	5,030	101
	陶器が語る来世の理想郷 中国古代の暮らしと夢 ―建築・人・動物―	平成18.2.4～平成18.3.26	44	6,761	154
18	木村定三コレクションの茶陶	平成18.4.8～平成18.6.18	62	8,870	143
	発掘されたムラと宝 ―いにしへの暮らしと技を探る―	平成18.6.24～平成18.9.24	80	7,372	92
	日本のわざと美 ―重要無形文化財とそれを支える人々―	平成18.10.7～平成18.11.5	26	8,410	323
	陶磁のこま犬百面相	平成18.11.11～平成19.1.21	55	6,084	111
	ペルシアのやきもの ―8000年の美と伝統―	平成19.1.27～平成19.3.31	55	8,009	146

年度	展 覧 会 名	会 期	開催日数	観覧者数	1日平均
19	食卓の華 ―世界に愛された日本の洋食器100年―	平成19.4.7～平成19.6.10	56日	8,211人	147人
	うつわ百花繚乱 ―尾張の食器文化―	平成19.4.7～平成19.6.10	92	11,981	130
	煎茶陶芸の美と伝統 ―人間国宝 三代山田常山への道―	平成19.10.6～平成19.11.25	44	6,818	155
	幻の壺 ―本多静雄コレクションの古陶磁―	平成19.12.1～平成20.2.11	56	5,600	100
	新進陶芸家による「東海現代陶芸の今」	平成20.2.16～平成20.3.30	38	4,503	119
20	窯変の美 ―鎌倉・室町の名陶―	平成20.4.5～平成20.6.1	50	7,757	155
	李吉秀コレクション ―韓国、日本、中国、東南アジアのやきもの―	平成20.4.12～平成20.6.1	44	6,363	145
	中国古代の建築と暮らし ―茂木計一郎コレクション―	平成20.6.7～平成20.8.17	62	6,032	97
	世界の現代陶芸 ―愛知県陶磁資料館コレクション―	平成20.8.23～平成20.10.19	50	4,906	98
	海のシルクロードの出発点“福建” ―沈没船、貿易都市、陶磁器、茶文化―	平成20.10.25～平成21.1.12	62	7,552	122
やきもの収集の旅 ―愛知県陶磁資料館コレクションの軌跡―	平成21.1.17～平成21.3.29	62	6,072	98	
21	生誕90年 河本五郎展 5人の帝室技芸員陶芸家の作品展	平成21.4.4～平成21.5.31	50	6,308	126
	美在掌中 中国の小さなやきもの	平成21.6.6～平成21.7.26	44	5,299	120
	2009 アジア現代陶芸 ―アジア(日・中・韓・台湾)の現代陶芸―	平成21.8.1～平成21.9.27	50	3,347	67
	志野・黄瀬戸・織部のデザイン/桃山時代のやきものに関する展示 ジャパニーズ・デザインの挑戦 産総研に残る試作とコレクション	平成21.10.3～平成21.11.29 平成21.12.5～平成22.3.28	50 92	8,081 7,079	162 77
22	名古屋の楽焼 八事窯 中村道年へのあゆみ	平成22.4.3～平成22.6.27	74	8,909	120
	1000年前のハローワーク ―見て触れて、親子で楽しい愛知の考古学―	平成22.7.3～平成22.9.26	74	7,131	96
	帝室技芸員のわざと美 明治の人間国宝 ―清風興平・宮川香山から根谷波山まで―	平成22.10.2～平成22.11.28	50	8,047	161
	陶芸家・辻清明の眼 ―作品とコレクション―	平成22.12.4～平成23.1.30	43	4,506	105
阿蘭陀焼:あこがれのプリントウェア ―海を渡ったヨーロッパ陶磁―	平成23.2.5～平成23.3.27	44	4,930	112	
23	古陶の譜 中世のやきもの ―六古窯とその周辺―	平成23.4.2～平成23.5.22	44	5,315	121
	アンデス・メソアメリカ文明展 ―古代の暮らしと聖なる動物たち―	平成23.5.28～平成23.7.31	56	9,218	165
	東海現代陶芸 ―思考する新世代―	平成23.8.6～平成23.10.2	50	5,180	104
	開窯300年 マイセン 西洋磁器の誕生	平成23.10.8～平成23.12.11	56	13,669	244
日本人の愛した中国陶磁 龍泉窯青磁展	平成24.1.21～平成24.3.31	61	9,853	162	
24	彫刻を聞き、土を語らせる 西村陽平展/西村陽平が出会った子どもたち展	平成24.4.7～平成24.5.27	44	4,324	98
	華麗なる美の競演 初期伊万里・柿右衛門・鍋島	平成24.6.2～平成24.7.22	44	9,825	223
	戦国のあいち ―信長の見た城館・陶磁・世界―	平成24.7.28～平成24.9.30	56	6,846	122
	アール・デコ 光のエレガンス	平成24.10.6～平成24.12.24	69	10,615	154
陶家の蒐集と制作 I 清水六兵衛家一京の華やぎ―	平成25.1.12～平成25.3.24	62	9,366	151	
25	茶人のあそび心 形物香合番付の世界	平成25.4.20～平成25.5.26	32	5,757	180
	―日本・中国・韓国― 陶磁の名品、ここに集う	平成25.6.1～平成25.7.28	50	11,122	222
	2013アジア現代陶芸 ―新世代の交感展	平成25.8.3～平成25.9.29	50	3,813	76
	泥象 鈴木治の世界	平成25.10.12～平成25.12.23	63	5,956	95
モダニズムと民藝 北欧のやきもの:1950's-1970's	平成26.1.11～平成26.3.23	62	11,734	189	
26	桃山・江戸の華やぎ 古唐津・古武雄	平成26.4.12～平成26.6.15	56	7,792	139
	魅惑の陶製人形～ノバルティ、人物備、はにわ、土人形、フィギュリン～	平成26.6.21～平成26.8.17	50	9,702	194
	高麗・李朝の工芸 ―陶磁器、漆器、金属器―	平成26.8.23～平成26.10.26	56	8,619	154
	川喜田半泥子物語 ―その芸術的生涯―	平成26.11.1～平成26.12.26	48	8,346	174
	愛知ノート ―土・陶・風土・記憶―	平成27.1.10～平成27.3.15	56	5,072	91
27	耀きの静と動 ボヘミアングラス	平成27.4.11～平成27.5.24	38	8,289	218
	鯉江良二展 ―土に還る それ以前・それ以後―	平成27.6.6～平成27.8.2	50	4,887	98
	ギリシア陶器:「古典」の誕生 ―アッティカ、ローマからセーヴル、ピカソまで―	平成27.8.8～平成27.10.12	59	6,704	114
	タイル 近代都市の表面	平成27.10.17～平成27.12.23	58	4,633	80
煎茶 ―山本梅逸と尾張・三河の文人文化―	平成28.1.16～平成28.3.27	62	6,473	104	
28	沖縄の工芸 ―琉球ガラス・陶磁器・染織・琉球漆器―	平成28.4.16～平成28.6.19	56	6,371	114
	弥生への旅 ―朝日遺跡 2000年前のキャラヴァンサライ―	平成28.7.2～平成28.8.28	50	5,084	102
	人が大地と出会うとき	平成28.9.10～平成28.10.23	38	4,224	111
	くらしをうつす ―郷土の土人形展―	平成28.11.3～平成28.12.4	28	2,101	75
	ヘレンド ―皇妃エリザベートが愛したハンガリーの名窯―	平成29.1.7～平成29.3.26	68	7,914	116
29	瓦万華鏡 ～社会、地域、心をつなぐ～	平成29.4.15～平成29.6.25	62	4,159	67
	今右衛門の色鍋島	平成29.7.1～平成29.8.27	50	8,535	171
	2017アジア現代陶芸展	平成29.8.31～平成29.10.22	46	2,799	61
	染付:青繪(あおえ)の世界	平成29.11.3～平成30.1.14	56	4,686	84

年度	展 覧 会 名	会 期	開催日数	観覧者数	1日平均
30	瀬戸陶芸の黎明	平成30.4.14～平成30.6.17	56日	5,124人	92人
	知られざる古代の名陶 猿投窯	平成30.6.30～平成30.8.26	50	5,370	107
	THE YUNOMI 湯のみ茶碗	平成30.9.1～平成30.10.21	44	3,962	90
	瀬戸ーかく焼き繋ぎ	平成30.10.27～平成30.12.16	44	3,819	87
	愛知県陶磁美術館の受贈外国陶磁コレクション選	平成31.1.12～平成31.3.24	62	4,026	65
31/ 令和 元	黄金の地を南の海からー東南アジア陶磁コレクションー	平成31.4.13～令和元.6.16	57	4,755	83
	インダス文明への道ー栗田功コレクションを中心にー	令和元.6.29～令和元.8.18	44	5,840	133
	川勝コレクション鐘溪窯 陶工・河井寛次郎展	令和元.8.24～令和元.10.20	50	6,329	127
	愛知やきものセレクションー県指定文化財の陶磁器ー	令和元.11.2～令和元.12.22	44	3,593	82
	木村定三コレクションの文人趣味と煎茶ーこだわりの遊びー	令和2.1.11～令和2.3.22	62	4,311	70
2	異才 辻晉堂の陶彫ー「陶芸であらざる」の造形からー	令和2.5.19～令和2.6.21	30	2,028	68
	The 備前ー土と炎から生まれる造形美ー	令和2.8.8～令和2.9.27	44	6,324	105
	YAYOI・モダンデザインーニッポンの美、ここに始まるー	令和2.10.10～令和2.12.13	56	4,905	88
	日本陶磁の源・芭蕉ー猿投窯の前に立ちはだかった巨大な壁ー	令和3.1.9～令和3.3.21	62	4,381	71
3	海を渡った古伊万里ーウィーン、ロースドルフ城の悲劇ー	令和3.4.10～令和3.6.13	56	6,689	120
	水滴 小さき陶芸ー大島国康コレクションを中心にー	令和3.6.26～令和3.9.26	80	5,203	65
	華＊花ー四季の花と中国陶磁史ー	令和3.10.9～令和3.12.12	56	6,438	115
	昭和レトロモダンー洋食器とデザイン画	令和4.1.8～令和4.3.21	63	6,402	101

## 8 展覧会別収支決算状況

(令和3年度)

展 覧 会 名	会 期 (日数)	収 支 額		
		収 入 額	支 出 額	収支比率
海を渡った古伊万里 ～ウィーン、ロースドルフ城の悲劇～	4月10日(土) ～6月13日(日) (56日)	3,571,760円 観覧料 3,571,860円	8,830,040円	40.5%
水滴 小さき陶芸 ー大島国康コレクションを中心にー	6月26日(土) ～9月26日(日) (80日)	1,757,210円 観覧料 1,405,210円 図録収入 352,000円	3,856,410円	45.6%
華＊花 ー四季の花と中国陶磁史ー	10月9日(土) ～12月12日(日) (56日)	2,806,910円 観覧料 2,175,110円 図録収入 631,800円	9,143,930円	30.7
昭和レトロモダン ー洋食器とデザイン画ー	1月8日(土) ～3月21日(日) (63日)	2,064,860円 観覧料 2,064,860円	2,694,970円	76.6%

注：支出額は、チケットもぎり、展示室看視員の経費は含まない。

## 9 陶芸館利用

### (1) 沿革

昭和61年4月13日に、従来の「みる」から「つくる」へ一歩進めて、さらに生涯学習と陶芸文化の普及活動を展開するための陶芸実習施設「陶芸館」を開館し、平成6年4月1日に増築オープンした。

施設の概要は、鉄筋造地上1階地下2階3,541.41㎡で、本館や南館などとバランスのとれた風格のある建物となっており、陶芸実習室・施釉室・焼成室・ロッカー室及び猿投山を一望できるテラスなどの各室と、電動ロクロ16人台・手ロクロ180台・土練機2台などを備えている。

### (2) 陶芸教室

昭和61年度から平成25年度までは作陶技術を段階的に修得できるよう初級、中級、上級の3コースに分けた陶芸講座を開催したところ4,947人が受講した。

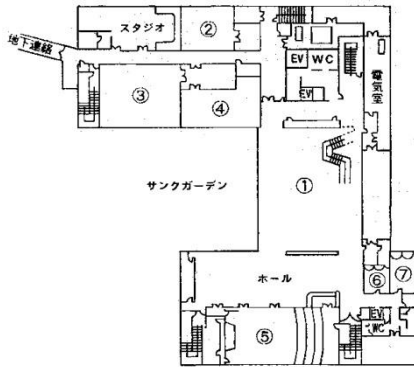
平成26年度からはやきもの作りの技術を様々な角度から習得できるように専門性の高い教室として、5～7コースに分けて開催し、下表のとおり629人が受講した。

年 度	初 級	中 級		上 級 (ろくろ)	合 計	累 計
		(Aコース)	(Bコース)			
昭和61	60人		20人	—	80人	80人
62	80人		40人	10人	130人	210人
63	80人		40人	20人	140人	350人
平成元	80人		40人	20人	140人	490人
2	80人		40人	20人	140人	630人
3	80人		40人	20人	140人	770人
4	80人		40人	20人	140人	910人
5	80人		40人	20人	140人	1,050人
6	57人		42人	34人	133人	1,183人
7	79人		65人	38人	182人	1,365人
8	75人		61人	40人	176人	1,541人
9	71人		61人	39人	171人	1,712人
10	93人		66人	38人	197人	1,909人
11	95人	59人	57人	40人	251人	2,160人
12	70人	60人	60人	40人	230人	2,390人
13	90人	55人	59人	40人	244人	2,634人
14	92人	60人	60人	40人	252人	2,886人
15	79人	53人	48人	40人	220人	3,106人
16	79人	53人	52人	39人	223人	3,329人
17	93人	33人	38人	39人	203人	3,532人
18	98人	42人	29人	36人	205人	3,737人
19	65人	30人	54人	21人	170人	3,907人
20	56人	28人	34人	32人	150人	4,057人
21	95人	52人	22人	29人	198人	4,255人
22	87人	45人	48人	40人	220人	4,475人
23	67人	58人	42人	37人	204人	4,679人
24	47人	31人	34人	34人	146人	4,825人
25	41人	24人	31人	26人	122人	4,947人
合 計	2,149人	1,946人		852人	4,947人	—

年 度	一般コース	特別造形講座コース	累 計
平成26	90人 (6コース)	10人	100人
27	73人 (5コース)	14人	87人
28	87人 (4コース)	13人	100人
29	81人 (4コース)	34人	115人
30	79人 (5コース)	11人	90人
31	91人 (5コース)	17人	108人
令和2	128人 (6コース)	休講	128人
3	118人 (6コース)	16人	134人
合計	629人	99人	862人

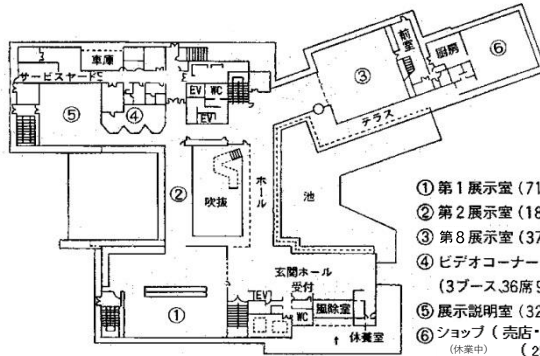
# 10 施設の規模と配置

本館 MAIN HALL B1F



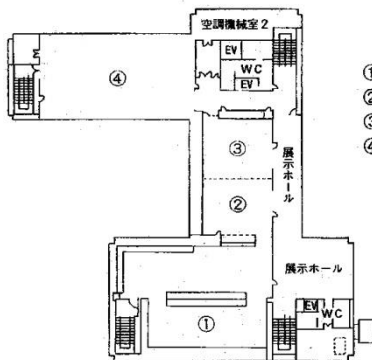
- ① 第7展示室 (568m<sup>2</sup>)
- ② 特別収蔵庫 (99m<sup>2</sup>)
- ③ 第1収蔵庫 (224m<sup>2</sup>)
- ④ 第2収蔵庫 (148m<sup>2</sup>)
- ⑤ 講堂 (218席 338m<sup>2</sup>)
- ⑥ 第1研修室 (36m<sup>2</sup>)
- ⑦ 第2研修室 (46m<sup>2</sup>)

本館 MAIN HALL 1F



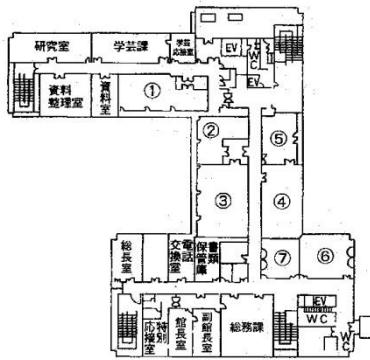
- ① 第1展示室 (719m<sup>2</sup>)
- ② 第2展示室 (188m<sup>2</sup>)
- ③ 第8展示室 (378m<sup>2</sup>)
- ④ ビデオコーナー (3ブース 36席 99m<sup>2</sup>)
- ⑤ 展示説明室 (329m<sup>2</sup>)
- ⑥ ショップ (売店・軽食) (250m<sup>2</sup>) (休業中)

本館 MAIN HALL 2F



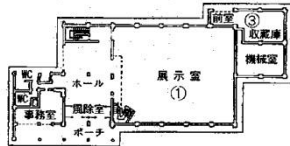
- ① 第3展示室 (766m<sup>2</sup>)
- ② 第4展示室 (238m<sup>2</sup>)
- ③ 第5展示室 (242m<sup>2</sup>)
- ④ 第6展示室 (576m<sup>2</sup>)

本館 MAIN HALL 3F



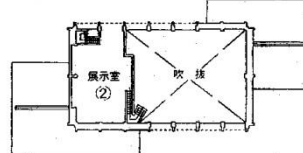
- ① 第3収蔵庫 (151m<sup>2</sup>)
- ② 第4収蔵庫 (106m<sup>2</sup>)
- ③ 第5収蔵庫 (193m<sup>2</sup>)
- ④ 図書室 (141m<sup>2</sup>)
- ⑤ 書庫 (96m<sup>2</sup>)
- ⑥ 会議室 (118m<sup>2</sup>)
- ⑦ 視聴覚室 (76m<sup>2</sup>)

南館 SOUTH HALL 1F

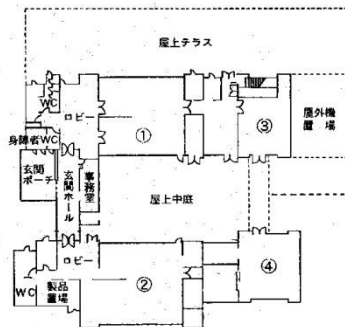


- ① ② 展示室 (976m<sup>2</sup>)
- ③ 収蔵庫 (97m<sup>2</sup>)

南館 SOUTH HALL 2F

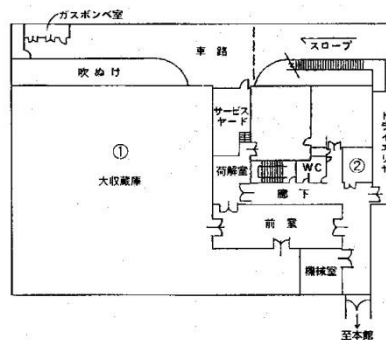


陶芸館 CERAMICS CRAFT STUDIO 1F



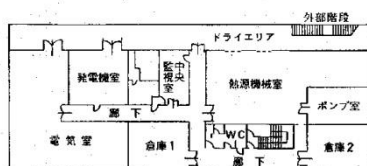
- ① 第1実習室 (176m<sup>2</sup>)
- ② 第2実習室 (205m<sup>2</sup>)
- ③ 第1焼成室 (94m<sup>2</sup>)
- ④ 第2焼成室 (106m<sup>2</sup>)

陶芸館 CERAMICS CRAFT STUDIO B1F

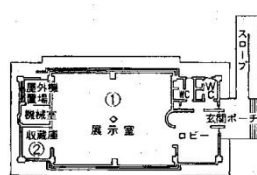


- ① 大収蔵庫 (913m<sup>2</sup>)
- ② 燻蒸室 (22m<sup>2</sup>)

陶芸館 CERAMICS CRAFT STUDIO B2F



西館 WEST HALL 1F

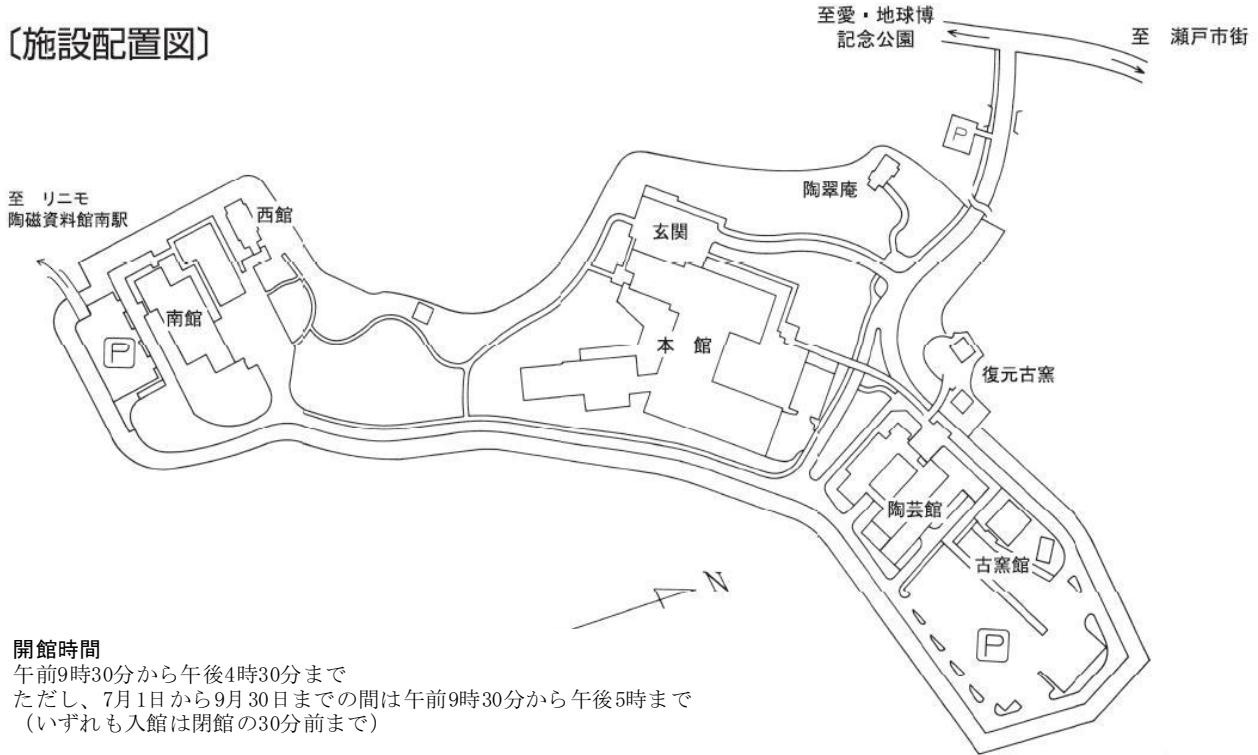


- ① 展示室 (153m<sup>2</sup>)
- ② 収蔵庫 (15m<sup>2</sup>)

陶翠庵 TOSUI-AN



## 〔施設配置図〕



### 開館時間

午前9時30分から午後4時30分まで  
 ただし、7月1日から9月30日までの間は午前9時30分から午後5時まで  
 (いずれも入館は閉館の30分前まで)

### 交通機関

- リニモ (東部丘陵線) 「陶磁資料館南」 駅下車、徒歩600m
- 自家用車・東名高速道路「名古屋 I C」・名二環「本郷 I C」から  
 瀬戸、長久手、足助方面に約10km
- 東名高速道路「日進 J C T」経由、  
 名古屋瀬戸道路「長久手 I C」から足助・瀬戸方面に約5km
- 東海環状自動車道「せと赤津 I C」から約7km
- タクシー 地下鉄東山線・リニモ「藤が丘」駅から約20分  
 名鉄瀬戸線「尾張瀬戸」駅から約15分
- 名鉄バス 名鉄瀬戸線「尾張瀬戸」駅から「愛・地球博記念公園」行き  
 「陶磁美術館」下車 (土・日・休日のみ運行)

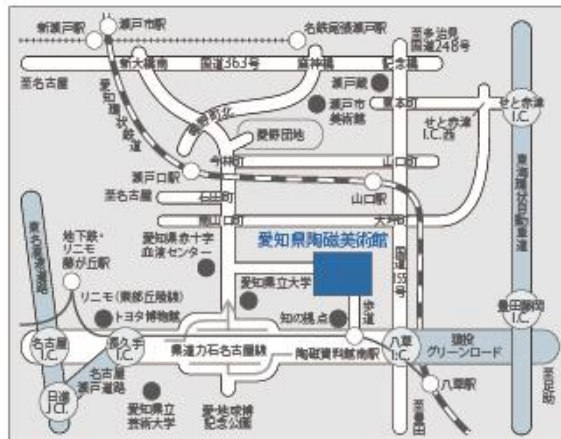
### 休館日

月曜日 (月曜日が休日のときはその直後の平日)  
 12月28日～1月4日

### 観覧料

一般 (個人)	一般	400円
	高・大学生	300円
	中学生以下	無料
団体20人以上	一般	320円
	高・大学生	240円

企画展はその都度定める。



位置図